



東京の高齢者福祉施設による、地域によりそうキャンペーン

つながれ ひろがれ ちいきの輪

in
TOKYO

2019 報告書



お問い合わせ

社会福祉法人 東京都社会福祉協議会
東京都高齢者福祉施設協議会

事務局 社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 福祉部 高齢担当
〒162-8953 東京都新宿区神楽河岸1-1
飯田橋セントラルプラザ内
TEL 03-3268-7172 FAX 03-3268-0635
URL <http://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/>

つながれひろがれちいきの輪 in TOKYO 2019 報告書

社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会

社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会

東京都高齢者福祉施設協議会は、東京都内の特別養護老人ホーム・養護老人ホーム・軽費老人ホーム・地域包括支援センター・在宅介護支援センター・デイサービスセンター約1,200ヶ所が集まるネットワークです。



は じ め に

本書は、福祉や介護サービスが必要な高齢者だけではなく、だれもが安心して暮らせるまちづくりをめざして、東京の高齢者福祉施設・事業所が地域の中で試みている様子をまとめ、伝える報告書として発刊しました。取り組みごとの実施レポートを掲載する一方、「つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO」という全都的なキャンペーンとして取組んできた背景やキャンペーンの流れについても分かりやすく伝えるよう心掛けています。また、コンパクトなサイズになっており、本書を手にとった方が活用しやすい冊子となっております。

東京都内の高齢者福祉施設・事業所における地域によりそう活動への理解を深めるとともに、地域での実践の一助となれば幸いです。

●本書の構成について

本書は、4つの章で構成されています。

I 章 図解 明日が待ち遠しい暮らしをデザインする

地域の中における高齢者福祉施設・事業所の現状や地域住民の暮らしによりそうために求められているものをつながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO実施する背景と合わせてイラストや図で解説します。また、地域の中で実践するためのポイントを「地域によりそいはじめるための10のステップ」としてまとめています。

II 章 地域のニーズにこたえるヒント～実践報告会 講演録～

2020年1月に開催された実践報告会での報告や当日あがった質問、進行を依頼していた先生からのコメントなどから、それぞれの地域のニーズや取組みでの工夫・ヒントを学びます。地域につながる中でみつけたたくさんの気づきが書かれています。

III 章 キャンペーン実施に至るまで～2019年度のふりかえり～

2019年度のキャンペーンを実施するにあたり、どのようなしかけをつくってきたか、学びの場づくりの様子やワーキングチームの活動の様子などから理解を深めます。

IV 章 きっとみつける！あなたのまちの『ちいきの輪』

～キャンペーン取組みレポート～

都内の各地の地域によりそう取組みの様子についてキャンペーン参加施設・事業所から届いたレポートを掲載しています。

目 次

I 明日が待ち遠しい暮らしをデザインする

図解 明日が待ち遠しい暮らしをデザインする

～地域の中でつながりあう施設とは～	2
地域によりそいはじめるための10のステップ	4

II 地域のニーズにこたえるヒント～実践報告会 講演録～

実践報告会の開催にあたって 文京学院大学 中島先生より	8
ちいきの事業所同士の連携 「八王子介護フェア」	9
多様な人々の参加 「なぎさ☆キッチン」	12
地域交流の意義 「屋上菜園を通しての交流」	15
町の多様な仲間たちとの連携 「ビタミンカフェのづた」	18
実践報告会のまとめ 文京学院大学 中島先生より	21

III キャンペーン実施に至るまで～2019年度のふりかえり～

つなぐれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO とは？	26
期待と注目を力に変え、工夫と継続で実り多い活動を ～地域を支え、地域に支えられる施設・事業所になろう～	28
研修会	30
見学会	32
実践報告会	34
つなぐれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO ワーキングチーム	36

IV きっとみつける！あなたのまちの「ちいきの輪」～キャンペーン取組みレポート～

実施施設・事業所 一覧	42
実施施設・事業所取組みレポート 2019	45

資料

実施施設・事業所 募集要項	160
参加状況	164
施設・事業所の合同実施状況	166
広報グッズ紹介	173
広報ツール紹介	174
つなぐれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO ワーキングチーム名簿	180

I

図解 明日が待ち遠しい 暮らしをデザインする ～地域の中でつながりあう施設とは～



明日が待ち遠しい暮らしをデザインする ～地域の中でつながりあう高齢者施設・事業所とは～

■ つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYOとは？

地域でこぼれ落ちる人がいないよう、誰もが安心して暮らせるまちを目指して、高齢者福祉施設・事業所が地域によりそうことで「ちいきの輪」をつくります。

「ちいきの輪」とは、一人ひとりの生活を、点（福祉サービス）のみではなく、面（ネットワーク）で支えること（地域包括ケアの実現）を示しています。具体的な取組事例として右記イラストにまとめています。

■ キーワード

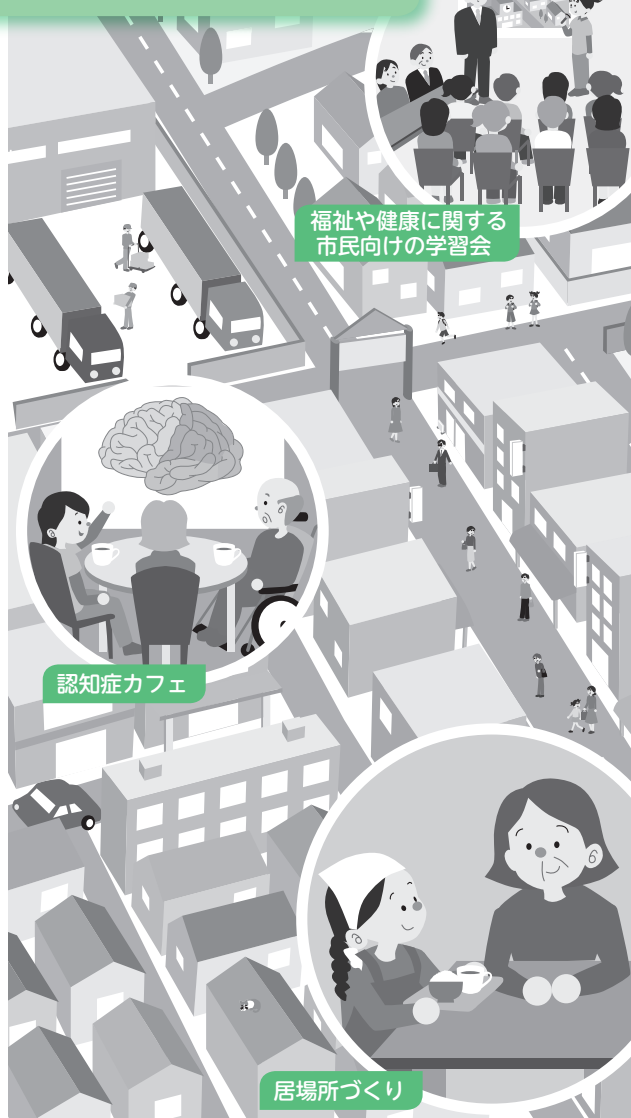
地域でこぼれ落ちる人

- ・高齢者と家族を取り巻く暮らしの課題が多様化・複雑化し、社会のセーフティネットからこぼれ落ちることを防ぐ支援が必要。
- ・東京の高齢者施設・事業所は、福祉や介護サービスが必要な高齢者だけではなく、地域で暮らす住民の役に立ちたいと願っている。

地域によりそう

- ・地域のニーズを把握し、専門性を発揮しながら、解決に結びつく活動を展開。
- ・暮らしの中でのちょっとした困りごとによりそい、地域住民にとって身近な存在として感じてもらう。
- ・広く都民全体に知ってもらうために都内の高齢者福祉施設・事業所が一体となってつなひろキャンペーンを実施。

施設・事業所も地域の一員として、地域のゆるやかな支え合いネットワークを形成するために地域に参画し、住民とかかわり、地域の高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられるはたらきかけを行います。かかわりの入口は高齢者ですが、家族・自治会・商店街などそれぞれの地域住民の個々の生活ニーズ把握を重ねていくことで、いずれは地域全体の課題をつかみ、新しい社会資源（サービス、ネットワークなど）を生み出すきっかけをつくり、最期の時まで安心して暮らせる地域の実現をめざしています。



■ 東京の地域を取り巻く課題～制度の狭間にこぼれ落ちる人～

① 高齢化の進行

2025年には、高齢者人口が約343万人、高齢化率は26.2%、都民の4人に一人が高齢者になると見込まれています。

② 孤立の増加

65歳以上の一人暮らし世帯について、2010年では約60万世帯であるのが、2025年には約82万世帯に増える見込まれています。

③ 経済的に困窮している高齢者の増加

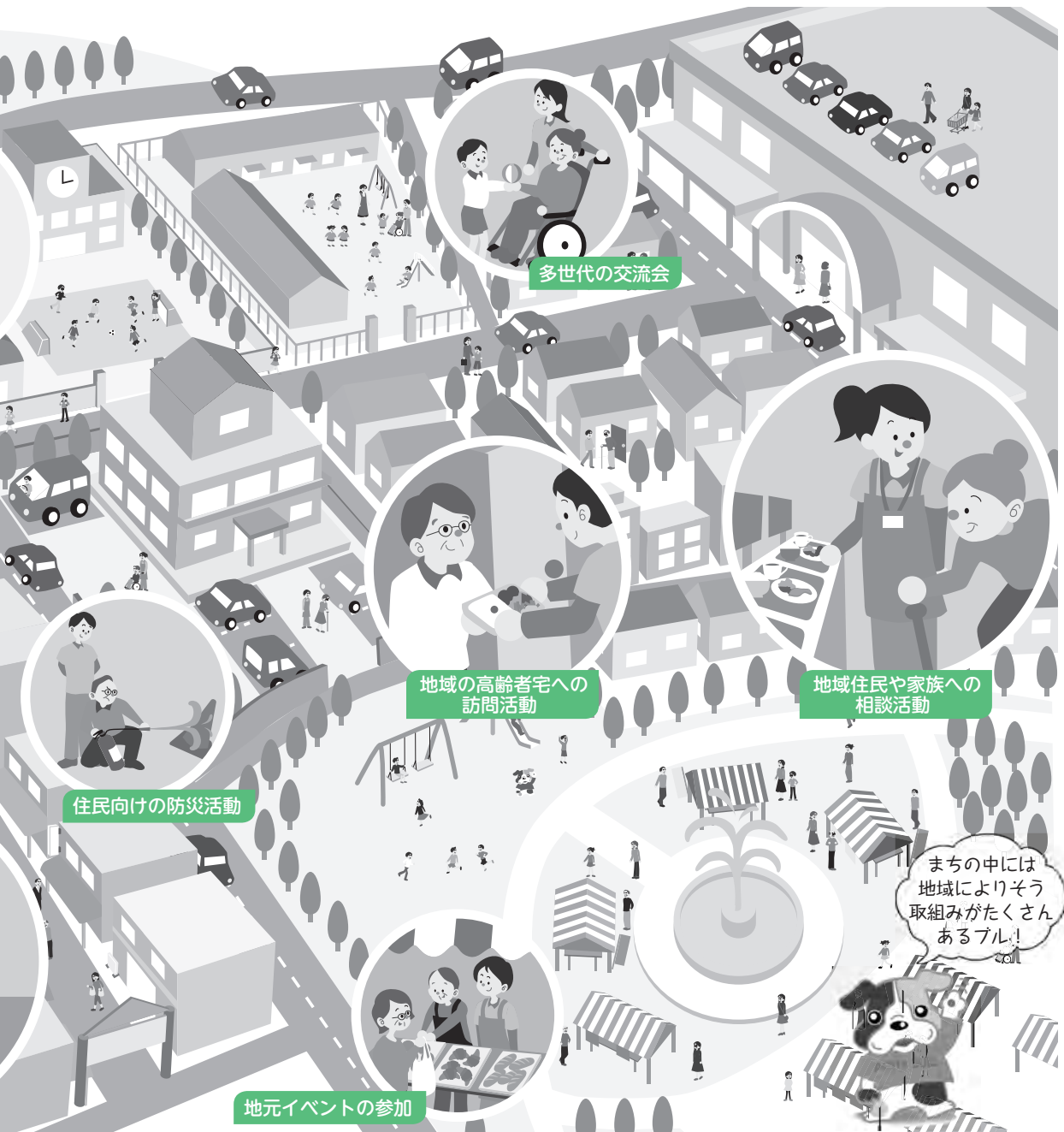
2010年1年間の所得（全国）について、高齢者世帯の40.5%が年収200万円以下となっています。

④ 多面的なかかわりの必要性

本人ならびに家族に、多様かつ複雑な課題があるため、サービスの充実だけでは対応が不十分なケースが増えています。

●【圏域別】高齢化率・高齢者数・要介護認定者数（平成37年推計値）



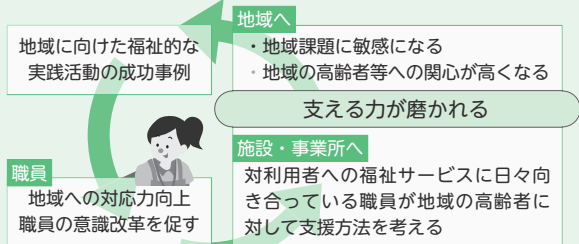


■ 地域によりそうことで生まれる効果



- ・車の両輪のように「福祉（施設・事業所利用者へのサービスの質）」「地域（地域住民全体に向けた支援）」の2つが連動して高齢者福祉施設・事業所の支援の質が高められる。
- ・1施設では、地域への対応力に限界があるため、公私にわたる多様な機関との協働が欠かせない。

■ 包括的な視点に基づく施設の福祉的な取り組みサイクル



上記の一連のサイクルを通して、新たな暮らしの課題解決に向けた視点が形成されるとともに、施設・事業所の地域のニーズに対する支える力が磨かれ、自ずと支え手としてのあらゆる可能性を引き出します。

地域によりそいはじめるための10のステップ

このページでは、高齢者福祉施設・事業所が地域によりそうために必要なことを10のステップとしてまとめてみました。すでに地域で行っていることやこれから取り組もうとしていることを見返すチェックポイントとして活用ください。ここに示しているものはほんの一例であり、高齢者福祉施設・事業所のそれぞれが取り組む上での大切なポイント(活動への効果と最初にできることなど)をから考えていくためのツールとしても利用できます。

1

STEP

地域の一員として力になる

- ⇒施設で行う特別なことではなく、従来行われている地域に馴染のあるイベント(例：お祭りなど)に協力する。施設から地域に歩みより、ともに汗をかくことで、距離感が縮まり、互いに話しやすい関係性が構築される。
- ⇒まずは、町内会のイベントをのぞき、地域の団体が集まる定例の会議に参加していく中で積極的に協力してみよう。

2

STEP

活動を応援してくれる地域の仲間を増やす

- ⇒日頃から顔の見える関係をつくり、気軽に相談できる環境をつくること。普段から考えをめぐらせていることを伝える中で共感し、活動の協力者になることも。企画を練る段階から一緒に入ってもらうことで一体感を持った取組みができ、今後のつながりとひろがり生まれやすくなる。
- ⇒地域の方々や団体などに名前を覚えてもらえるよう話かけに行く。どんなに小さなことでも頼って相談しに行こう。特に自分たちだけではできないことをする際には得意とする分野を持つ地域住民や団体を巻き込むのも1つの方法。

3

STEP

1人1人のニーズを地域のニーズと照らし合わせて考える

- ⇒高齢者福祉の現場で日々起こっている困りごととは、地域の方々の目にどのように映るのだろうか、地域の中での日常の暮らしとどのようにつながっているのだろうか。地域での出来事や暮らしの困りごと(高齢者にとらわれない)は、高齢者福祉施設・事業所の目から見てどう捉え、利用者やスタッフにつながっているのか考えて行動することで、ニーズをキャッチするアンテナを敏感に持つことができる。
- ⇒ふと立ち止まって他人事を自分事として考える時間をつくり、多くの人と共有してみよう。

4

STEP

参加者の目線に立った企画づくり

- ⇒自施設・事業所の取組みのターゲットにしている人はどんな暮らしをしている人か想像し、何を求めているのかを考えながら企画づくりをすすめる。また、実施する際はその人の目線に合わせて、どうしたら楽しんでもらえるのか、伝え方やたらしかけ方を工夫することで、地域の方がより身近に感じ、参加したいと思ってもらえる可能性が高まる。
- ⇒高齢者福祉施設・事業所の当たり前だと思っていることが、実はそうでないことを意識しながら、ターゲットとしている人が親しみを持てるようにする。

5

STEP

参加者や地域の方の自主性を高めるしくみをつくる

- ⇒使い方を覚えれば自由に施設の設備が利用できるように環境を整える、早い時期から参加している方が先輩となって教えたり、活動の協力者になったりすることで、地域の方同士の助け合いが生まれるしくみが展開される。参加者が活動の運営に目を向けるきっかけとなり、スタッフの負

担を分けることでゆるやかに長く続けられる活動に結びつく。

⇒参加者の声をじっくり聞く機会をつくり、取組みに対する率直な意見を伺いながら、現状を変えるために地域住民と高齢者福祉施設・事業所ができそうなことは何か一緒に考え、やってみる。

6 STEP できることから実践してみる

⇒地域住民や団体、高齢者福祉施設・事業所内の利用者やスタッフが地域のニーズに気づき、活動として応えたいという声に対して、自分たちが無理なく手伝えることを思い描き、地域へ発信することで、具体的な活動に結びつく可能性を高めることができる。

⇒見学会、カフェ、地域のイベントへの参画、学校の授業への協力など、取り組みやすいものから始める。施設・事業所内外の協力を得る際は計画的にかかわり、少しずつ段取りを整えていこう。

7 STEP 高齢者福祉施設ならではの強みを有効活用する

⇒取組みを行う際に新しく何かを準備する必要は決してなく、すでに身の回りにあるものを有効活用することで思いもよらない効果を生むこともある。特に地域交流スペース、リハビリのトレーニング機器、給食室などの設備などは活動する場をつくることにもつながる。

⇒まず、施設・事業所の設備や環境の中からこういったものが地域の方の日常をより豊かにする可能性があるのか1つずつあげて整理してみよう。

8 STEP スタッフも楽しみながら取組める体制をつくる

⇒ただ、お願いするのではなく、その人が得意なことをまかせ、協力者であるスタッフやボランティアが楽しみながら参画することで、活動に参加する意味を見出し、今後のモチベーションにつなげることができる。ときには、活動を発展させるためのアイデアをくれたり、新たな仲間を呼んで来たりすることもある。

⇒活動の意味・今回の目標・実施のイメージを事前に共有し、その人に合った役割をお願いしてみよう。終了後には参加者の声を伝えたり、ねぎらいの会を開いたり、取組みを楽しくふりかえられる場をつくってみよう。

9 STEP 活動の運営に困ったら具体的に呼びかける

⇒活動に必要な人・モノ・金(技術や知識も含む)を自分たちの中で用意していくには限界がある。運営上の困りごとを、より多くの方に取組みを知ってもらえるチャンスと捉え、協力できる可能性を持つ人や団体の立場に立ってできそうなことを具体的に示しながら協力を呼びかける。例えば、参加費の徴収、寄付(モノ・金)やボランティアの募集などがある。呼びかけたいターゲットに合わせて、ウェブサイトやチラシなど活動の様子を積極的に発信することでより多くの協力を得られる可能性が高まる。

⇒今行っている活動の中で課題となっていることや不足しているものを常に把握し、こういった協力なら得ることができるのかを考えて少しずつ行動する。

10 STEP 1回の活動で終わらず、次を意識する

⇒1回のイベントを行うことに満足せず、次回以降の取組みに向けての種まきを行うと、参加者や協力者が徐々に増え、活動に継続性を持たせることができる。加えて、連続して参加した人に対して意識した心配り(名前を覚える、前回の話題を出すなどのコミュニケーションをとるなど)を積み重ねることで、今後の活動への協力者になってくれることもある。

⇒次回のイベントの案内、リピーター参加における特典(プレゼント配布)など、次回へのお楽しみを用意する。

地域によりそいはじめるための10のステップ

- 1 地域の一員として力になる
- 2 活動を応援してくれる地域の仲間を増やす
- 3 1人1人のニーズを地域のニーズと照らし合わせて考える
- 4 参加者の目線に立った企画づくり
- 5 参加者や地域の方の自主性を高めるしくみをつくる
- 6 できることから実践してみる
- 7 高齢者福祉施設ならではの強みを有効活用する
- 8 スタッフも楽しみながら取組める体制をつくる
- 9 活動の運営に困ったら具体的に呼びかける
- 10 1回の活動で終わらず、次を意識する

Ⅱ

地域のニーズに こたえるヒント

～実践報告会 講演録～



実践報告会 だれもが安心して 暮らせるために地域でできること

～つなぐ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYOの取り組みから～ 講演録

※報告書掲載にあたり一部要約しております。

【はじめに】（文京学院大学 人間学部人間福祉学科 准教授 中島 修氏）

いわゆる施設がなぜこれだけ注目されるようになってきたのかということを改めて皆さんと一緒に考えることができたらいいと思っています。

私は社会福祉法人経営者協議会の専門委員をさせていただいておりまして、この間ずっといろいろな議論をしてきましたが、社会福祉法人については残念ながら国民の皆さんに知られていません。8割の人が名前は知っているけれど何をやっているかよくわからないと答えています。今まで社会福祉法人はやっていることをあまり積極的にPRしてこなかった。だけど、これからはメッセージを出していかなければいけないよね、ということで今までいろいろな人たちと議論をしてきました。

大事にしたい1つのメッセージとしては、「子どもたちが福祉と最初に出会うのはどこなのだろう？」という時に福祉施設は大きな出会いの場、福祉との接点となるということです。そして、そこから福祉を志す人だったり、福祉をイメージする人だったり、そこにはおばあちゃんが施設に入っていたり、あるいはボランティアで出かけていたり、そんな大事な出会いの場が施設となります。ですから、そういった意味で地域共生社会とか、あるいは福祉の人材が足りないと言われていますが、そういう意味での福祉法人施設の役割は大きいと思っています。

私は地域福祉が専門ですけど、これからの施設は地域のまさに拠点施設になってほしい。地域の拠点で施設が居場所になってほしいと思っています。

改めて昨年の報告書を見ましたが、とても素敵な実践がいっぱい入っています。今日もそんな報告が聞けたらいいなと思っていますし、今日は社協やいろいろな立場の人がご参加いただいていると聞いています。行政や、あるいはちょっと違う立場の方もおられると聞いていますので、そんな皆さんと一緒に共有できて話ができればいいかなと思っています。



実践報告1

ちいきの事業所同士の連携 「八王子介護フェア」

社会福祉法人一誠会 偕楽園ホーム 鷹野 さん

※詳細はP98

◆地域のさまざまな仲間を巻き込んだ取組みを！

主催は社会福祉法人3団体がメインとなっていますが、その他の協力機関として八王子市の後援を依頼することや、八王子施設長会、八王子社協、住民協議会、ボランティアコーディネートセンターや企業などからも協力を得ています。また共催として、地域包括支援センターを中心に行っている医療機関・福祉施設が参加する連絡会「滝山会」の協力も得て、33団体共同による開催となっております。この「滝山会」への参加が連携をする大きなきっかけとなりました。その他にボランティアの方にも50名ほど依頼させていただき、そのうち学生が23名、八王子市のコーディネートセンターから27名の方に来ていただき、多くの人に関わっていただくイベントとして今回で4度目の開催となりました。

主催である3法人の中で実行委員会を決め、開催までに定例会議を4回、反省会を1回行いました。準備期間中に滝山会の開催があり、その中で参加している医療機関、地域包括支援センターとの打ち合わせも行いご協力を得ることができました。

イベントの予算についても、東京都社会福祉協議会、東京都高齢者福祉施設協議会の助成金事業を活用する他、普段取引をしている企業へ協賛金を依頼し、こういった形で予算を用意することでイベントの開催を行うことができました。

当日は、地域の団体によるお囃子や、医療機関による記念講演、健康いきいき体操、出前寄席ユニットによるオレオレ詐欺撲滅漫才、地元中学校の吹奏楽部の演奏、バザーなど多くの団体からの協力をいただき、地域の方も参加しやすい催しを実施し盛り上げていただきました。それぞれのブースに各関係団体の方々に参画いただき、社会福祉法人だけではまかなえない部分を連携して行うことができたことは大きな強みであったと思います。

◆福祉、そして施設を知ってもらうために

『八王子介護フェア』は、社会福祉法人の地域における公益的な活動の1つとして、地域へ向けて情報発信をすることで社会福祉法人の専門性や資源としての活用を知ってもらうこと、また、介護の日にちなんだ地域の方々に介護を身近に感じていただくことを目的とし、「楽しく介護を知ろう」をテーマに開催しています。

会場の中には、ご利用者様の作品を展示するコーナーの設置や、介護のこと知ってもらい、介護の魅力を伝えるため、各施設でパネルディスカッションの実施、高齢者体験ブースを設けたりなどもしました。また、ご利用者の方にもステージに上がっていただき普段の活動を披露する機会も設けました。

過去4回での来場者数の推移は最初の平成28年の段階では110名ほどでしたが、2回、3回と少しずつお越しになる方が増え、今回の第4回では320名の方に来ていただくことができ、地域の方にお越しいただく、認知されてきていることにつながったのかなと思う

ております。

◆協働による強みと今後の展開

3法人を中心にまず専門的になるのは高齢ですが、医療機関や地域を絡めて、ボランティアさん、行政などの協力を得ながら開催をすることで広範囲の地域へのPRが可能となりました。また、プログラムに関しても決して1法人の準備ではここまでの充実を図ることはできませんでした。各団体での強みを活かして幅広い内容になったことであらゆる協力を得られ、充実を図ることにつながったと考えています。

今後については、地域の方により参加していただくことが必要かと思っています。地域の方に参加していただくことで、困り事や声を聞く機会にもなり、介護のことを知っていただく機会となります。「今後介護のことに関係してくることはわかってはいるけれども、今問題がなければあまり興味が持てない。」という地域の方も多くいます。介護の必要性を早い段階で知っていただくことはとても重要だなと思っており、地域の方に早い段階で福祉施設や介護予防のことを知っていただくには、こういうイベントを続けていかないとけないのかなと感じました。

もう1つは介護職の人材不足の部分に関して、未来の介護人材を増やしていくという意味でも、より若い世代の方、小学校や中学校のお子さんですとか、育児をされている親御さん等にも介護施設に興味を持っていただく必要があるのかなと思っており、そういう方々により多く参加をしていただく必要があると感じております。今回、地域の方にも大勢来ていただきましたが、各法人でつながりのある地域の方々、顔見知りになっている方が多く、やはり幅広い世代の方に多く来ていただくことが重要だと感じました。

質疑応答

<中島先生> 今、全国の特養は利用者を探しに営業に歩く時代になっていますよね。東京の生活相談員さんの調査も1番目に来るのが営業です。業務の1番目に来るのが。それくらいに、「特養があります、じゃあ利用者集まります」という、かつてのような時代ではないということですよね。と、考えると介護フェアに33団体が集まるというのはなるほどな、うなずけるなと思います。

質問ですが、110名から320名までふえたのはすごいと思いますが、これは関係者の人が多いですか。それとも地域の人が多いですか。

<回答> 内訳としては施設の職員やボランティアさんも含めた人数になっていますので、4分の1くらいは関係者かなとは思いますが。それ以外の方は地域の方々になりますので、純粋に地域の方も少しずつ増えてきているという印象です。

<中島先生> そうするとこの介護フェアは、こういう人たちに「我々の法人施設はこういうところですよ」というメッセージが発信できる場ということですね。33団体も集まってくるのは何となくわかるような気がします。最初は何団体から始まったんですか。

<回答> はじめは3法人で始めたものです。

＜中島先生＞ 3団体から始めて今は33団体。

＜回 答＞ 本当にいろいろな協力を得て。

＜中島先生＞ すごいですね。4年目で320人ということですけど、ボランティアさんや中高生もということですね。私は、まさに今質問させていただいたようなところに価値があると思っていて、「目の前のことが大事だから介護はいずれ大事になるけれど、今すぐどうこうではないんだよね」という住民の人の意見は多いと思います。だけど、だからこそなかなか情報発信する機会、あるいはちゃんと聞いてもらう機会はなかなか難しいと思うんです。けれど、こういうような場があると上手に伝えられると思いますが、参加団体の方たちはどんなことをおっしゃっていますか。

＜回 答＞ もちろん企業さんとかも含めてですが、行政にも協力はいただいているので先ほど話したように介護保険課というか、いきいき課の課長のご挨拶の参加があったりとか、前は市長にお越しいただいたりもして、介護のことに関して触れてPRをしていただくことも大きいことだなと思っています。

ポイント(中島先生より)

特養の現状は、「特養があります、利用者が集まります」という時代ではなくなってきていると思っています。どういう施設なのか、選ばれる施設になる時代ということになってきています。

そういう状況の中でこうした介護フェアの取り組みというのは、施設にとっても法人にとっても大事なメッセージを伝える良い機会になると思います。ソーシャルワーク機能のアウトリーチ事業とあるように住民の皆さんに施設の方から近づいていく。施設の方からこういうことはどうでしょうか。そういうメッセージを送っていくということも、とても大事な取り組みであって、まさに専門職がやる大事な仕事かなと思っています。住民の方にとっても、「目の前のことに追われていて介護のことまで考えられない。いつかは必要になるんだよね。」という、どこかにある心配というものを学ぶ機会になっている。こういうアウトリーチ、こちらから届けていくということは、とても大事ななと思って聞かせていただきました。

多様な人々の参加 「なぎさ☆キッチン」

社会福祉法人東京栄和会 なぎさ和楽苑 後藤 さん

※詳細はP73

◆地域に根差した施設、地域の拠点を目指して

当苑は江戸川区西葛西にて、昭和55年に江戸川区初の特別養護老人ホームとして運営を始め、当時より地域ボランティアの皆様を支えられて施設運営を行っております。

「なぎさ☆キッチン」は平成30年より開始した「地域食堂」の取り組みです。当苑では平成28年に施設長の肝いりで「地域公益活動推進委員会」が設置され、社会福祉法改正にて求められる「地域における公益的な取り組みを実施する責務」、「地域子育て支援拠点事業などを経営するものの責務」について、取組むべき役割を検討しました。「食育や学習支援の視点を持ち、放課後の居場所として子どもの健全な成長の支援に貢献すること」、「地域の集いの場として多世代交流を促進すると共に地域ニーズを把握する場としての活用」を目的とし、本イベントを開始しております。

◆役割創出と居場所、参加者同士のつながり

本イベントは毎月第一金曜日、対象者は地域の方どなたでも。予約制は取っていません。料金は小人100円、大人300円と設定しています。町自治会、小学校、公共機関等でのチラシ回覧・掲示をしてお案内をしています。イベントは地域交流スペースにて開催しており、そこには地域包括支援センターの相談カウンターもあり、日々の相談時に地域の方へご案内し参加者を緩やかに見守れる場として活用しています。平成30年8月から開始し、平均的に50～60人の方に来店いただいております。お子様が6割、保護者の方2割、高齢の方が2割くらいとなっています。その他運営スタッフとして20名ほど参加している状況です。

運営スタッフとしては、在宅サービス職員・管理栄養士・地域公益活動推進委員・特養職員等で、特養職員は内部研修の位置づけとして参加しやすい体制を整備しています。その他、学生を含む地域のボランティア、都市型軽費老人ホーム入居者の方にもご一緒にいただいております。毎回担当している従事者はニックネームのバッジをつけ、参加者の方と会話がしやすいように工夫しています。ある軽費入居者の方は以前飲食業に従事されていた経験も活かして活躍されており、「マスター」のネーミングです。お子さんから「マスター!」と呼ばれると嬉しそうな様子も見られます。

食後は、当苑に隣接している公園で「夜遊び」をします。シャボン玉や風船等、ゲーム機器ではなく、高齢者と共に楽しめる遊びとしています。見守りの目がある為、保護者の方もゆっくりコーヒータイムが持て、高齢者も交え参加者同士でも会話が弾む様子が見られます。参加者の方からは、「いつも美味しいから友達と声を掛け合ってきている」等と話してくれる小学生が多いです。3～6年生に渡り多くのグループがやってきます。乳幼児連れのお母さん方も多く、「ママ友とゆっくり話す時間がないから楽しみ」等のお声も頂いて

います。「月に1回なぎさ☆キッチンで孫と食事をするのが楽しみ。安価でアットホームでよい」等、高齢者からのお声も頂きました。また、従事者の方からは「(老人ホームに)想像以上にお子さん同士、ママ友同士、家族ぐるみで地域の方が来店されていることに驚いた」という、ボランティアさんの声が多くありました。日頃特養入居者を対象に活動されているボランティアの方が、「地域の方」とふれあうことにやりがいを感じる方も増えてきました。特養職員は「地域の方とのつながりを肌で感じる事ができた」と一様に話します。ある軽費入居者は、以前当苑特養入居者でしたが、現在の活動を見た特養職員より「軽費に移り生き生きと活動している姿、地域の方とともに過ごされている姿がすばらしい」という声があがっています。軽費担当職員も入居者の活動に感化され、「今度は軽費のリビングに子どもたちに上がってきてもらうのもいいね！」等の声も出てきています。好意的な声の反面、「業務の合間を縫いながらの事業・活動を展開することには負担感がある」等の声も聞かれます。

◆幅広く見られる取組みの効果と今後の課題

1人で来ても自然と過ごす事が出来る、世代を越えて交流することが出来る地域の居場所を目指しています。現在は小学生が主体ですが、彼らが中・高校生になり生活スタイルや世界感が変わっていく中でも、時々なぎさ☆キッチンを思い出して足を向けてもらえる様な、そんな場となりたいです。また様々な世代の生活課題等のお声に寄り添うことも意識しております。

今後は江戸川区の子ども食堂ネットワークに加入予定です。児童の課題に向き合うことが少なく理解も低い為、多くの学びや情報を得たいと考えております。

また、高齢者の社会参加の場としての機能も引き続き担ってまいります。なぎさ和楽苑でボランティアを始め、現在は地域の様々な場で活動されている方も多くいらっしゃいます。ボランティアの力で参加者への声かけや仲間づくりが進む等、地域がつながっていく様を実感しています。

最後に、最大の役割・効果が「職員の学びの場」です。より一層施設内で職員の理解・協力を求めながら「地域の皆様と歩むイベント」としていければと考えております。

質疑応答

＜中島先生＞ 高齢者のカフェは昼間が多くて意外と夜はやっていないんです。実は今、単身者の方で夜一人でご飯食べるのは嫌だ、寂しいという人が増えているのですが、そういう方は来られますか。

＜回答＞ いらっしゃいます。ただ、お声を掛け合って来てくださっている方も多いのと、ふらっとお1人で入ってこられる方も時折いらっしゃいます。運営スタッフとして相談員職の者も多く参画していますので、ご挨拶から始めて日ごろの生活状況なども世間話の中から確認させていただくことはあります。また、意図的に声をかけてお招きしている方もいらっしゃいます。

＜中島先生＞ 子ども食堂をこうやって特養で始められるところは増えてきたと思うんで

すけど、子ども食堂の関係はどうしても夜に親とご飯を食べられないということで、夜こうやって開設するところが増えていきます。私はこれを上手に活用すると孤立の方の対応にも活かせるのではないかと思います。

私は東京都の地域協議会の委員もさせていただいていますが、東京都の社会福祉法人で地域公益的取り組みをやっているのは6割です。要するに広がってはきたんですけども、まだまだこれからという状況です。

質問ですが、最後に職員の学びの場と書いていただいているのですが、一方では業務の合間で大変だという声もあります。どんなところに学びがあるとおっしゃっていただいていますか。

<回 答> 特養の職員と在宅部門の職員、また世代によっても感じ方は少々異なるかなと思っています。若い職員はお子さんにどう声をかけていいかわからなくなったりするような場面があります。逆に親の経験を終えて既におじいちゃんおばあちゃんになっている職員も多数おりますので、非常にやわらかい目で接し、自分たちの力が介護という仕事以外でもなぎさ和楽苑で活かせるんだという実感の声も直接いただきました。

親御さん世代の方たちは自宅に帰らなければいけない、家庭があるからということになると、食材の提供や遊び道具の提供など自分たちの参加しやすい方法での協力をしてくれる職員も大分増えてきました。

退勤時にイベントの様子を横目に見ながら帰っていく職員が多いことが圧倒的ではありますが、毎月やっていることは周知され、「自分でも協力できることがあるのではないかなと思っている」という声はいただいています。なぎさ和楽苑の職員として協力できること、なぎさ和楽苑が行おうとしている理念を理解できること。まずはそうした土台づくりのために私たちが「大変」と言ってはいけないと思っております。「楽しいよ」という言葉をできるだけ言うようにしながら日々実践しています。

ポイント(中島先生より)

今地域包括ケアシステムがこれだけ話題になっていて、注目されています。多くの職員の方が「地域包括ケアシステムにかかわっていきたい、自分も何かやりたい。だけど、入所施設の職員で接点がない。なかなかそういうところに自分の役割を見出せない。」という方が非常に多いです。東京都内の生活相談員の調査の中でもそういう声が見られています。しかし実際はもっと接点があるはずなんです。なぎさ和楽苑の実践はまさにそういう接点をいろいろ生み出すきっかけをくれているものであると思います。様々な世代の人たちが集る。子どもが来るということは親も来る。そうすると親も介護に触れたり、福祉のことに触れる。今は子育てしながら親の介護をする時代ですので、そういう接点もあるかもしれません。そういう中で職員がこういうことに触れる機会になったり、考える機会になったりというのは、いい機会をつくっていただいていると思います。もっと入所施設の職員が地域包括ケアにかかわっている。それをもっと発信したい。自信を持ってもらいたい。何かそういう実践の1つを見せていただいたのではないかなという気がします。

実践報告3

地域交流の意義 「屋上菜園を通しての交流」

社会福祉法人フレスコ会 フレスコ浅草 石田 さん、石橋 さん

※詳細はP63

◆施設をもっと身近な存在に！

当法人の設立は2014年で、その2年後に特別養護老人ホームフレスコ浅草を開設しました。今年で4年目となるまだまだ新しい施設です。現在、フレスコ浅草では公益活動として屋上菜園と地域交流室の無料開放を行っております。地域交流室の無料開放ではNPO団体のイベント時に使っていただいたり、地元の町会の話し合いの際に使っていただいたりしています。今回は屋上菜園に焦点をあてて発表を行います。

はじめにきっかけについてです。当施設は7階に地域交流室があるのですが、地域の方と交流ができていなかったのも地域の方が集まれるような何かをしたいと思います。また、施設が地域の方にとってもっと身近でふらっと立ち寄れるような場所にしたいと思ったのがきっかけです。

取り組みを始めるにあたっては、台東区社協に地域のニーズとしてどのようなことがあるのか相談をしました。そこで上がったニーズとして「地域でひとり暮らしをしている高齢者が増えていること」、「核家族が多く世代間交流が少ないこと」、「地域子どもたちが土に触れる機会が少ないこと」が、あげられました。その中で私たちは地域子どもたちにとって世代間交流が少ないというニーズと、土に触れる機会が少ないというニーズに焦点をあてて屋上菜園を実施することにしました。

取り組みの開始に当たっては改めて台東区社協に行き、協力してもらえる団体がないか相談をしました。そこで紹介していただいた、ジェイバックと一般社団法人遊心と連携して取り組みを開始しました。ジェイバックは有機野菜づくりを教えてくださいと、遊心は親子での自然遊びを提供している団体です。

実際の実施内容については月に2回、ジェイバックと野菜の手入れを実施しています。また、交流会に向けて毎日の水やりや細かな手入れは入居者様と行っています。月に1回遊心と協力をして施設に子どもを招き交流会を実施しており、入居者様も一緒に野菜の手入れや収穫を行っています。

交流会では、育てた野菜の葉っぱやお花を使って絵はがきや風鈴づくりをしたり、季節を感じられるレクリエーションを行ったりしています。11月には収穫した野菜を使用して、鍋パーティも実施しました。触れ合っている入居者様の表情はとても明るく、月に1度の交流会を楽しみにされています。子どもたちも回数を重ねるごとに自ら入居者様に歩みより話しかける様子が見られるようになりました。

参加していただいたお母さんからは、「育てた野菜を子どもたちと一緒に調理をして食べられるとは思わなかったのも、とても楽しくうれしいです」との声をいただくことができました。

1年間の屋上菜園を通して地域の子育てファミリーとつながり、世代間交流を進めてき

たことで、そのかわりから施設で行う防災訓練にも地域の子もたちが参加してくれるようになりました。防災訓練では非常食の試食会、防災紙芝居の読み聞かせ、起震車体験などを行いました。東日本大震災を経験していない子どもたちだったため、起震車に乗った子どもたちは大きな揺れにとても驚いていました。未就学児と参加されたお母さんからは、「子どもを抱っこしながら机の下に隠れるのは難しく、どう子どもを守ればよいのか考えさせられました。」と、災害時の対応について考えていただくきっかけとなりました。また、当施設が避難所となっていることを知らないお母さんもいらっしやり、避難所を知っていただくいい機会となりました。

◆活動を通して得たもの

実際の活動を通して得たものについては1つ目に世代間交流です。子どもたちが屋上菜園に参加することで普段かわることの少ない高齢者と交流できるいい機会となっています。

2つ目に食育です。子どもたちが実際に野菜を育て食べることで、食べることの喜びや育てることの達成感を感じてもらっています。

3つ目は、入居者様はもちろんですが参加する全ての人の楽しみにつながっているということです。入居者様の中で育てた野菜についての話題が上がることも多くなり、楽しみにつながっています。また、屋上菜園を通して地域とのつながりを実感できてうれしいという職員が多く、職員のモチベーションアップにもつながっています。

課題としては施設職員の理解に差があることや、野菜が育たない期間や収穫直後に提供できる活動が少ないこと、参加している子どもの人数が少ないことがあげられます。屋上菜園以外の施設主催で行える企画や、施設職員全体が関心を持ち、多くの職員がかかわれる企画などの検討も今後進めて行きたいと思っています。現状は近所の一部の子どもたちしか屋上菜園を通しての活動にかかわれていないため、参加する子どもたちを増やし、より地域とのかかわりを深めていけるようにしたいと思っています。近隣に保育園があり、お声をかけたところ屋上菜園に興味を持ってくださったため、合同のイベントを企画するなど活動の幅を広げていきたいと思っています。

最後に地域のニーズに合わせた活動の実施です。防災訓練以外にも地域のニーズに合わせたものを企画し、地域の人たちに参加してもらえるようなかわりをしていきたいと思っています。

質疑応答

<質問者①> ジェイベックと遊心さんとはどういうふうな形でつながっていったのでしょうか。

<回答> ジェイベックと遊心さんなんですけれども、社協に紹介していただいて、そこからつながって今回屋上菜園の活動をしています。

<中島先生> 地域ニーズのことなんですけれど、とても大事なところだと思います。ひとり暮らしが増えているということを、どのような形で把握をしたのか教えてもらって

いですか。

＜回 答＞ 地域ニーズの件ですが、こちらも社協さんにニーズを聞いて抽出したものになっています。当施設はショートステイと特養しかなくて、居宅とつながる手段がほかの施設に比べて少ないという弱点といえますか、弱みがありまして、そこを社協さんとながらすることでニーズを抽出しました。

＜中島先生＞ そういう意味でこういう取り組みをすることで、地域とのつながりがなかなかつくりにくいところが、できるようになってくるということですね。

それで野菜をつくって交流会、鍋パーティいいなと思ったんですけど、支援を受けているばかりはなかなかしんどいんですよね。例えばなんですけれど、野菜が育たない期間、収穫した直後に提供できる活動が少ないということがありますが、施設で花をつくるのはしていますか。

＜回 答＞ 現在はしていないんですけども、今後はしていく予定でジェイベックさんと今話し合いをしている最中です。

＜中島先生＞ 例えばお花を育てて、育てたお話を施設に飾ってもいいし、地域の行事にプレゼントしてもいいですよ、寄附したりとか。そういうような形で利用者が何か地域の役に立つというような視点もいいかなと思って聞いていました。そうすると子どもたちとも一緒にそんなことができたりするのではないかと思います。

ポイント(中島先生より)

今お話を聞いて事業所自体がなかなか地域とつながりにくいところがあったので、そういう意味でこういう事業はとても意味があると思って聞いていました。社協さんと上手につながって、ジェイベックさんと遊心さんにつながって実践できているのがとてもいいと思いました。子どもを増やすとか、保育園とのカリキュラムとありましたが、まずは身近な子どもたちのところから取り組んでいくことでいいのかなと思っています。できれば、先ほどのなぎさ和楽苑の事例ではないですが、子どもたちとかかわるということはイコールその周りの大人たちを巻き込んでいってもらえると、さらに広がりが増えておもしろい取り組みになるかなと思いました。

町の多様な仲間たちとの連携 「ビタミンカフェのづた」

社会福祉法人 福音会 鈴木 さん、戎 さん

※詳細はP101

◆地元サッカーチームFCまちだゼルビアとの出会い

今回、私たちが認知症カフェを行いたいと思ったきっかけは、認知症の当事者でも家族でも、また、認知症のことを知らない人も、誰もが気軽に集える憩いの場所があるといいなという思いからでした。そんな思いから名前を『ビタミンカフェのづた』に決定。カフェづくりが始まりました。

カフェを開くにはまず場所の確保が必要です。当初は当施設がある野津田事業所での開催を検討していましたが、当施設が長い急坂を上がらなければたどり着かない丘の上に立地する一方で、住民の大半が平坦地に自宅があるため気軽に立ち寄ることができないため断念しました。そんな中、通いやすく和やかな雰囲気の中でおいしいお茶が飲める場所はないだろうかと探していたところ、地域の中にぴったりの場所を見つけました。それが地元サッカーチーム、FC町田ゼルビアが運営する食堂、ゼルビアキッチンです。FC町田ゼルビアは地域密着型のサッカーチームで現在J2に所属しています。「地域の発展に貢献できるクラブ」を、理念として掲げているゼルビアにはホームタウン活動というものがあり、イベントへ選手やチームマスコット『ゼルビー』の派遣や場所の提供、また、健康で活動的な毎日を目指す地域の方々に、スポーツ選手が必要とする栄養素を取り入れた食事をお届けしたいという思いから、ゼルビアキッチンを運営しています。ホームタウン活動の中で当法人と関わりを持つことも多く、そのご縁もあり、ゼルビア事務局に相談しカフェの主旨、内容について説明を行うと、地域貢献活動の一環としてゼルビアキッチンでのビタミンカフェ開催の快諾をしていただきました。その後キッチンの責任者と打ち合わせを実施。営業中の店内で実施するため、仕切りのある奥のスペースを使用することとなりました。日程や費用については、参加者はドリンク代のみ自費とし、100円程度かかるデザート分は施設負担としました。また、食堂の特性を活かし、ランチ開催の日を設け、認知症に聞くオリジナルカレーの提供もお願いすることとなりました。

◆自然とつながり、ひろがるちいきの輪

場所が決まった後は、高齢者支援センターに相談し、市内の認知症カフェを数カ所見学させていただきました。見学を通して仲間がいることの心強さを感じました。地域のニーズに根差した内容にしたいということもあり、自治会長や民生委員の方々等に声をかけ、認知症カフェ実行委員会を発足、どのようなカフェがよいのか模索しました。「私たちが目指すカフェは認知症当事者、介護者だけでなく、認知症を知らない人を含めてどのような人がみえてもホッとできて元気になれる場所にしたいよね」ということを確認し動き出すこととなりました。

2017年9月から12月、プレオープンとして発足プロジェクトを実施。毎回アンケート

を実施し、カフェの参考としました。そして、2018年1月『ビタミンカフェのづた』をオープン。プレオープンの際、学びの時間を待ちたいという意見もあったため、前半の20～30分を学びの時間、後半の30～40分を交流の時間とした。

実際に初めて見るとゼルビアキッチン、民生委員、自治会、まちだ丘の上病院、グループホーム連絡会協会、アニマルセラピー協会など多くの方々の協力があり、継続してカフェを開催していく中で地域のさまざまな団体から「私たちに何かできることはない？」お声かけいただきました。自分たちだけで頑張ろうとしなくてもいいんだ、というのが正直な感想で、このカフェはみんなでつくり上げていく、そんなカフェになっていけばいいんだなと思いました。

◆継続することの大切さ

子どもたちが高齢者を通じて認知症に触れ合う機会をつくりたいという主旨で、2019年8月ゼルビアキッチンにて認知症キッズサポーター養成講座を開催しました。子どもたちに大人気のチームマスコット、ゼルビーも参加。ゼルビーの腕に巻くオレンジリングも参加者全員で作成しました。

今後はキッチンの担当者とも相談し、キッチンを使用した料理教室、食育なども開催する予定です。ゼルビア事務局の担当者さんからも「これまでは単発的にかかわることが多かった中、ビタミンカフェが唯一継続的に行っているゼルビア福祉アシスト活動なので、今後も支援を継続して地域の発展に貢献できるクラブを目指していきたい」と、お話をいただきました。

カフェが始まって2年。少しずつだが、□コミで地域の方々の参加も増えてきました。高齢者の参加も多いためスポットでの送迎サービスも行っています。ビタミンカフェには当法人の入居者(軽費・特養)も数名参加。地域の皆さんとの交流を楽しみにしています。2年間毎月カフェを開催することで顔なじみとなった関係ができているからこそ、互いが互いを気遣い、「元気にしていたの？今日も会えてよかったわ。」そう言い合える関係性ができてきています。いろいろな人がいて、互いを認め合い、尊重することができる。私たちが当初から大切にしている誰もが気軽に立ち寄れてほっとできる場所に少しずつ近づいているのかもしれませんが、これからも自分たちのペースで皆さんがほっとできる場所をつくり上げていきたいと思います。

質疑応答

＜質問者①＞ ビタミンカフェ発足プロジェクトの11月に認知症サポーター養成講座をして次の月にプレオープンを迎えていると思いますが、その講座を受講した方が実際に1カ月後のビタミンカフェオープンの時に継続性を持ってつながっていただくようにした具体的な工夫やその後の後追い、実際にボランティアとして活動をしていただいているなど、つながりがその後あったかどうかを教えていただければと思います。

＜回 答＞ 認知症サポーター養成講座に結構な数の方が参加していただいて、その時に来月はプレオープン、その次はオープンになりますという宣伝もしたので来てくださった方には全て名簿をいただきました。数名の方がプレオープンの時に来てくださったり、

その後の活動にも参加してくださっています。ただ、継続的に毎月サポーター養成講座を受けた方が来ているかという、やはり来られない日もあったり、来られている皆さんがそれぞれ役割を持ってやったださっている、[私は特に大きな役割はなさそうね]と、言って1回引かれる方もいらっしゃいます。できるだけ来ていただいた方には継続的に来ていただくように次のチラシはもちろん、数カ月分のチラシをまとめて配るようになっているので、そちらを見て興味があるテーマだったら来てくださいますか。あとは逆にその方が興味があるテーマはどんなことがありますか？とお話を伺って継続的に来ていただくような工夫をしています。

＜質問者②＞ 利用者の送迎があったと思いますが、どんな方法、どんな方、職員がやっているのか、ボランティアがやっているのか、あとはどの車を使っているのか。そんなところを教えてください。

＜回答＞ 送迎サービスについては、事業所が山の中腹にあるので、軽費老人ホームの方、特養の方が参加される時にどうしても車を出さざるを得ないんです。なので、その時に小さい車で行くのではなくて、ワゴン車などの大きな車にして職員が運転して、例えば野津田事業所に直接来ていただいて、そこから乗って来られる方もいらっしゃいますし、お家へ送迎することはできないので、途中のコンビニに集まっていただき、そこで乗っていただいてお連れするとか。そうしたスポットを設けるという形でやっています。軽費老人ホーム・ICA、あとは特養の方も参加されているので、送迎車には大体7～8名くらい乗られる方が今いらっしゃる現状です。

ポイント(中島先生より)

1つはやはり楽しい、わくわくするって大事ですね。Jリーグのチームと一緒にカフェをやるって楽しいしわくわくしますよね。そういう取り組みをやっていくと職員に元気が出てくるし、地域のいろいろな人たちもわくわくして取り組みますから大事だということです。

2つ目は認知症カフェ実行委員会の立ち上げについてです。「自分たちだけでやらなくていいんだ」というのはとても大事です。行動していくこと、そして連携していくことが大切であると思います。

3つ目がいわゆる役割創出です。これまで認知症サポーターは認知症の理解だけしてくれればいいんですと言いつけてきましたが、去年くらいから、それだけじゃ困ります、何か活動をしてくださいと方向転換しました。やはりいかに役割をつくり出していくかということもすごく大事なことで、そういう視点も入っているかなと思いました。

4つ目は単発ではなくて、継続的な活動であること。FCまちだゼルビアさんも地域の発展に貢献できるクラブを目指しているわけだから、そういう継続的な活動ができてうれしい。こういう部分が一致して実践としてなっているところがすばらしい実践だったと思います。

【おわりに】（文京学院大学 人間学部人間福祉学科 准教授 中島 修氏）

4つのご報告を聞き私がコメントをした内容は10点ほどあります。それを振り返りながら少し話をしていこうと思います。1点目は、福祉施設は住民にとっての福祉の入り口であるということです。ボランティア体験での関わりだったり、「福祉」というと施設というイメージを多くの人たちが持つわけです。そういう意味では皆さんの施設が地域に開いていく、開かれていくことはとても重要な役割を果たしているということを1点目にさせていただきました。

2点目は福祉施設を地域の拠点にしていきたいという話。そして、選ばれる施設になっていく必要があるかもしれないという話をしました。要介護3以上ということが特養にとって1つの基準になる中、そして先ほども軽費老人ホームの人と話をしている中で1、2の人が入れなくなりましたから、軽費老人ホームにそういう人たちが来るようになってきています。制度が変わっていく中で施設のありようも変わってきているし、期待される役割も変わってきており、特養も住民の方々に「いずれはそこでお世話になるんだ」、「私は将来あそこに入るんだ」、「だから安心なんだ」と地域の人たちに思ってもらえるような、言ってもらえるような施設になることが重要であり、そのためには普段からつながりがあるといいですね。

今日の報告ではなぎさ和楽苑が『地域福祉推進課』という名前をつけていて素敵だなと思いましたけれど、埼玉のある施設では、地域包括支援センターがないのに地域包括ケア課をつくっている特養があるんです。そして地域に入っていくって、日常的につながりをつくって、ヘルパーもあそこの施設、ケアマネもあそこの施設、デイサービスもあそこ、ショートもあそこで安心と、そういうようなところにつながりを持っていけるといいなと思っていることが2点目です。

3点目は福祉施設から地域住民に近づいていくアウトリーチ事業です。まさに今日最初にあった偕楽園の実践がそうだったかなと思いますけれども、ソーシャルワーク機能のアウトリーチ事業ということで話をさせていただきましたが、やはり施設のほうから住民の方に近づいていって、こういうことを学んでほしい、こういうことを知ってほしいという働きかけも大事だと思って聞かせていただきました。1年目は110名だった参加者が320名というのはすごいですよね。この発展の形がすごいと思います。皆さんの地域にも介護フェアを始めているところがあると思いますが、33団体でやっている。八王子は施設が多いところだと思いますが、とても大事なつながりなのではないかと思って聞かせていただきました。

それから4点目です。地域包括ケアシステムの中での福祉施設の役割です。地域包括ケアはすごく国も言って、馴染んできていますが、入所施設の職員はなかなかコミットしていけない。でも何かやりたいと思っている。そういう中でこういう地域とつながって活動をしていく実践が施設の中にあると、そこにつながっていける。そして地域のニーズがこうやってわかってくる。こういうような地域のつながりが生まれてくる。そういう地域包括ケアシステムの中での福祉施設の役割をぜひこの機会に考えてもらいたいと思います。地域包括ケアは地域包括支援センターだけがやっているわけではありません。ショートステイでもやっています。皆さん緊急ショートをやっているじゃないですか。家庭が困った時に施設が支えていますよね。地域を、介護者を。ですから、そういうようなことを持っていったら、もっともっと考えられるのではないかな。その時に住民の顔が見える、普段からこういう実践があるといいですよなと思ってコメントをさせていただきました。

5点目ですけど、なぎさキッチンの取り組みなどから孤立への支援対応ということに少し触れさせていただきました。今、孤立の問題は本当に大きな問題になっています。やはり

多くの人たち、地域の人たちも要介護度の高い人については関心がいくし、あるいはお金を持っていて生活がぎりぎり年金も大変でという人には支援の目がいくんですけど、ネクタイを締めてスーツ姿で行くところないけれど2年間ぶらぶら地域を歩いている人の孤立の問題までは皆さん関心がいかないですね。しかし、これは結構深刻な問題なんです。定年退職後の男性。我々もそうならないように気をつけないといけませんが、そういう孤立の問題へのアプローチも重要だと思います。

さっきちらっと言いましたが、実は夜ひとりでご飯を食べるのが寂しい。だから、どこかで誰かと一緒にご飯を食べたい。そこに子どもたちがいたらとてもいいじゃないですか。子ども食堂で高齢者の方がニコニコしながらご飯を食べる。あるいは身寄りのない男性の方が一緒に子どもたちに、ちゃんと片づけなくちゃだめじゃないかって言いながらご飯を食べている。そういう高齢者の方がいてもいいじゃないですか。ボランティアをしてくれてもいいと思います。何かそんなことを感じて、なぎさキッチン16時半から19時まで夜のキッチンはいいなと思って聞いていました。そういう視点で子ども食堂を見つめてみると、また新しい可能性が見えてくるかもしれないですね。子どものためだけにやる子ども食堂ではなくてということです。

6点目は利用者が地域の役に立つということで話をしました。フレスコ浅草の実践の中で、屋上菜園で野菜をつくってみんなで食事をすることがありました。自分たちがつくった野菜がそういうイベントに使われる。まさに楽しみだと思います。それでお花はどうですかという話もしたのですが、何か自分たちのつくったものが役に立つ、いいんじゃないでしょうか。

豊島区の区民センター・交流センターというところがあります。そこで高齢者の方が物をつくっているんですけど、物をつくっているだけじゃ物足りないから、これを販売しよう。販売して売り上げを子ども食堂に取り組んでいるネットワークに寄附しようと寄附を集めたんです。高齢者の目の輝きが変わってきました。ただ、つくっているだけじゃなくて、自分たちのつくった物が役に立つ。こういう役割創出、こういう役割を考えていく。あるいは普段は支援を受けているけれど、自分も何か地域の役に立ちたい。そういう視点で利用者の方が自分も何か地域の役に立ちたい、自分も地域に貢献しているんだ。役割と出番です。こういう視点で考えていくと、施設が地域とつながる意味もまた広がってくるのかなという気がして実践報告を聞いていました。

それから、7点目です。先ほど福音会の実践を聞いていましたが、やはり実践は楽しくてわくわくするのが一番です。そういう活動に職員は元気が出ますし、そういう「おもしろい」、「へーっ」という実践をやっているところには、大学生はどこの施設がいいかなと見ているとおもしろそうな施設に見学に行ってみたくくなりますよね。そういう意味ではやはりこういう企画を考えていくことは働いている職員自身が元気になるし、利用者も元気になるし、そして新しい人たちを呼び込む可能性になってくるのかなと思います。こういう楽しさ、わくわく感を普段の仕事の中にどう取り入れていくのか、結構大事ですね。日々同じ仕事が続いていく中で、そういう中にいかに元気になる要素を入れていくか、ビタミン要素を入れていくか。素敵だなと聞いていました。

そして、意外と仕事を個人、担当で抱えがちですが、みんなでやる、協働、連携する。そういう楽しさや意義を認知症の実行委員会で、また市内の認知症カフェとか、いろいろなカフェを見学に行って、多分そこにびびっと来たんじゃないかな。実践のすばらしさですけど、何を見てきたんですか？と質問したかったのですが、多分そういうところに目をつけて、「私たちはみんなで一緒にやるカフェをやりたい。」「誰もが来られるカフェをやりたい。」そう

いう思いの中で自分たちだけでやるのではなくて、みんなで役割を持ちながらやっていきたい。多分そんなことを企画されたのではないかと思います。だから、最終的には「何だ、自分だけでやらなくていいんだ」という言葉になっていましたけれど、本当はもともとその視点を持っておられたのではないかと思いますので、聞いていました。

そして先ほど言いましたが、単発ではなく継続して活動をしていくことの大事さ、もちろん単発の活動は夏祭りなど、こういう活動も大事ですけど、継続して活動をすることによっていろいろな人たちを巻き込んでいくことができる。そして、それが1つの評価にもつながっているのではないかと思いますので、ゼルビアの担当者さんの声が素敵だなと思いました。

そして10点目最後です。やはり認知症サポーターなどの人材の活用と役割創出。これは4つの実践全てに言えることですが、いかに役割を創出していくのか。最初の1つ目の事例においても多分33の団体がかわっていく中で、いろいろな団体の人に役割を持ってもらいながら進められているのではないかと思いますし、そして認知症サポーターの方にもこういう役割を持ってもらいたい。そういうようなこと、やはり我々担当者で考えていくことがとても大事ではないかと思って聞いていました。

以上の10点でございます。

改めてもう一度言いますと、1つ目は福祉施設が住民にとって福祉の入り口なんだということ。

2つ目は福祉施設を地域の拠点に、選ばれる施設になりましょう。そのためには施設を魅力的にすることが大事です。

3つ目は福祉施設から地域住民に近づいていきたいと思います。我々から住民に近づいていこう。そのためのアウトリーチ、届ける福祉、こちらから近づいていきたいと思います。

4つ目です。地域包括ケアシステムの中での福祉施設の役割は何だろうということです。地域包括ケアはいろいろですね。医療・介護・生活支援・住まい・介護予防、さまざまな暮らしの中での支援ですから、そういう意味での入所施設、施設機能はいろいろな役割があるのではないかと思います。

5つ目が孤立への支援の対応、社会的孤立が大きなテーマになっていると思いますので、ぜひここも地域の取り組みをやっている時に考えていただきたい。

6つ目は利用者が地域の役に立つ、そういう視点です。こういう視点を持って利用者はいつも支援を受ける側ですけども、何か地域の役に立つ、喜んでもらう。

そして7点目が楽しい、わくわくする、楽しさは非常に大切な実践の要素ではないか。

8つ目がみんなでやる、協働・連携。つまり役割を少しずつ分かち合うということですね。1人がたくさんの役割を抱えるのではなくて、いろいろな団体、いろいろな施設の人が役割を少しずつ持ちながらみんなでやる。みんなで出番をつくる。役割をつくっていくということでございます。

9つ目が単発ではない、継続活動の大切さというところを学んだと思います。

最後はこうした人材の活動、役割創出ということでございます。

こうした10点のことについて話をさせていただきました。

今日の4つのご報告を聞いていて施設が地域とつながる、「つながれ ひろがれ ちいきの輪」4年目ということですけど、そういう可能性をすごく感じさせていただいたかなと思います。ぜひこの実践を参考にさせていただいて皆さんで情報交換をしていただいて、うちにはこんなことができそうだな、こういうようなことをやってみたいなと、そんなふうなことをイメージしていただければありがたいかなと思います。

Ⅲ

キャンペーン実施に 至るまで ～2019年度ふりかえり～



つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO とは？

東京の高齢者福祉施設がお互いに協力しながら、地域によりそためのイベントや交流会を各地で一斉におこなうキャンペーンです。

地域包括ケアを推進し、だれもが安心して暮らせるまちづくりのために、地域で暮らす方々がつながり、その輪がひろがることをめざしています。

豊かな暮らしを支えるしくみがととのえられていく中で、高齢化の進行、社会的な孤立の問題、生活への困窮などが課題となっています。

そこで、「地域の中で、制度の狭間でこぼれ落ちる人がいないよう、一人ひとりによりそうこと」「一人ひとりの生活を、点(サービス)のみではなく、面(ネットワーキング)で支えるための『ちいきの輪』をつくること」を展開するための1つの方法として地域の多様な人びとをつなぐ取組みを行っており、今回で4年目を迎えます。

2019年度 キャンペーン実績

実施期間 2019年9月1日～11月30日

事業数 都内47区市町村で118事業・868団体

参加数 延べ33,748名

※台風の影響等により中止となった事業あり。

※詳細はP164参照

「Ⅳ きっとみつかる！あなたのまちの「ちいきの輪」(P41)」では、今年度のキャンペーンにおける各施設・事業所の取組みについて区市町村別に下記のテーマと合わせて掲載しております。

キャンペーン取組みレポート テーマ一覧

	テーマ	内容例
Ⅰ 支える 高齢者を	1 認知症	・ 認知症カフェなど認知症高齢者やその家族を対象とした事業
	2 介護予防・高齢者支援	・ 介護予防教室など、高齢者を対象とし、閉じこもり防止や交流を目的とした事業
	3 アウトリーチ	・ 高齢者や地域住民を対象とした訪問・見守り・配食活動
Ⅱ 支える 多世代交流を	4 相談・家族支援	・ 福祉や介護に関する相談の場の提供 ・ 介護をする家族を対象とした講座
	5 カフェ・居場所	・ 多世代を対象としたカフェなど地域住民の誰もが交流や食事ができる場所の提供
	6 学びの機会	・ 地域住民に対する学びの場の提供
Ⅲ 地域を支える	7 地域団体との協働	・ 1つの施設・事業所だけでなく自治会や学校など、地域団体やその他の団体と複数で協働して行っている事業
	8 地域交流	・ 地域住民を招き、交流する事業
	9 防災	・ 防災訓練や福祉避難所など、地域の防災に関する事業

高齢者福祉施設・事業所での取組み例



いずみサロン

認知症の方やその家族、地域の皆さんが自由に集まり、お茶を飲みながら楽しく交流できる場として実施しています。

(社会福祉法人 フロンティア デイサービス長崎いずみの郷／豊島区)

詳細はP56

楽友祭

法人のキャッチコピーである「人と人を笑顔でつなぐ」をモットーに、多世代の方に足を運んでいただき、楽しみながら楽友会を知ってもらい、身近に感じていただくお祭りです。

(社会福祉法人 楽友会／多摩市)

詳細はP104



お年寄りの手作り作品展

高齢者福祉施設、在宅生活の高齢者、地域住民の手作り作品を展示。地域交流と高齢者福祉の理解促進をはかるため開催しています。

(東村山市高齢者施設連絡会／東村山市)

詳細はP128

期待と注目を力に変え、工夫と継続で実り多い活動を ～地域を支え、地域に支えられる施設・事業所になろう～

社会福祉法人秋川あすなろ会
あすなろみんなの家
今 裕司



■ 4年目を振り返って

“高齢者福祉・介護に関わる社会福祉法人・施設・事業所として、地域の方々に向けた活動を展開し、その実績を広く知っていただく取り組みが必要では？”といった思いからスタートした「つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO」の4年目の活動が終了しました。

ワーキングチームは多少の入れ替わりがありましたが、打合せ会では様々なアイデアや意見が出され、それぞれが楽しみながら進めることができたように思います。

過去3年の活動実績を踏まえ、都内全区市町村での実施、より多くの施設・事業所の参加、複数施設や住民組織等他機関と連携した活動の推進、といった目標のもと、ワーキングチームの活動を進めました。

取り組みの普及という点では、キャンペーン開始前の6月に、昨年まで行っていた「事前説明会」を「研修会」に変えて開催し、文京学院大学(人間学部人間福祉学科准教授)の中島修先生に、高齢者福祉施設・事業所が地域に向けた活動を行う意義や活動を行うにあたってのポイントについての講演をいただきました。

また、他施設の取り組みを知って頂く機会づくりとしての「見学会」の実施(台風19号の影響により1回中止)や『つなひろ通信』をとおしての情報提供も昨年・一昨年に続き行い、1月には、今年度の活動を振り返る機会として「実践報告会」を開催し、4つの取組みについてご発表頂きました。

見学会や実践報告会では、「それぞれの施設・事業所が工夫を凝らしている」「似ている取り組みでも、地域の状況や施設的特性によって個性がある」「入所者さんや実習生さん、地域の様々な資源とのつながり・協働がなされていること」が実感できました。

実践報告会では、6月の研修会に引き続き中島修先生にご協力をいただき、それぞれの取り組みのポイントについてコメントいただくとともに、まとめとして地域に向けた活動の意義やポイントを再確認しました。事前研修会・振り返りの実践報告会と中島先生にご協力いただいたことで、この取り組みのコンセプトが骨太なものになったように思います。

もう一つ強調したいのは、この取り組みについて様々な機関・団体等からの注目度が高まっているということです。9月に行われた「キックオフ記者会見&見学会」には全国紙・業界紙・地域のミニコミ紙やケーブルテレビなど10を超える媒体が参加されましたし、

1月の実践報告会には、自治体職員・区市町村社協の職員や他県の社会福祉法人や団体等からの参加も多く、参加者のおよそ3割が会員外となりました。

一方で、今年度のキャンペーン実績を数字で見ると、厳しい評価をしなければならない面がありました。

参加者数の減少は、台風15・19号の接近・上陸によるイベントの中止や、昨年度行われた大規模イベントがなかったことも影響しており仕方ない部分もありますが、4年目を終えてなお全自治体での実施という目標が達成できなかったのは、非常に残念なことです。

ここにも、我々の現場を取り巻く「人手不足」が大きな影響を及ぼしていますが、一方で、実施担当者などから「上司や同僚の理解・協力を得るのが難しい」との声も聞かれているように、地域に向けた取り組みの必要性がまだ浸透しきれていないという課題も突き付けられています。

前述のとおり私たちの取り組みへの関心・注目が広がり高まっていますが、会員施設・事業所の皆さんには、自分の施設・事業所は注目や期待に値する活動を行っているか、「見られている」ことについても考えてほしいと思います。

■キャンペーンのこれから

ワーキングチームでは、次年度のキャンペーン実施に向けすでに準備が始まっています。

いまだ実現できていない都内全自治体での実施、より多くの施設・事業所の参加という目標達成に全力をあげなければなりません。

また、私たちの活動(これは“つなひろ”に限りません)が、地域の方々や行政機関・関連団体やマスコミ等様々な方々から注目されていることを自覚し、期待に応えられる取り組みとなるよう、さらなる工夫が必要です。

たとえば、昨年台風19号では、西多摩地域などで道路の崩落による地域の孤立・浸水被害等が発生しましたが、施設間の助け合いや、地域への貢献・地域からの支援によって、被害を最小限に食い止めたり乗り越えた事例が報告されています。

災害時に「地域とのつながりの大切さ」を改めて実感したとの声も聞かれる一方で、地域の方々からは「近くに施設があることの心強さ」の声も寄せられたようです。

“つなひろ”の活動も「地域への貢献」はもちろんですが、「お互いに助け合える関係」に発展していくことも目標の一つにできるのではと考えています。

「つなぐれ ひろぐれ ちいきの輪 in TOKYO」キャンペーンが高齢協の取り組みとして定着・進化することで、「地域でこぼれ落ちる人がいないよう、誰もが安心して暮らせるまちづくり」に貢献でき、社会福祉法人や高齢者福祉施設・事業所に対する「信頼と評価」という成果が得られることを願っています。



つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO 研修会

日 時 2019年6月5日 14:00～16:30

会 場 研究社英語センター地下2階大会議室

参加人数 39名

内 容

【あいさつ】

今 裕司 さん(東京都高齢者福祉施設協議会 副会長・センター分科会長)

【講演】

「日々の業務の中にある地域とつながるためのヒント」

講師：中島 修 氏(文京学院大学人間学部 人間福祉学科 准教授)

【情報交換】

【キャンペーン事業説明】

つなひろキャンペーンの一環として研修会を開催しました。文京学院大学の中島修先生を講師としてお招きし「日々の業務の中にある地域とつながるヒント」をテーマにご講演頂きました。

地域共生社会の実現に向け、社会福祉施設としてどう関わって行くのか？何から手をつければ良いのか？具体的な行動が描けずにいたのですが、サービスを提供している利用者



講演の様子。

の家族や隣近所へ目を向け、そこにあるニーズをつかむことから始められると気づき少しハードルが下がった気がしました。

またグループ毎の情報交換では、お互いの事業所の取組を話したり、パワーアップのヒントを出し合ったりと活発な意見が飛び交い、それぞれの事業所で「地域とつながる」ために色々な工夫をしているのだと実感した研修会でした。

殆どの事業所が地域と繋がる一步を踏み出していて、そこから更に「大きな輪」に繋がるための良い機会となりました。

参加した施設・事業所担当者の声

- ・地域に出て“何気ない会話”からニーズをキャッチしていきたいと思いました。
- ・日々の業務の中でニーズを発見していくことの大切さを改めて知りました。
- ・今あるつながりの中からさらにつながりを見つけていきたいと思いました。また、自分の今行っている業務にちゃんと意義があったのだと思えました。
- ・他施設と交流し参考になった。自分の施設に持ち帰って活かしていきたいと思いました。
- ・施設で行っている同様の取組みを、違う方法で展開されている話が聞けて良かった。
- ・我々のアクションがいかに必要なことか再考できました。
- ・他施設の取組みを聞けてとても参考になった。
- ・講演会大変参考になりました。また、情報共有も他施設の積極的な取り組みを伺い、刺激をいただきました。
- ・とても分かりやすい講演でした。日々の業務の中のちょっとした会話からニーズキャッチできるようにしていきたい。



情報交換の様子。どのグループも積極的な意見交換が展開されていました。

見学会



開催内容(全2回)

第1回 なぎさ☆キッチン

日 時 2019年9月6日 15:30~18:30

会 場 社会福祉法人東京栄和会 なぎさ和楽苑

参加人数 15名

※キックオフ記者会見としてメディアを対象に開催

第2回 屋上菜園を通しての交流

日 時 2019年11月30日 14:00~16:00

会 場 特別養護老人ホーム フレスコ浅草 屋上

参加人数 8名

今年度もキャンペーン開催期間中に、見学会を開催しました。高齢者施設や事業所で地域によりそう活動を展開している方が実際に目で見て地域のアウトリーチの実践を学べる場をつくることを目的としています。今年も3か所を予定していましたが、台風の影響もあり2か所の見学会となりました。見学会では、実施事業の見学や取組みに関わっている方からの活動から感じた地域の姿、活動で大切にしていることなどをお話いただきました。

上記の2つの取組みでは、高齢者福祉施設が専門外の分野として地域の子どもを中心として多世代交流を促進し、地域住民全体の居場所を作り、孤食・経済的問題に立ち向かう姿、地域のニーズに合わせて事業所の環境を活かし交流の場を持つこと、その交流のため入所者が役割を持って日々生活を送る姿などを間近で見ることができました。

また、参加者の中には、施設・事業所の関係者のみならず、メディア関係の方も多数おり、各地の高齢者福祉施設で思いを温めながら、地域に寄り添う活動を取組んでいる姿を広く伝えていく機会にもなりました。

見学会の中で見えてきた事業所から地域住民に近づいていくアウトリーチ事業の取組み、地域ニーズに合わせた地域交流の実情は、次回以降のキャンペーンの実施に活かしていきたいと思います。



見学会当日の様子



なぎさ☆キッチン

大勢の人で賑わう「地域の食堂」を見学することが出来ました。こども食堂ではなく、パパ・ママや高齢者も参加可能としていることから、多世代交流の場として地域の方の楽しみへ繋がっているようです。交流を広げるため、相席となるようにテーブルの配置を工夫し、定員は定めず来場者が多い時は譲りあいながら席についているとのことで、笑顔があふれる素敵な食堂でした。

(特別養護老人ホーム なぎさ和楽苑／江戸川区)

詳細はP73



屋上菜園を通しての交流

木枠で出来たお洒落なプランターが2つ、屋上のスペースを上手にを使って、色々な野菜を栽培していました。

見学会が行われた日は、入所者の皆さんが丹精込めて育てた野菜を、近隣の子供たちが収穫に訪れていました。収穫の様子を入所者の皆さんは暖かい眼差しで見守っていました。その後の交流会では、収穫した野菜を使って『お鍋』を作りました。

冬が近づくと寒い日でしたが、出来上がったお鍋を囲み、お腹も・心も温まったひと時でした。

(特別養護老人ホーム フレスコ浅草／台東区)

詳細はP63

実践報告会



だれもが安心して暮らせるために地域でできること ～つなぐれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO の取組みから～

※実践報告詳細はP 8 参照

日 時 2020年1月10日 14:00～17:00

会 場 TKP市ヶ谷カンファレンスセンター3階3Aホール

参加人数 75名

内 容

〔あいさつ〕

今 裕司 さん(東京都高齢者福祉施設協議会 副会長・センター分科会長)

〔実践報告〕

進行・コメント：中島 修 氏(文京学院大学人間学部人間福祉学科 准教授)

テーマ1 地域の事業所同士の連携

「第4回八王子介護フェア」

鷹野 さん(特別養護老人ホーム 偕楽園ホーム)

テーマ2 多様な人々の参加

「なぎさ☆キッチン」

後藤 さん(なぎさ和楽苑)

テーマ3 地域交流の意義

「屋上菜園を通しての交流」

石田 さん、石橋 さん(特別養護老人ホーム フレスコ浅草)

テーマ4 まちの多様な仲間たちとの連携

「ビタミンカフェのづた」

鈴木 さん、戎 さん(町田愛信園)

〔情報交換〕

〔まとめ〕

清野 哲男 さん(つなぐれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO ワーキングチーム)

キャンペーン終了後に実践報告会を開催しました。実践報告では、今年度キャンペーンに参加した4つの取組みについてお話しいただきました。各取組みに対して文京学院大学の中島修准教授よりコメントをいただき、最後に、地域での取組みのポイントを10個にまとめて説明いただきました。

グループワークでは様々な立場の参加者が積極的に情報交換を行っており、今後の取組みに活かせるヒントが数多くあった様子で、会場がにぎわっていました。

参加者の声

- ・ 地域交流の重要性、地域とのつながりの方法を学びました。
- ・ いろいろな形で地域とつながることができるのだと思った。
- ・ 地域交流カフェの運営にかかわっているの、今回の発表や事業レポートは大変参考になった。活用させていただきたい。
- ・ 先生の「施設は福祉の入口」という言葉に納得。地域に施設を知ってもらう機会をどんどん作っていき、継続していかなくてはいけないと感じた。4施設の発表は苦勞したことがたくさんあったはずだが、いきいきと話されており、楽しんでいる雰囲気伝わった。
- ・ どの施設も地域の多くの施設や団体、地域の方とつながり実施されていて素敵活動と思いました。
- ・ 普段はなかなか聞くことのできない居場所を作るまでの経緯、苦勞等を聞くことができて大変勉強になりました。
- ・ いろいろな活動報告を聞くことができた。自身の生活支援にもつなげていきたい。
- ・ すぐに取り入れることのできる内容のものがあ、大変参考になった。
- ・ 施設を地域の居場所として活用する事例、手法を知ることができて良かった。
- ・ 他事業所がどんな取り組みをしているのか具体的に知ることができて良かった。また、他事業所が抱えている課題が意外と共通していると実感できた。同じことで困っているということをきっかけにつながっていけるとよいと思った。
- ・ それぞれ地域とのかかわり方に個性があり、とても魅力的だなと思いました。
- ・ 地域とのつながりは大切で、施設職員が参加できる工夫が必要であると感じた。
- ・ 今年度、認知症カフェや子ども食堂を開こうと思っていたところこの研修が開催されどれも参考になりました。
- ・ 「福祉施設は地域の拠点になることが大事」というのは、介護に携わるものとして心する言葉でした。「利用者が地域の役に立つ」、「地域の方の役割創出」という視点でぜひ考えていきたいと思います。
- ・ 具体的な実践報告、先生の的確なアドバイスにより、今後の活動のイメージが明確になりました。
- ・ 地域の中でのつながりが大切であることを再確認できました。
- ・ 施設の取組みを聞き、今後地域と共にやっていきたいことを考えることができた。大きなヒントをいただきました。
- ・ 自法人の施設だけでなく、他団体と共に取り組むという発想はなかったので参考にしたい。



実践報告の様子。



情報交換の様子。多様な団体が実践報告の感想を共有し、今後に向けた活動について話し合いました。

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO ワーキングチーム



開催内容(全5回)

第1回 2019年4月10日

募集要項検討、研修会企画検討

第2回 2019年7月3日

応募状況確認、広報方法検討(パンフレット・キャンペーングッズ作成等)、見学会企画検討

第3回 2019年10月9日

実施状況確認、実践報告会企画検討

第4回 2020年1月22日

実施報告書企画検討、次年度実施計画について

第5回 2020年2月18日

実施報告書企画検討、次年度実施計画について

キャンペーンを企画し実施する上で、幅広い視点から種々検討できる様にメンバーが所属する施設・事業所の施設種別に偏りのないワーキングチームを構成しています。各メンバーの地域に寄り添った活動経験や身近な地域の状況等について情報交換をしながら事業計画の検討を重ね、研修会や見学会、実践報告会の運営、つなひろ通信の原稿執筆等を行いました。4年目となる今年度は新たに4名のメンバーが加わっています。

ワーキングチームでは、社会福祉法人の地域貢献が求められる中、事業に参加される高齢者施設・事業所が地域から求められる存在となるよう「都内の各高齢者福祉施設が福祉や介護サービスを必要とする高齢者の為だけでなく、地域の誰もが安心して暮らせる街作りや街の活性化の為に何ができるのか」を日頃から考えると共にキャンペーンの意味合いや趣旨を確認しながら活動を行ってきました。



ワーキングチーム活動の様子。メディア向け見学会でつなひろキャンペーンを宣伝。



実施担当者向け説明会では、グループワークに入って一緒に考えることも。

ワーキングチームの1年

時 期	主なできごと
4月	ワーキングチーム(第1回)
5月	キャンペーン参加施設・事業所募集開始 昨年度版キャンペーン報告書発行
6月	研修会
7月	ワーキングチーム(第2回)
8月	プレスリリース
9月	つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO キャンペーン開始 見学会(第1回、メディア向け)
10月	ワーキングチーム(第3回) 見学会 ※台風の影響により中止
11月	見学会(第2回) つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO キャンペーン終了
12月	実践報告会
1月	ワーキングチーム(第4回)
2月	ワーキングチーム(第5回)
3月	



ワーキングチームからの声

～キャンペーンをふりかえって～

※所属は2019年3月時点



大脇 秀一
光風荘

施設運営に関わる中で地域とどのように取り組んでいくことが本当の地域貢献となるのか常に自問自答していた中で「つなひろ事業」に出会い、即決でワーキングチームに参加させて頂きました。今年で3年目となりましたが、年々各施設の「地域との取り組み」「地域への貢献」の内容が進化し深まってきているのを強く感じています。施設見学会への参加が最も実感するのではないのでしょうか。自施設の活動にもとても良い刺激になっています。



小山 正子
品川区立中延
特別養護老人ホーム

ワーキングチームメンバーとして、見学会・研修会に参加し、地域と繋がるための仕組み作りに大変な思いをしている姿と、成し遂げた後の喜びの姿を目の当たりにして「みんな頑張っているなあ～」と刺激されました。そして、お年寄りも、子供も関係なく地域で暮らす全ての人々を繋ぐことの出来る素敵な仕事につけて良かったと実感しました。今年も『つなひろ』の活動に気持ち良く送り出してくれた事業所の仲間にも感謝です！



相澤 和彦
高田介護予防センター

つなひろワーキングチームに参加し、3年になりました。今年も見学会や実践報告会を通じ、沢山の気づきを得ることができ、日頃の業務にも活かすことができた実感しています。これからも「つなひろ」を通じて、地域とつながるためのヒントや仲間を得て、今まで以上に地域とつながっていきたいと思います。



長谷川 栄司
東大和市高齢者ほっと
支援センターいもくぼ

今年もたくさんの事業所がこのキャンペーンに参加してくれていました。そしてどの事業所も苦労しているのだということが分かってきました。職員間のコミュニケーションや地域に住む方たちとのつながりなどがその代表ではないのでしょうか。しかしこのキャンペーンを実施している事業所は、そんな苦労を“糧”にしているということを報告会で実感させられました。それが、この“ひろがれ つながれ みんなの輪”なのだと思います。来年はもっとたくさんの事業所で一緒に「糧になる苦労」をしてみませんか。



清野 哲男
府中市地域包括
支援センターあさひ苑

「つなぐれ ひろがれ
ちいきの輪」のWT
に東社協高齢施設協
議会センター分会か
ら参加して4年の歳
月を迎えました。今
年度も、都内各地の
社会福祉法人が地域
の皆様といろいろな
活動に取り組む事業を見聞させていた
だく機会をいただきとても幸福でした。
今年も声を大にして言います。「社会福祉法人は地域のために何もしていないなんて、もう誰にも言わせない。」これからも、この活動を通じて、繋がっていきたいと思います。



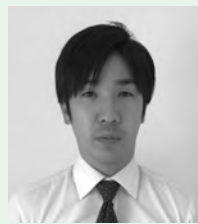
羽鳥 和樹
特別養護老人ホーム
ハートハウス成城

今年度からWC委員
となり初めてキャン
ペーン企画に参加
し、様々な施設、地
域、他職種で地域の
皆様と共にイベント
を開催されているの
を間近で見せていた
だき、幅広い地域と
の繋がりを感じました。現代は多種多
様な考えや生き方、地域性がありますが、それらを受け入れ、自由な発想
で向き合える組織作りを行うことで、
ワーキングチームの活動や企画の効果
はより大きなものとなると信じており
ます。現代社会と福祉の繋がりがより
広いものになるよう一緒に考えていけ
たらと思います。



榎本 朝美
東京ボランティア・
市民活動センター

つなひろに参加する
なかで、施設のみな
さんが、利用者のた
めだけでなく、地域
のためにも活動され
ている事例をたくさ
ん知ることができま
した。みなさんの施
設にボランティアを
受け入れていただくことも、ボラン
ティアさんがそこで学んだことが、地
域に生きてくるのだと思います。
ワーキングチームのみなさんから頂く
情報は、参考になるものばかりでした。
ありがとうございます。今後のつなひ
ろ、東京ボランティア・市民活動セン
ターからも応援していきます！



金子 新太郎
東京都社会福祉協議会
福祉部高齢担当

今年度からつなひろ
に参加させていただ
き、自身にとっても
勉強になることがた
くさんありました。
また、各施設・事業
所が様々な工夫をし
取組みを展開してい
ることを知り、改め
て施設の持つ可能性を感じました。施
設内にとどまらない地域に向けた取組
みを通し、新たなつながりが生まれ、
そして地域の輪が生まれる。つなひろ
をきっかけに、地域とつながるための
取組みがより広がっていくことを願っ
ています。



今 裕司 あすなろみんなの家

今年度も多くの方々のご協力・ご参加を頂いて「つなひろ」が進め
られたことを、嬉しく思っています。
ワーキングチームでの活動や見学会をとおして、皆さんの積極的
な姿勢や様々なアイデア・実践に触れ、私自身が学び、刺激を受け、
エネルギーをいただきました。
この活動に関わって下さったすべての皆さんに感謝します。

Ⅳ

きっとみつける！ あなたのまちの「ちいきの輪」 ～キャンペーン取組みレポート～



つなぐれ ひろぐれ ちいきの輪 in TOKYO 2019 実施施設・事業所一覧

区市町村	No.	テーマ	施設種別	主催団体名	事業・イベント名	掲載ページ
三宅村	1※	地域交流	地域包括支援センター	三宅村地域包括支援センター	ふれあいお楽しみ会	—
千代田区	2	学びの機会	その他	全国援助職ネットワーク	ケアに関する書籍の精読会	45
中央区	3	認知症	その他 (総合福祉施設)	高齢者総合福祉施設 晴海苑	晴海苑 オレンジカフェ	46
品川区	4	カフェ・居場所	特養	品川区立中延特別養護老人ホーム	せせらぎ喫茶	47
	5※	地域交流	複数施設共催	品川区立中延複合施設	中延複合施設 くつろぎ祭り	—
	6	防災	複数施設共催	品川区立中延複合施設	中延複合施設 地域防災	48
	7	地域交流	その他	社会福祉法人品川総合福祉センター	しなふく紅葉フェスタ	49
渋谷区	8	地域交流	特養	社会福祉法人パール	パールよろず博	50
新宿区	9	カフェ・居場所	特養	特別養護老人ホーム原町ホーム	Cafe memory原町	51
文京区	10	地域団体との協働	複数施設共催	アクティブ介護2019実行委員会	アクティブ介護2019	52
	11	地域交流	特養	洛和ヴィラ文京春日	洛和メディカルフェスティバル	53
北区	12	地域交流	特養	新町光陽苑	新町光陽苑 秋祭り ～秋の音楽会 音でつなぐ地域の輪～	54
豊島区	13	カフェ・居場所	デイサービス	社会福祉法人フロンティア 高齢者在宅サービスセンター山吹の里	仄仄(ほのぼの)カフェ	55
	14	カフェ・居場所	デイサービス	社会福祉法人フロンティア デイサービス長崎いずみの郷	いずみサロン	56
	15	その他	その他	社会福祉法人フロンティア	夢を応援「茜パン」	57
	16	学びの機会	特養	社会福祉法人七代会 特別養護老人ホーム千川の杜	杜のカフェ	58
	17	カフェ・居場所	特養	特別養護老人ホーム風かおる里	そよかぜカフェひまわり“味噌づくり”	59
板橋区	18	カフェ・居場所	デイサービス	社会福祉法人至誠学園東京 みどりの苑	グリーンカフェ(認知症カフェ)	60
	19	学びの機会	特養	社会福祉法人みその福祉会 ケアタウン成増	地域で学べる介護講座	61
台東区	20	地域交流	特養	社会福祉法人聖風会 特別養護老人ホーム台東	ふれ愛♡たいとう祭り	62
	21	地域交流	特養	特別養護老人ホームフレスコ浅草	屋上菜園を通しての交流	63
荒川区	22	介護予防や高齢者支援	デイサービス	荒川区立東日暮里在宅高齢者 通所サービスセンター	介護者教室	64
足立区	23	地域交流	特養	特別養護老人ホームプレミアム扇	プレミアム扇 地域交流会 2019	65
	24※	地域交流	複数施設共催	社会福祉法人敬仁会	「ふれあいはあとまつり」 in Tokyo	—
	25	地域交流	特養	社会福祉法人聖風会 花畑あすか苑 あすふえす実行委員会	あすかフェスティバル Power of Smile ～笑顔の力で～	66
	26	認知症	その他	全国援助職ネットワーク	2019RUN伴あだち	67
	27	介護予防や高齢者支援	デイサービス	社会福祉法人愛寿会 紫磨園在宅サービスセンター	キネシス(トレーニングマシン)開放	68
	28	地域交流	特養	いちかポケットの会 (協力:特別養護老人ホームさくら)	子ども食堂いちかランチ	69
墨田区	29	カフェ・居場所	特養	たちばなホーム	たちばなホームカフェ	70
	30	地域交流	特養	墨田区特別養護老人ホーム はなみずきホーム	はなみずきホーム オープンハウス	71
	31	地域交流	特養	特別養護老人ホームケアホームズ両国	動物ふれあいフェア	72
江戸川区	32	地域交流	特養	社会福祉法人東京栄和会 なぎさ和楽苑	なぎさ☆キッチン	73
	33	その他	その他	社会福祉法人東京栄和会 なぎさ和楽苑	あしたばカフェ(若年性認知症カフェ)	74
	34	地域交流	特養	社会福祉法人三幸福社会 特別養護老人ホーム癒しの里西小松川	ちょっとよりみち 癒しの茶店「あじさい」	75
	35	認知症	その他	社会福祉法人江東園	第2回 およこ映画会	76
江東区	36	地域交流	特養	特別養護老人ホームあそか園	第8回 あそか園地域交流祭り	77
	37	地域交流	複数施設共催	社会福祉法人江東ことばき会 コスモス老人福祉施設	コスモス老人福祉施設 納涼祭	78
	38	認知症	複数施設共催	社会福祉法人江東ことばき会 コスモス老人福祉施設	コスモス老人福祉施設 認知症サポーター養成講座・施設見学会	79
中野区	39	地域交流	その他	社会福祉法人フロンティア 高齢者グループホームおさたけ	おさたけみんなのランチ お食事会 ～ワンコインでみなさんと一緒に食事会～	80

Ⅳ きっとみつかる！あなたのまちの「ちいきの輪」

区市町村	No.	テーマ	施設種別	主催団体名	事業・イベント名	掲載ページ
杉並区	40	地域交流	特養	社会福祉法人真松之会 和田堀ホーム	納涼祭～ふれあい動物園～	81
	41	地域交流	複数施設共催	社会福祉法人浴風会	浴風会つながるフェスタ	82
	42	介護予防や高齢者支援	デイサービス	社会福祉法人浴風会 南陽園在宅サービスセンター	ももの木トレーニング	83
	43	介護予防や高齢者支援	デイサービス	社会福祉法人浴風会 南陽園在宅サービスセンター	みんなの生き生き健康教室	84
練馬区	44	地域交流	特養	特別養護老人ホーム 練馬キングス・ガーデン	やきいもホクホクDAY2019	85
	45	カフェ・居場所	特養	光陽苑 ボランティア 陽だまり会	喫茶 陽だまり	86
	46	地域交流	特養	第二光陽苑	秋の音楽祭	87
	47	カフェ・居場所	特養	大泉特別養護老人ホーム	虹のカフェ 大泉	88
	48	地域交流	その他	大泉西小学校（協力：サンライズ大泉）	大泉西小学校応援団まつり	89
大田区	49	学びの機会	その他	全国援助職ネットワーク	全援ネット方式ワークショップ 事例検討会	90
	50	介護予防や高齢者支援	特養	社会福祉法人響会 好日苑	ひびき ほっとサロン	91
	51	地域交流	養護	養護老人ホーム池上長寿園	青空ヨガ	92
	52	地域交流	養護	養護老人ホーム池上長寿園	創立記念花火大会	93
	53	学びの機会	養護	大森老人ホーム	高齢者体験	94
	54※	カフェ・居場所	複数施設共催	社会福祉法人善光会	ZENKOUKAIカフェ	—
目黒区	55	地域交流	特養	特別養護老人ホーム東山	東山いきいきサロン 『バイオリンコンサート』	95
世田谷区	56	地域交流	特養	特別養護老人ホーム砧ホーム	ふれあい祭り	96
	57	地域交流	特養	社会福祉法人大三島育徳会	第3回 だんだんまつり	97
	58	地域交流	複数施設共催	偕楽園ホーム、ファミリーマイホーム、 多摩特養老人ホーム	第4回 八王子介護フェア	98
八王子市	59	地域交流	その他	社会福祉法人アゼリヤ会	アゼリヤ会地域交流会（大根掘り）	99
	60	地域交流	複数施設共催	社会福祉法人清明会 清明園・浅川ホーム	もみじ祭り	100
	61	認知症	その他	介護老人福祉施設福音の家、 軽費老人ホームA型町田愛信園	ビタミンカフェのづた	101
町田市	62	その他	その他	社会福祉法人福音会	ふくちゃん食堂	102
	63	地域交流	特養	特別養護老人ホーム友愛荘	ゆうあいマルシェ	103
多摩市	64	地域交流	複数施設共催	社会福祉法人楽友会	楽友祭	104
稲城市	65	地域団体との協働	軽費	社会福祉法人博愛会 ハーモニー松葉	やのくち子ども食堂	105
三鷹市	66	地域交流	特養	牟礼東町会・恵比寿苑	牟礼東町会秋祭り 太鼓巡行	106
	67	地域交流	その他	社会福祉法人東京弘済園	東京弘済園祭り（地域の力・施設の力）	107
調布市	68	介護予防や高齢者支援	地域包括 支援センター	社会福祉法人常盤会 調布市地域包括支援センターときわぎ国領	地域交流カフェ 「ときわぎ Cafe Green」	108
府中市	69	その他	その他	社会福祉法人多摩同胞会	学習サポートサロン SKY	109
	70	地域交流	複数施設共催	社会福祉法人安立園	安立園盆踊り大会	110
	71	学びの機会	複数施設共催	養護老人ホーム信愛寮	緑苑・安心シニア塾【専門講座】	111
国分寺市	72	介護予防や高齢者支援	特養	社会福祉法人至誠学舎立川 至誠ナーシングホーム	語り合いサロン ぷらっとなみき	112
国立市	73	地域交流	特養	社会福祉法人弥生会 くにたち苑	くにたち苑バザー	113
立川市	74	地域交流	複数施設共催	社会福祉法人恵比寿会	第7回 フェローホームズ秋祭り	114
	75	カフェ・居場所	複数施設共催	社会福祉法人恵比寿会	立川オールディズ物語カフェ	115
昭島市	76	アウトリーチ	その他	社会福祉法人同胞互助会 ふれあい食事サービス	高齢者向け弁当配食サービス	116
	77	学びの機会	その他	社会福祉法人同胞互助会	楽夢食（らくむ食）	117
	78	地域団体との協働	養護	社会福祉法人同胞互助会、 社会福祉法人ゆいのもり	すずらん喫茶 手作りパン販売	118
	79	地域交流	複数施設共催	特別養護老人ホーム フジホーム	昭和郷「納涼のタベ」	119
	80	地域交流	複数施設共催	社会福祉法人ゆりかご会 協賛：社会福祉法人ゆりかご会 後援会	社会福祉法人ゆりかご会感謝祭	120
	81	地域交流	特養	特別養護老人ホーム愛全園	愛全園福祉フェスティバル（文化祭）	121

区市町村	No.	テーマ	施設種別	主催団体名	事業・イベント名	掲載ページ
東大和市	82	学びの機会	特養	社会福祉法人多摩大和園 やまと苑	地域懇談会	122
	83	地域交流	特養	社会福祉法人多摩大和園 やまと苑	地域交流行事 『第48回 やまと苑納涼祭』	123
	84	認知症	その他	社会福祉法人多摩大和園	地域講演会 『地域共生社会について考える ～認知症当事者の声を聴く～』	124
武蔵村山市	85※	認知症	特養	社会福祉法人村山福祉会 特別養護老人ホーム伊奈平苑	認知症カフェ（ちょこふらカフェ）	—
武蔵野市	86	地域交流	特養	とらいふ武蔵野	関前コミセン祭り	125
	87	地域団体との協働	その他	吉祥寺南町コミュニティセンター (協力：社会福祉法人武蔵野 ゆとりえデイサービスセンター)	親子広場	126
小平市	88	地域交流	特養	特別養護老人ホーム小川ホーム	秋のふれあい交流イベント おがワンフェスティバル	127
東村山市	89	地域交流	施設連絡会	東村山市高齢者施設連絡会	お年寄りの手作り作品展	128
	90	その他	施設連絡会	東村山市内社会福祉法人連絡会	東村山市内社会福祉法人連絡会 パネル展	129
	91	その他	施設連絡会	東村山市内社会福祉法人連絡会	オープン施設見学会	130
	92	地域交流	施設連絡会	東村山市内社会福祉法人連絡会	市民に向けたイベントの開催	131
	93	地域交流	特養	白十字ホーム八国山フリーマーケット 実行委員会	第7回 八国山フリーマーケット	132
	94	カフェ・居場所	特養	社会福祉法人はるび	ふらっとカフェ ※11月＝つなひろランチ	133
東久留米市	95	地域交流	特養	社会福祉法人三育ライフ	シャローム祭	134
	96	学びの機会	施設連絡会	東久留米市介護サービス事業者協議会	介護の日フェア2019	135
	97	カフェ・居場所	特養	マザース東久留米	オレンジカフェ「和」（なごみ）	136
	98	地域交流	特養	マザース東久留米	歌声マザース	137
	99	地域団体との協働	特養	マザース東久留米	とも・いきマザースバザー	138
清瀬市	100	地域交流	複数施設共催	社会福祉法人慈生会 聖家族ホーム・聖ヨゼフ老人ホーム	ふれあいバザー	139
瑞穂町	101	介護予防や高齢者支援	特養	特別養護老人ホーム良友園	ふれんどサロン	140
	102	アウトリーチ	デイサービス	社会福祉法人梅の樹会 フラワープラム	専門職デリバリー	141
	103	カフェ・居場所	デイサービス	社会福祉法人梅の樹会 フラワープラム	認知症カフェ「楽笑プラムカフェ」	142
	104	その他	複数施設共催	瑞穂町有志の会	介護職カフェみずほ	143
	105	地域交流	デイサービス	高齢者在宅サービスセンターみずほ	くりの里サロン	144
羽村市	106	カフェ・居場所	特養	特別養護老人ホーム神明園	神明台自習室『みらい』	145
あきる野市	107	地域団体との協働	特養	社会福祉法人さくらぎ会 特別養護老人ホームこもれびの郷	地域総合防災訓練	146
	108	カフェ・居場所	特養	社会福祉法人福音会 特別養護老人ホーム麦久保園、 社会福祉法人深流会 特別養護老人ホーム草花苑	Ori Cafe（オリカフェ）	147
	109	地域団体との協働	その他	あきる野市、あきる野市地域包括支援センター、 あきる野市介護事業者連絡協議会	介護サービス普及啓発イベント 「介護の日」	148
	110	地域交流	デイサービス	社会福祉法人あすなろ会 あすなろみんなの家	ふれあいお茶飲み会	149
日の出町	111	アウトリーチ	特養	社会福祉法人ほういえ会 栄光の杜	配食サンキュー弁当	150
	112	カフェ・居場所	特養	ひのでホーム	こどもランチ in ひのでホーム	151
	113	地域交流	複数施設共催	栄光の杜、藤香苑、ひのでホーム	産業まつりでつながれひろがれ日の出町の輪 Supported by 日の出町ハートワークフェア	152
福生市	114	認知症	特養	特別養護老人ホーム第2サンシャインビル	認知症オレンジカフェ	153
	115	アウトリーチ	特養	特別養護老人ホームサンシャインビル	高齢者体験	154
日野市	116	地域交流	特養	特別養護老人ホーム浅川苑	あさかわ祭り	155
	117	カフェ・居場所	地域包括支援センター	日野市地域包括支援センターあさかわ	おしゃべりカフェ	156
その他	118	アウトリーチ	複数施設共催	社会福祉法人善光会	過疎地域でのボランティア活動	157

※「No.」に※印の付いている事業・イベントについては、台風の影響等により、中止となったものとなります。

千代田区

その他

学びの機会

全国援助職ネットワーク

ケアに関する書籍の精読会

- 開催日程 9/22 13:00~17:00
- 参加団体 全国援助職ネットワーク
- 参加人数 5名

実施の目的

ケアに関する書籍の精読を通じて自己理解を深め、コミュニケーションや技術の向上を目指す。

当日の様子

精読は『ケアの本質』ミルトン・メイヤロフ著、第V章第3節「ケアは私がこの世界で“場の中にいる”ことを可能にする」について実施した。参加者は事前に該当頁を精読して臨み、会では当該箇所を声に出して輪読し、節全体その内容の細部について参加者それぞれの心に落ちた箇所、理解しにくいと感じた箇所を取り上げた。特に理解しにくい表現や文脈については、改めて書籍の副題である(人間はいかに生きるか。生きる意味の模索)というテーマと、当該節の中心テーマである(場の中にいること)との意味の繋がりについて議論した。“場の中にいる”とは、著者であるミルトン・メイヤロフの書籍からは、実存主義思想を立ち上げたサルトルの影響がしばしば感じとれるが、サルトルは「人間の本質はあらかじめ決められておらず、実存(現実に存在すること)が先行した存在である。だからこそ、人間は自ら世界を意味づけ、行為を選び取り、自分自身で意味を生みださなければならない」とした。ケアという実存世界において(場の中にいることを可能とする)とは、ケアなる営みに専心していればこそ、実存としての「場」にあることは必然であり、その「場」とは、現象としての「場」でありながら、同時に精神活動・内面世界の「場」も同時に実存し成長・発達する。このように「場」の解釈を現象と精神世界の二つの面から議論した。

地域の課題

今後もケアに関する書籍の精読を行いながら、コミュニケーション論の学習、相談援助技術演習等を通じて自己理解を深め、援助技術の向上を目指す。

高齢者総合福祉施設 晴海苑

晴海苑 オレンジカフェ

■開催日程 ①8/18 13:30~15:30

②10/19 13:30~15:30

偶数月 第3土曜日と第3日曜日を交互に実施。13:30~15:30

■参加団体 晴海苑

■参加人数 23名

実施の目的

- ①認知症についての知識、情報を広める。
- ②認知症ケアで困っていることや悩みを気兼ねなく相談できる場所となる。
- ③顔馴染みの関係性を作る場の提供。



当日の様子

認知症についての座学だけでなく、施設で対応した実践例をもとにロールプレイングを行った。介護する側、介護される側を演じることで、座学では感じる事が出来なかったそれぞれの悩みを感じることが出来たとの意見が寄せられた。「今日は帰って優しくなれる気がします。今日だけですけど(笑)」と、笑顔で話して下さった参加者の言葉に周りの方々も笑いが生まれ同調されていた。

地域の課題

中央区は高層マンションがどんどん建てられており、外から人がどんどん入ってきている。元々住んでいた方もマンションへの転居が増えている。その中で人との交流が希薄化しており、高齢者の孤立化が進んでいる。高層マンションだとセキュリティが厳しく、一度中に入ると出ることも困難なことがある。(フロアごとに施錠扉があったり、エレベーターを利用するのにパスワードやキーが必要など) そうなると高齢者は外部とのやり取りが出来なくなる。孤立している高齢者の方に対して地域包括支援センターや民生委員、ケアマネージャーを通してカフェに参加していただくよう声掛けしている。

品川区

特養

カフェ・居場所

品川区立中延特別養護老人ホーム

せせらぎ喫茶

- 開催日程 毎月第3木曜日 13:00～16:00
- 参加団体 クローバーの会ボランティア、品川区立中延特別養護老人ホーム
- 参加人数 150名

実施の目的

法人にて焼いている焼きたてパンとコーヒーを販売し、地域の方が気軽に立ち寄り、ほっとできるような喫茶を行う。ホームの入所者の方やボランティアさんも一緒に参加し、地域の方と交流を図る。



当日の様子

当日は、焼きたてパンとコーヒーを販売し、地域の方も多く参加された。参加者は高齢の方だけでなく、子育て中の親子や近隣の会社の休憩中の方など様々な方が参加されている。子育て中の方は、ベビーカーでそのまま入れる施設が近隣にないことから毎月せせらぎ喫茶を利用し、他の子連れ親子や入所者、ボランティアとの交流を図っており、「子ども連れでゆっくりと話せる場がないのでとても嬉しい。」との言葉を頂いている。入所者の方も多く参加し、ボランティアと「久しぶりね。」と言いながら、のんびりとお茶の時間を過ごしている。

地域の課題

地域の方の声を反映し、温かいコーヒーだけでなく夏にはアイスコーヒーの販売を行った。地域の方との交流を目的に実施しているが、方向性は決めずに実施した。今後は、具体的なテーマなどを考えて実施していきたい。（職員による音楽会や季節に応じた飲み物の提供など）

地域には商店街も近隣にあるが、車椅子やベビーカーがそのまま入れる空間が少ない。特に子育て中の方にとって子どもが自由に行き来できる場所は魅力的である。高齢者複合施設ではあるが、様々な地域の方が自由に楽しくのんびり過ごせる場の一つになればと思う。

品川区立中延複合施設

中延複合施設 地域防災

- 開催日程 10/26 10:00～11:30
- 参加団体 都営住宅住民、品川区立中延在宅サービスセンター
品川区立中延在宅支援センター、品川区立中延特別養護老人ホーム
- 参加人数 30名

実施の目的

都営住宅住民協力のもと、災害・火災時避難誘導が円滑に行えるよう訓練を実施する。地域の方とともに防災訓練、防災についての知識を得る機会となっている。

当日の様子

当日10:30、都営住宅4階より出火という想定で避難訓練を行った。中延事業所より4名が初期消火要員として参加し、都営住宅住民の方との協働により初期消火活動を実施し、鎮火したという訓練を実施した。都営住宅住民の方も多数参加し、また職員も初参加のものがいた中、動きや場所の確認をしながら訓練をできたことで、地域とのつながり、協力体制を確認できた。

地域の課題

参加された都営住宅住民の方は、高齢の方や女性が多かったため住民の方による率先した初期消火は難しいと感じた。地域防災訓練は年2回実施しており、男性の参加者も事業所として呼びかけを行い、参加者を増やしていく工夫も必要ではないかを感じる。次回の実施は消防署と連携し、救急訓練・救命講習を実施する予定である。地域との防災についてつながりを深めるため、防災訓練だけでなく様々な形(防災についての講義や非常食についてなど)で地域防災として実施していく。

品川区

その他

地域交流

社会福祉法人品川総合福祉センター

しなふく紅葉フェスタ

■開催日程 10/27 10:30～14:30

■参加団体 プルデンシャル生命保険品川第一支社、社福)福栄会、社福)げんき、スマイルサポート、明るい選挙推進委員会、関東電気保安協会、品川児童相談所、八潮自治会有志、しなちるママ、つながろう八潮、社)へいわしながわアクションセンター、日立ソリューションズ吹奏楽団、森のひかり、八潮太鼓、サンバチーム「フェスタンサ」、アカペラユニットシュシュ、ダブルダッチ日本橋中学校、障害者スポーツ協会等

■参加人数 870名

実施の目的

利用者の文化的な活動の促進・向上を目指すとともに、地域の方と施設利用者の交流、施設に対する理解を深めてもらう事が目的。

当日の様子

ステージは、日立ソリューションズ吹奏楽団の皆さんによるオープニングで始まり、ファッションショーやゲームには地域の方が沢山参加されました。サンバの曲に合わせて思わず踊りだしてしまう利用者の皆さんの姿も目が離せませんでした。また、日本橋中学校のダブルダッチの演技は圧巻で、会場は盛り上がりしました。岩手県被災地のふるさと大使、アカペラユニットシュシュの皆さんの歌や、障がい者スポーツボッチャの体験コーナーでは、子ども達から、障がい者の皆さんも楽しまれ、地域の皆さんとの交流が深まった1日となりました。

地域の課題

来年度のフェスタの開催も多くの地域の皆様に参加していただけるように、また、より一層地域交流を深めていけるように内容を検討していく。

社会福祉法人パール

パールよろず博

- 開催日程 11/22 10:30~15:30
- 参加団体 ハンドケア・ビューティケア赤十字奉仕団、劇団 BACKすくリーン
- 参加人数 35名

実施の目的

ご利用者ご家族や地域住民、同業者の方へ向けた社会福祉法人パール及び福祉事業についてのPR。



当日の様子

あいにくの天気と寒さで、昨年より客足が伸びませんでした。

昨年に引き続き、様々なプログラムを総力を挙げて実施しました。新たな試みとして太極拳体験、お茶会、折り紙ボランティアによる講座、参加型劇場を開催。人足は絶えることなく、終始賑わっていました。1日をパールで過ごしていただけるようプログラムを組んだので、長い時間をゆっくり過ごして頂く方もいらっしやり、喜んでいただけた様子でした。ご来場者には十分にPRができたと思います。

地域の課題

3回目の開催で、施設内にも恒例化のイメージが定着してきました。ただし、今回は行政の実地検査が前日に予定されてしまい、直前の準備に時間が十分に割けなかったのが残念でした。

課題は、行政・各関係機関等への告知をもっと早めに行えていれば、多くの集客につながったかもしれない、という点です。

新宿区

特養

カフェ・居場所

特別養護老人ホーム原町ホーム

Cafe memory原町

■開催日程 毎週木曜日 14：00～15：00

■参加団体 新宿区、新宿区社会福祉協議会、榎町高齢者総合相談センター、原町小規模多機能居宅介護センター、原町グループホーム、原町デイサービスセンター、原町ホーム

■参加人数 278名

実施の目的

都市型の新しい活動を通じて地域と繋がり、高齢の方や介護者の方が気軽に交流できる場を提供する。

当日の様子

近隣にお住いの高齢者の方、原町ホーム・原町高齢者複合施設をご利用の高齢者の方々が集まり、週毎の様々な活動に参加されながら交流を深めた。

普段発語の少ない方が積極的にお話をされたり、フロア内をずっと歩き続ける方が1時間集中して活動に取り組む事が出来ていた。

地域参加者からも「家にいても一人だから」、「人と会えるきっかけになっている」とのお話が聞かれた。スタッフが専門職で構成されていることから介護等の相談も聞かれている。

地域の課題

今後も認知症の本人や家族が安心して生活・活動・相談できる場として、地域にお住いの方々の認知症への理解を深め、早期からの相談に繋げる場として継続性をもって活動していきたい。

アクティブ介護2019実行委員会

アクティブ介護2019

■開催日程 12/17 10:00～16:00

■参加団体 文京区役所、文京区社会福祉協議会、文京くすのきの郷、文京白山の郷、文京千駄木の郷、ゆしまの郷、洛和ヴィラ文京春日、文京大塚高齢者在宅サービスセンター、文京湯島高齢者在宅サービスセンター、文京くすのき高齢者在宅サービスセンター、文京向丘高齢者在宅サービスセンター、文京白山高齢者在宅サービスセンター、文京昭和高齢者在宅サービスセンター、文京本郷高齢者在宅サービスセンター、文京千駄木高齢者在宅サービスセンター、ケアワーク弥生、ユアハウス弥生リハビリ道場、老松ケアサービス、トチギ介護サービス、小石川医師会居宅介護支援事業所、ローズケア、アドバンスサポートコスモス、小石川みやびの郷、アリア文京大塚、ミニケアホームきみさんち、パナソニックエイジフリー介護チェーン城北、社の癒しハウス・文京関口、音羽えびすの郷、ネクススコート本郷、アズハイム文京白山、リーベ訪問看護リハビリステーション、ホスピタルメント文京弥生、東京都理学療法士協会文京支部

■参加人数 956名

実施の目的

区民及び次世代の介護を担うものに対して取り組みを通し、介護のイメージ向上を、また、たとえ高齢で要介護状態、認知症であっても安心して生活できる地域社会に寄与することを目的とする。

当日の様子

今回は区民ひろばにて「福祉の仕事相談面接会」を開催し、アクティブ介護のイベントと連携して実施した。1階アートサロンは参加事業者の事業所紹介パネルの展示、同階ギャラリーシビックでは福祉用具展示と健康講座、測定会を実施した。

地域の課題

11年目の開催となったが、来場者のアンケートからイベントの目的が広く、ターゲットがわかりにくくなっている状況が出てきている。次年度は改めてイベントの目的を整理し新たにコンセプトを考える必要があり、毎月の委員会で協議していく予定。

文京区

特養

地域交流

洛和ヴィラ文京春日

洛和メディカルフェスティバル

■開催日程 10/27 11:00～15:00

■参加団体 社会福祉法人佑啓会、NZSTAR、オレンジライン、文京区立第三中学校、工房わかざり、大塚地域包括支援センター、学習支援「なごみ」、洛和ヴィラ文京春日

■参加人数 70名

実施の目的

地域交流(健康教室や模擬店、くじ引きなど、地域の皆さんに健康について楽しみながら考えてもらうフェスティバル)



当日の様子

当日は70名ほどの来客があった。地域交流スペースでは、中学生の吹奏楽と小中高生のダンスの披露があり、駐車場では障害者施設や学習支援のボランティアによる出店で盛り上がった。

地域包括センターによるロコモ体操や健康くじ、無料のカレーライスの提供など、イベント盛りだくさんで行った。

地域の住民も巻き込んだ健康を考えるいい機会となったと思う。

地域の課題

地域への周知活動が少なく、来設者が少なかった。

どうしたら地域住民に施設の存在や、活動を周知できるか試行錯誤したい。

また、地域における課題がまだ把握できていない。こういった機会に来てくれる方を通して地域課題をとらえていきたい。また、今後はアウトリーチも継続的に行い、地域にとって必要とされる施設にしていきたい。

新町光陽苑

新町光陽苑 秋祭り ～秋の音楽会 音でつなぐ地域の輪～

■開催日程 10/25 10:30～14:15

■参加団体 株式会社あおいの杜(障害者グループホーム及び生活介護事業所)、社会福祉法人山鳥の会、障害福祉サービス事業所 ワークショップやまどり、傾聴ボランティアハッピー、DIS及びT4S(中学校跡地卒業生バンド)

■参加人数 200名

実施の目的

毎年実施していて7回目の秋のお祭りとなり、地域になじみのある団体による演奏会を午前・午後と実施し、地域の方々や入居されている入居者との交流等を図る機会とする。

当日の様子

模擬店としてカフェも実施しており、コーヒー等を飲みながらゆったりとした雰囲気の中、演奏の曲目も馴染みのある選曲となっており、演奏を聴いたり歌ったりと地域の方、入居者・ご家族が楽しそうに過ごされていた。

普段離床制限のある入居者の方でも会場に来て演奏を聴くことができ、気分転換をする機会となっていた様子が伺えた。

地域の課題

中学校跡地にできた施設で、会場(1階)は地域の交流スペースとなっており、演奏者と地域の方々も知り合い同士である。このように地域の方々と入居者・ご家族が交流できるイベントとして定着してきている様子も伺える。また普段苑内の掃除を業務委託している障がい者の団体の利用者に模擬店の店舗運営を依頼し、援助者のサポートのもと滞りなく実施され、利用者も恒例のことと定着している感もあり、ここでの活動が就労等に繋がる機会として今後も継続できればと考えている。

豊島区

デイサービス

カフェ・居場所

社会福祉法人フロンティア
高齢者在宅サービスセンター山吹の里
仄仄(ほのぼの)カフェ

- 開催日程 毎月第3木曜日 第1部10:30～13:00 第2部13:30～15:00
- 参加団体 あずまの会
- 参加人数 80名

実施の目的

2部制とし、1部は昼食の献立を決め買い物・調理と役割分担をして昼食を作って会食することで、認知症予防や身体機能の改善を、2部では近隣に居住する高齢者がお茶を飲みながら語り、交流を図ることを目的としている。

当日の様子

11月のある日、5名の参加者がテーブルを囲み、「お昼に何が食べたいか」相談をすることから仄仄カフェはスタートしました。ある参加者が、「私のふるさとの郷土料理、いも煮が食べたい」と話され、当日は寒かったこともあり参加者の意見は一致、お昼ごはんは「いも煮」を作ることになりました。その後、買い出しに出かけ、みなさんと協力して調理し、「いも煮」をいただきました。あったかくておいしい「いも煮」を食べて、みなさん身もころもほっこり、とても満たされた時間となりました。

地域の課題

地域の方々の予防に対する意識は高まっていますが、まだまだ集まりの輪に入りやすい雰囲気伝わっていないので、地域包括ケアセンターやボランティアと連携をしながらPR活動をして、年間を通じて地域の方々に親しまれる居場所になるように今後も継続して実施していきます。

社会福祉法人フロンティア デイサービス長崎いずみの郷

いずみサロン

- 開催日程 毎月第3日曜日 14:00～16:00
- 参加団体 社会福祉法人フロンティア デイサービス長崎いずみの郷
- 参加人数 208名

実施の目的

認知症の方やその家族、地域の皆さんが自由に集まり、お茶を飲みながら楽しく交流できる場として実施。



当日の様子

時間になると地域住民の方が集まってきて、好きな飲み物を注文し、お菓子を食べながらそれぞれの会話で盛り上がっている。時には「ちょっと気になること」の相談をする方もいる。後半では、全員で輪になって「としまる体操」を行い、楽しく無理なく体を動かすことで、普段は運動に消極的な方もこれならできると継続して参加される方が増えてきた。

地域の課題

少しずつではあるが地域の方への周知ができてきた。ただ、参加者が毎回同じ方たちになりつつあるため広げていきたい。また、男性が参加されるようなプログラムも考えていきたい。

豊島区

その他

その他

社会福祉法人フロンティア

夢を応援「茜パン」

- 開催日程 9～11月 平日15：00～16：00
- 参加団体 いけぶくろ茜の里
- 参加人数 2070名

実施の目的

障害者就労支援事業所「いけぶくろ茜の里」利用者による手作りのパンを、豊島区役所と連携の上、登録の学習支援事業所の子どもたちへ無償配布を行う。

当日の様子

事前に学習支援事業所より必要個数の連絡を受け、受取日午前中に焼いた手作りのパンやお菓子を手渡ししている。

その際に、子どもたちが喜んで食べている様子をお聞きしている。

9月から11月の間に5事業所、延べ2070個をお渡ししている。

地域の課題

学習支援事業所へ通う子どもたちにおいしく食べていただけるよう、一つひとつのパンを利用者が腕を磨き、一生懸命に作りました。

これからも、障がい者と、子どもたち、地域の方々をつなぐ架け橋となれるように活動していきます。

社会福祉法人七日会 特別養護老人ホーム千川の杜

杜のカフェ

- 開催日程 ①10/5 10:30~12:00
②11/2 10:30~12:00
毎月第1土曜日 10:30~12:00
- 参加団体 社会福祉法人七日会 特別養護老人ホーム 千川の杜
- 参加人数 19名

実施の目的

地域の高齢者や介護者等の憩いの場として、情報交換の機会を提供します。また、福祉の力を必要とする方を見逃さないために相談支援も行っています。必要な方には在宅での見守り活動を提供します。



当日の様子

日々新しいことを学びたいという気持ちと、これからの不安や制度についての疑問などを解決する為、茶菓子を召し上がりながらのんびりとした雰囲気の中、毎回テーマを決めて講義形式で行っています。10月は『病気・感染など、健康の為の知識』、11月は『いろいろな介護保険以外のサービス』というテーマで行いました。皆さんメモを取ったり、時間いっぱいまで質問や個々の思いを発表したりと盛り上がっていました。

地域の課題

高齢者のみの世帯が多い地域です。豊島区の高齢者支援は介護保険外サービスも多く、充実しています。新たな種類のサービス提供よりも、現在あるサービスの拠点を増やすことが望ましいと感じています。その一端となれるようなサービス展開を検討実施していきます。

豊島区

特養

カフェ・居場所

特別養護老人ホーム風かおる里

そよかぜカフェひまわり“味噌づくり”

- 開催日程 7/8 13:00～14:00
- 参加団体 みみずくサロン 喫茶そよかぜグループ
- 参加人数 11名

実施の目的

認知症状のあるなしに関わらず、地域の高齢者が集い、共に過ごす場所を提供し、認知機能低下予防や認知症への理解を深めていける場所になればと思い活動をしている。今回は、昔の思い出話を交えながら味噌作りを行い、参加者それぞれが交流することを目的とした。



当日の様子

民生委員主催のみみずくサロン参加者の皆様と、地域の高齢者が交流を含め、「味噌を作ったことある?」「私は昔、こうして作ったよ」など和やかながら、活気溢れる様子で作って楽しみました。「今日作った味噌は、いつ出来るの?」など話しており、出来上がりが待ちどおしいようでした。

地域の課題

現在は15名前後の参加者で、とても賑わっている。このカフェに来たことで、「生活が明るくなった」という方もいるのでうれしい限りである。今後の課題は認知症に関する相談を始めたり、現参加者と地域の認知症の方が気軽に交流できるような場を設けていくことである。

社会福祉法人至誠学舎東京 みどりの苑

グリーンカフェ（認知症カフェ）

- 開催日程 毎月第3月曜日 10:30~12:00
- 参加団体 前野地域包括支援センター、志村警察署
- 参加人数 32名

実施の目的

地域の皆さんどなたでも参加していただき、認知症に関する相談や簡単な脳トレーニング等を行う。



当日の様子

10/21、志村警察署の方に来ていただき、高齢者詐欺防止の講演会を行っていただいた。電話でのオレオレ詐欺やATMを使用しての詐欺など事例をもとに寸劇形式で行っていただいた。皆さん真剣に話を聞きいていた。参加者の皆さんからは、「親戚の人や自分の親にもしっかりと今日聞いた話を伝えたい」と感想があった。

地域の課題

認知症カフェと聞くと認知症の方のカフェだと思っている人が多く、だれでも参加が可能なことをもう少しアピールできたら良いと思う。また、認知症の家族がいる方にももっと多く参加していただき、意見交換等が行えるとよいと思う。今後も継続して続けていきたい。今後、毎月警察の方に来ていただき、交通ルール等もお話していただくこととなっている。

板橋区

特養

学びの機会

社会福祉法人みその福祉会 ケアタウン成増

地域で学べる介護講座

- 開催日程 ①9/9 13:00～14:00
②11/18 13:00～14:00
- 参加団体 社会福祉法人みその福祉会、氷川薬局
- 参加人数 41名

実施の目的

近隣にお住いの皆様を対象に在宅介護で役立つテーマを取り上げて、福祉の専門家により、分かりやすく介護や医療について学べる機会を提供する。



当日の様子

今年度4回開催予定の2回目の講座となります。今回は近隣の薬局の薬剤師の方にご協力いただき、「薬の知識～知って納得!! 薬の飲み方」を開催しました。普段使用しているお薬手帳の役割やメリット、飲み忘れ防止のためのお薬カレンダーの活用法等の身近な事に関する説明や、誤嚥のリスクや原因、予防法の説明。内服薬が多い方への一包化の紹介や服薬しやすいゼリーの紹介(実際に試飲も)等を行いました。実際にゼリーやお薬カレンダーなどを見ていただくと知らなかった方も多く、一包化等もこれから考えてみたいなどの声もありました。

地域の課題

今回はランチクラブや近隣のサロンの方の参加が多く、今回のような内容などは、介護をするご家族の方へも知っていただいても良いかと感じましたので、今後は介護をしているご家族への参加を促し、幅広くご参加していただけるように周知方法を検討していきたいと考えています。今後も定期的に(年4回程度)地域の皆様と共に介護を学ぶ機会をつくりたいと考えています。

社会福祉法人聖風会 特別養護老人ホーム台東

ふれ愛♡たいとう祭り

■開催日程 11/17 10:00～15:00

■参加団体 特別養護老人ホーム台東、特別養護老人ホーム蔵前、うえの高齢者在宅サービスセンター、台東区子供家庭支援センター、台東寮(障害施設)

■参加人数 200名

実施の目的

地域交流を目的として、地域の方々に施設を知ってもらうことと、複合施設の特徴を活かして、子ども・障がい者・高齢者が一体となって交流する目的。

当日の様子

当日は、近隣の上野音楽大学生による演奏をオープニングで行い、地域のママ団体のフラダンスチームを招待し、フラダンスを披露してもらいました。その他にも前年好評であったホーム喫茶・野菜の販売・Nゲージ等いろいろなイベントを企画し、小さい子どもたちからお年寄りまですべての人が楽しめるようにしました。

想定外に子どもたちの数が今年は少なかったので、少し活気には欠けましたが、参加された方々や利用者からは、「とても楽しかった。」「こういうお祭りはいいね。」といった意見が多く聞かれました。また、利用者の絵の展覧会も反響がよかった。

地域の課題

前年の反省を活かしつつスケジュールや担当者を決め、それを統括する人の配置など、けがのないよう安全には配慮しました。ただ、開催場所が地下1階から3階までの広範囲の為、情報が錯そうしてしまって、ボランティアの方々をはじめ、職員も現状を把握できないことが多々ありました。

地域の行事等も考慮したのですが、予想に反して来場者が少なく、日程を10月から11月に変更したことで、「今年は開催しないのね。」といったイメージを与えてしまったと思います。来年度からはなるべく同じ月で開催したいと思いました。

台東区

特養

地域交流

特別養護老人ホームフレスコ浅草

屋上菜園を通しての交流

■開催日程 毎月第1土曜日 14:00～16:00

※子どもたちの学校行事等により変更あり

■参加団体 一般社団法人遊心、ジャパンベジタブルコミュニティ

■参加人数 100名

実施の目的

屋上菜園を通して、近隣子ども達に土や作物に触れる体験の場をつくり、野菜や果物を子育てファミリーと共に育てることによって、高齢者施設を利用した世代間交流を目的とする。

当日の様子

屋上菜園で育った野菜を子ども達と収穫し調理した。包丁を持つのも初めてという子どももいたが、スタッフ、お母様と一緒に挑戦し、完成した“野菜たくさんちゃんこ鍋”を利用者さんと一緒に食べた。毎月、交流会を行っているため、子ども達との関係性も築けており、和気あいあいとした雰囲気の交流会であった。



地域の課題

参加している子ども達の友達も交流会に興味を持っているとのことだったので、積極的に声を掛け、参加者を増やしていく。また、その為に菜園の拡張も行っていく。

近隣の保育園の園児も定期的に訪問してくれているが、その保育園用の菜園の設置も検討していく。

今後は、子育てファミリーだけではなく、近隣に住む一人暮らしの高齢者の参加も目指していく。

荒川区立東日暮里在宅高齢者通所サービスセンター

介護者教室

- 開催日程 ①9/20 13:30～14:30
②10/17 13:30～14:30
③11/25 13:30～14:30
※6～8月、12月にも実施
- 参加団体 荒川区立東日暮里在宅高齢者通所サービスセンター
- 参加人数 50名

実施の目的

地域の高齢者福祉施設として施設利用者家族をはじめ、地域住民へ向け、介護の技術や、高齢者に関わる知識などの教室を開き、高齢者福祉の向上を図る。

当日の様子

少人数の参加の中で、講師から事細かく丁寧に高齢者介護に関わる講義を受けることができ、今後の介護に大いに役立つと感じた。

地域の課題

介護者教室の参加者が毎回5～6人であり、PRを強化し、地域における高齢者福祉への関心を高めていきたい。

足立区

特養

地域交流

特別養護老人ホームプレミア扇

プレミア扇 地域交流会 2019

■開催日程 11/3 10:30~14:30

■参加団体 足立六中吹奏楽部、禧響(ききょう)和太鼓、セブンイレブン本木西町店、トポスの会ウィズユー

■参加人数 472名

実施の目的

同じ地域に住む住民や高齢者・子ども達と交流を図り、施設と地域の輪を広げる事を目的としています。



当日の様子

今年で9回目となった地域交流会も天候に恵まれての開催となりました。毎年恒例の焼きそば等の模擬店やバザー、野菜詰め放題は人気で長蛇の列ができ、またキッズブースではスーパーボール作りとハーバリウム作りを行い、子どもたちからは、「楽しかった」との声をたくさん頂きました。今年で2回目となった認知症サポーター養成講座では30名の方が参加され、理解を深めることができました。外部の団体にもご参加頂き一層賑やかとなりました。子どもから高齢者まで幅広い年代の方々が参加され、世代間を超えた交流の場となりました。

地域の課題

アンケートの集計結果、「どんな所か知ることができてよかった」、「地域との交流の場を作ってくれてありがたい」等の内容の意見が多く上がりました。またこの交流会では、ボランティアや外部の団体も参加されたり、地域の方々と輪を広げることができました。毎年バザー等の売上金は社会福祉協議会に寄付しており、今年も寄付する予定となっております。今後も地域の方が住み慣れた場所で安心して暮らしていくことができるよう地域交流会を続けていきます。

社会福祉法人聖風会 花畑あすか苑 あすふえす実行委員会 あすかフェスティバル Power of Smile ～笑顔の力で～

■開催日程 ①11/2 10:00～15:00

②11/3 10:00～15:00

■参加団体 花畑地域学習センター、花畑住区センター、花畑公園・桜花亭、コープ
みらい花畑店、株式会社鮎忠、足立区地域包括支援センターはなはた、
足立区地域包括支援センター保木間

■参加人数 300名

実施の目的

上記参加団体とともに開催する「花畑合同ふれあいまつり」の一環として開催。合同開催にて花畑地域一帯で連携し、地域住民や入居者に楽しんで頂くことを目的とする。同時に施設をPRする場としていく。

当日の様子

地域のお祭りに参加させていただき3年目。更なる内容充実を目指し、模擬店メニューの増量やお楽しみ頂ける取り組みを充実する。オープニングは「江戸あだち太鼓 大鷲会」による演奏より開始。施設入居者は勿論の事、地域住民等々、老若男女関係なく楽しんでいただけた。その他ボーイスカウトによる射的等のゲームコーナーや、東武ビルマネジメントによるクリスマスチャーム作り等、広く“つながり”を大切にプログラムした。昨年に行った施設内の足湯については、初めて日曜日にも開放。利用者も昨年度比数倍となり、大盛況であった。

地域の課題

このお祭りを今後も継続開催していく中で、あすかカフェの運営と共に、更に花畑あすか苑を知って頂きたい。また、より地域に出向く機会の増加に努めつつ、地域情勢やニーズ把握、貢献していくための展開を推し進めていきたい。

全国援助職ネットワーク

2019RUN伴あだち

■開催日程 10/26 12:45～17:20

■参加団体 全国援助職ネットワーク、足立区、足立区社会福祉協議会、特別養護老人ホームハピネスあだち、特別養護老人ホームさくら、ジョイリハ西新井、はんなり、ツクイサンシャイン足立、日介ケアセンター島根、そんぽの家s扇大橋、そんぽの家s足立保塚、そんぽの家s王子神谷、大内病院、在宅サービスセンター西新井、あいあいサービスセンター、ケアバンクシステム株式会社、スマイルエイジングパートナー、KEIROWマッサージ綾瀬、日本調剤株式会社、梅元ケアセンター

■参加人数 380名

実施の目的

認知症の人や家族、支援者、一般の人がリレーをしながらタスキを繋ぐという「非日常な」体験・出会い・気づきから、認知症の人と一緒に誰もが暮らしやすい地域づくりを目指すことが目的。



当日の様子

初開催にも関わらず、多くの方の参加があった。足立区役所をスタートし、86名のランナーが各事業所を約20名ずつでタスキを繋いだ。認知症の当事者の方は10名の参加があり、家族や支援者が支えながら歩き、途中からは感動で涙を流される当事者の方もいた。各中継地点では各事業所の職員が飲み物やおにぎりなどの軽食を準備し、歩いてくる方に対して心のこもったおもてなしがあり、笑顔が絶えず終始和やかな雰囲気となった。

地域の課題

高齢化率が23区でトップとなった足立区においては、認知症への理解が不可欠である。認知症があってもなくても安心して暮らせる地域づくりをしていく為に、更に認知症の啓発活動を進めていく必要がある。その為には事業所同士の横の繋がりを作ることが更に求められると考える。また、それぞれの事業所での質の向上を図ることが課題である。

社会福祉法人愛寿会 紫磨園在宅サービスセンター

キネシス(トレーニングマシン)開放

- 開催日程 毎週月、水、金 17:00~18:00
- 参加団体 社会福祉法人愛寿会 紫磨園在宅サービスセンター
- 参加人数 2200名

実施の目的

施設にあるハイレードなトレーニングマシン“テクノジムキネシスサーキット(4種)”を主としたトレーニングスペースを定期開放(無料)。利用していただくことで、近隣住民の健康維持・増進・改善に資する。

当日の様子

いつも、和気あいあいとみなさまトレーニングを楽しんでいます。

※11~3月の間は、施設の感染症対策として、マスクの着用を必須としている。



地域の課題

開放を初めて丸2年が経過。「横断歩道を渡るスピードが速くなった」、「買物に行くのが“苦”でなくなった」、「姿勢が良くなったと近所の人から言われる」など、喜びの声が聞こえてくる。

去年は、デイサービスの利用者増に伴い、マシンを4台増設(別種)。短い時間でも多くの方々に利用していただけるようになった。また、昨年からは3ヶ月周期で体力測定を実施し効果を検証している。客観的な成果が公表でき、他の事業でも開放が進めば、地域全体の健康寿命の延伸につながるのではと、期待している。

足立区

特養

地域交流

いちかポケットの会(協力：特別養護老人ホームさくら)

子ども食堂いちかランチ

- 開催日程 3/23、4/6、6/1、6/22、7/27、8/31、9/21、10/26、11/16、12/21 12:00～15:00(いずれも土曜日)
- 参加団体 いちかポケットの会、谷在家団地サロンいろり、キッズドア(足立区西部居場所学習支援)、足立区立鹿浜第一小学校PTA、足立区立鹿浜第一小学校開かれた学校づくり協議会、社会福祉法人邦栄会(特別養護老人ホームさくら)協賛：セカンドハーベストジャパン、パルシステム東京足立、小林商店、下山畜産(株)、北足立市場花鮮、矢作農園、足立区NPO活動支援センター、都市農業公園、江戸餅つき屋
後援：足立区社会福祉協議会
- 参加人数 520名

実施の目的

近年、様々な家庭の状況による、「子どもの孤立、食の偏り」が懸念されている。「みんなで楽しく食べられたら、もっとおいしくなるよね。」が、運営スタッフの合言葉。小中高生を中心とした食育と交流の拡大を行う。



当日の様子

メニューはシンプルで、おにぎりとスープ、食後のコーヒー。

乳幼児連れの若いママ友、小中学生、高齢者が、世代を超えたグループを作り、食事とゲーム。子ども達のボードゲームを高齢者が覗いて、明るい会話と笑い声が弾む。乳幼児コーナーでは、ママ友達が会話をしながらの食事。山積みされたおにぎりはすぐに無くなり、子ども達がスープのおかわりを。

参加の高齢者は、月1回が楽しくて。ママ友達は、子どもから目を離せない。ここに来れば、準備も片付けもいらないし、楽しく食べられる。小学生達は、「今度はいつ～?」と。

地域の課題

最近、子ども食堂への期待と要望は大きい。「月1回の開催では、足りない。」との声が多く寄せられる。小中学校の長期休業期間の昼食や、普段の朝食を求められることも多々ある。開催回数を増やすためには、開催場所の確保、地域との連携、スタッフの質の向上、ボランティアの増員、運営資金の確保など課題が多い。まずは、昼食月2回、晩食月2回を目指すことと、小中学校の長期休業期間での昼食開催と居場所づくりを目標とする。

たちばなホーム

たちばなホームカフェ

- 開催日程 毎月第2木曜 13:30~16:00
- 参加団体 たちばなホーム
- 参加人数 25名

実施の目的

開設以来運営していた福祉喫茶が閉店となった後、近隣の方が歩いて行けるちょっとした場所がなくなり寂しいとの住民の声から始まる。ちょっとお茶しながらおしゃべりすることで閉じこもり防止、交流の場となる。

当日の様子

毎回来店する方、ボランティア活動の後寄られる方、入居者のご家族等、様々な方が来店している。お客さま同士で話が弾み、思わぬ交流が生まれることもある。来店するという予定があることで張り合いが出ている方もいた。

地域の課題

高齢者だけでなく、様々な年代の方に利用していただけるような工夫が必要であると感じている。小さな施設の限られたスペースだが、地域のニーズに応じた活動を行っていきたい。

墨田区

特養

地域交流

墨田区特別養護老人ホームはなみずきホーム

はなみずきホーム オープンハウス

- 開催日程 10/6 10:00～13:30
- 参加団体 特別養護老人ホームはなみずきホーム、リトルツウインクル(トーンチャイム)、葛飾落扇指南所(落語)
- 参加人数 100名

実施の目的

町会関係者や介護事業所、ボランティア等、地域の関係機関との協働により、世代を超えて地域に開かれた施設を目指す。

当日の様子

地域住民、職員家族、施設ご利用者のご家族など多くの方が来園され、模擬店(焼きそば・じゃがバター・フランクフルト・お赤飯・ソフトクリーム等の販売)やジャズバンド・トーンチャイム・落語・大道芸、ゲーム大会等のイベントを開催し、地域の方のみならず、施設ご利用者も一緒に鑑賞され大盛況でした。地域住民・ボランティア・ご利用者家族が施設に行く機会を設けることができ、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。

地域の課題

福祉施設ということもあり、模擬店・イベントだけでなく、介護体験等コーナー(リフト体験、ベッド操作体験等)を設けて、地域の皆様に福祉の現状、理解を深める機会を設けていければと考えております。また、学生ボランティアにも協力して頂けるように開催時期等検討・PR活動していければと考えております。

特別養護老人ホームケアホームズ両国

動物ふれあいフェア

■開催日程 10/26 10:30~11:30

■参加団体 特別養護老人ホーム ケアホームズ両国、東京コミュニケーションアート専門学校 eco

■参加人数 30名

実施の目的

施設内で好評な企画を地域の方にも発信し、交流の場を持つ。

当日の様子

犬・猫のおなじみの動物の他にモルモットやハリネズミといった普段は触れ合う機会があまり無い動物も来てくれたため、「めずらしい。かわいい。」と、ご入居者に喜んでいただけた。また、ご入居者のご家族や、近所のご家族も飛び入りで参加され楽しんでいた。

地域の課題

施設と地域住民の方々が気軽に交流が図れる施設となるよう、地域の方々も参加して頂ける企画を検討していきたい。

社会福祉法人東京栄和会 なぎさ和楽苑

なぎさ☆キッチン

- 開催日程 9/6 16:30～19:30 毎月第1金曜日 ※変更の場合あり
- 参加団体 都市型軽費老人ホームJOYなぎさ入居者、なぎさ和楽苑ボランティア(個人・団体登録)、なぎさ和楽苑職員
- 参加人数 60名

実施の目的

食育や学習支援を視野に入れた放課後の居場所として、子どもの健全な成長の支援に貢献する。また地域の「集いの場」として、多世代の交流を促進すると共に、参加者から地域ニーズを把握する場として活用する。



当日の様子

幼児連れのお母さん、小学生、地域の熟年者等が来苑。大人(熟年者含む)と子どもは半々の割合、リピーターも多い。家族連れや仲間同士での来苑、一人で来苑し会場で出会いを楽しむ方等様々。会場はテーブルをつなげ、自然と相席となるように配置し、隣り合った方々で会話が生まれている。小学生も給仕スタッフである入居者の顔を覚えており、ニックネームで呼んでくれる子どももいる(毎回従事する入居者・職員は缶バッジの名札をつけている)。食前は宿題を済ませ、食後は公園でのシャボン玉遊びが恒例。熟年者も微笑ましく眺めている。

地域の課題

近隣には高齢化が進む集合住宅も多く、地域包括支援センターの相談等で、地域から孤立しがちな熟年者が気軽に足を運べる場として、またボランティア活動の場としても提案している。参加者には生活状況等を話す方もおり、ゆるやかな見守り・支援の場として役割を果たしたい。

地域には学校も多い。現在は小学生が中心だが、経年で参加出来る場づくりを心掛け、若年世代が自然に熟年者や福祉に携わり続ける機会を提供したい。

当苑のボランティアは約5000人。本活動に着目して頂く事で、地域づくりへの参画者増加が期待できる。

社会福祉法人東京栄和会 なぎさ和楽苑

あしたばカフェ(若年性認知症カフェ)

- 開催日程 10/20 13:30~15:30 原則偶数月 第3日曜日に開催
- 参加団体 あしたば会家族、フリーサロンあしたば利用者、なぎさ和楽苑職員、NPO法人(障害者支援団体)
※あしたば会・・若年性認知症の方を抱える家族の会
※フリーサロンあしたば・・若年性認知症専門デイサービス
- 参加人数 50名

実施の目的

若年性認知症啓発活動の一環。若年性認知症の社会資源が少ない中、江戸川区内唯一の専門デイサービスと家族会協力の下実施。当事者やその家族が気軽に立ち寄りやすいカフェスタイルで開催。



当日の様子

若年性認知症のご本人やその家族、ボランティア、職員(ケアマネジャー、介護員等)がそれぞれ配置され活動する。初めて来られた方には、職員が介入しながら家族につなげ、情報交換する場面も見受けられた。フリーサロンあしたばの活動で作成した缶バッジについて、製作者自らが販売することでモチベーションも高まっている。10月のカフェはスウェーデンの楽器「ブンネギター」を利用し皆で演奏するという体験型カフェを行うことで、一体感を味わうカフェとなった。

地域の課題

2ヶ月に1回のあしたばカフェ開催場所は当苑内に定着してきたが、実際に足を運ばない本人、家族もいると思われるため、よりその地域に出向いた「出前あしたばカフェ」を試みたいと考えている。カフェを行うことで、若年性認知症についてお悩みになっている方やその家族など、まだつながっていない方々にも知っていただく機会として、出前的な要素も踏まえたカフェについて検討をすすめていきたい。さらに、カフェ参加も定着したNPO団体とも双方で活動の幅が広がるような取り組みを引き続き行っていきたい。

社会福祉法人三幸福社会 特別養護老人ホーム癒しの里西小松川

ちょっとよりみち 癒しの茶店「あじさい」

■開催日程 10/19 13:30～16:00

■参加団体 癒しの里西小松川、社会福祉法人SHIP就労支援B型事業所エスプリドゥ

■参加人数 10名

実施の目的

- ①地域住民を施設にお招きし、顔の見えるつながり作りをする。
- ②地域貢献活動として、楽しみのあるイベントを企画し、住民の居場所づくりの足掛かりとする。
- ③ワークショップにて、地域の中での課題の聴取をする。

当日の様子

当日は、7名の地域の方の来所があり、3名のご入居者様とともにパン作り体験と、ワークショップを実施した。ワークショップでは、「地域での困りごと」、「癒しの里に期待したいこと」をテーマに意見交換を行い、災害時の不安や住民同士の交流の希薄さ、町会の高齢化の問題等が挙げられた。また、施設が地域に何をしてくれるのか、何を期待したらいいのかわからないとの声も聴かれ、地域との関係づくりに多くの課題を見いだすことができた。ワークショップ後には焼き上がりのパンをお持ち帰り頂き、参加者に喜んで頂くことができた様子。

地域の課題

ワークショップにて聴取したご意見を今後の活動の参考としていきたい。施設への期待に関して参加者からの意見があがりにくく、その背景に施設の取り組みが住民から見て不明確な事、住民との関係性が未だ作られていない現状があることが感じられた。また、町会の高齢化(次世代を担う若年層の町会参加率の低下)や住民同士の交流の希薄さも大きな課題として捉えられた。今回のような活動を定期的開催していくことで、住民同士や施設と住民とのつながりがより深まっていけるよう、今後も取り組んでいくこととする。

社会福祉法人江東園

第2回 おやこ映画会

■開催日程 12/21 14:00～15:30

■参加団体 エドガワスマイルコミュニティ委員会(江戸川共栄商店街振興組合、江戸川一丁目町会、江戸川二丁目町会、江戸川二丁目都住自治会、東部第一地区民生児童委員協議会、東婦会、青少年育成瑞江地区委員会)、東部図書館、一般社団法人ハギュット協会

■参加人数 128名

実施の目的

すべての世代が積極的に関わりを持ち、支え合いながら暮らすことができる地域社会「エドガワスマイルコミュニティ」の実現。

当日の様子

親子を中心に128名が参加。「冬」、「クリスマス」にちなんだ映画を放映。司会を法人の保育士が担当し、会場の子ども達に質問するなど参加型のかたちをとったため、満足度が高かった。映画の合間に行った認知症サポーター養成講座には法人の老人ホーム利用者にも協力を得て、実際の声掛けの実演を行った。

地域の課題

地域リーダー(町会の後継者など)の発掘。今後も中学生と高齢者の対話の会「地域会議」、認知症のある方に声をかける「認知症声かけプロジェクト」の3つもを行い、引き続き地域づくりを行う。

江東区

特養

地域交流

特別養護老人ホームあそか園

第8回 あそか園地域交流祭り

■開催日程 9/29 13:00~16:00

■参加団体 深川第四中学校、深川第六中学校、深川第七中学校日清医療食品(株)、
シルバーとっぷ(株)

■参加人数 100名

実施の目的

社会福祉法人に対する社会貢献活動の一環として、あそか園を地域交流の場として開放する。地域の一員として、様々なイベントを開催し、施設を身近に感じてもらう。



当日の様子

当日は雨天の予想となり、特設ステージの開催は中止とさせて頂き、雨天時の会場レイアウトにて開催。悪天候が予想されたが、結局雨はほぼ降らず、園庭にも飲食スペースやバザースペースを広げ実施。今年で8回目の開催となる為、地域の方の来場も多く、ゲームコーナーや福祉体験コーナー等、各ブースで楽しんで頂けたと感じる。また、今回は業者ブース(シルバーとっぷ様)を設け、正しい靴のサイズの測定を行って頂き、専門的な知識を来場者の方に提供でき良かったと感じる。

地域の課題

社会福祉法人として専門性を地域へ還元し、施設と地域住民の方が暮らしやすい街づくりに尽力していく必要がある。また、福祉の後進育成の観点から、今後も小・中学生が少しでも福祉に興味を持ていただけるように近隣の学校や児童会館等へのアプローチを継続していきたい。

3年後には施設移転を控えており、新施設にて地域交流スペースを設けることとなっている。将来的には地域交流まつりに加え、定期的に自施設を地域住民等に開放し、あそか園が地域福祉の核となれる事を目指していきたい。

社会福祉法人江東ことぶき会 コスモス老人福祉施設

コスモス老人福祉施設 納涼祭

■開催日程 8/4 11:00~16:00

■参加団体 ①コスモス老人福祉施設(特別養護老人ホームコスモス、コスモス短期入所施設、コスモス高齢者在宅サービスセンター、グループホームこすもす、ケアハウスこすもす、大島東長寿サポートセンター)のご利用者・ご家族・職員

②ボランティア(雲龍太鼓・浴衣着付け・個人)

■参加人数 546名

実施の目的

施設のご利用者様を中心に町内のお祭りとして、飲食屋台、ゲーム、催し物を実施し、日常生活で感じられない雰囲気を楽しんでいただく。また、施設をより多くの方に知っていただき交流することで、地域密着型の施設を目指す。

当日の様子

今年は東北地方・京都府・沖縄県をモチーフにした内容で、普段足を運ぶことのできない他県の雰囲気を楽しんでいただけた様子。ご利用者様やご家族様を始め、地域の方々の参加も多く、大盛況だった。初夏の暑い時季でしたが、涼しく過ごせる環境を作ることで、事故等なく開催できた。

地域の課題

課題：納涼祭の開催について、近隣の施設や商店等にポスターを配布しているが、お気づきでない地域の方の声もあった為、次回は広報等工夫が必要。

今後の活動：より多くの方に施設を知っていただける様継続していきたい。

江東区

複数施設共催

認知症

社会福祉法人江東ことぶき会 コスモス老人福祉施設

コスモス老人福祉施設 認知症サポーター養成講座・施設見学会

■開催日程 11/17 13:30～15:30

■参加団体 ①コスモス老人福祉施設(特別養護老人ホームコスモス、コスモス短期入所施設、コスモス高齢者在宅サービスセンター、グループホームこすもす、ケアハウスこすもす、大島東長寿サポートセンター)のご利用者・ご家族・職員

②地域の方

■参加人数 19名

実施の目的

- ①認知症についての理解を深めていただき、地域ぐるみで認知症の方やそのご家族をサポートできる力を少しでも増やす。
- ②施設見学により実際に見ていただくことで、福祉施設に関心をもっていただく。

当日の様子

- ①認知症のご家族を介護されていらっしゃる方が多く、「認知症について知ることが出来よかった。」「(認知症の方の行動や対応について)なんでだろう・どうすればいいのだろうと悩んでいたことが少しすっきりした。」というような感想が聞かれた。
- ②浴室や利用しているサービス以外のフロアを見学することにより、様々なサービスがあることが分かった。

地域の課題

課題：近隣事業所などに案内をしたが、施設関係者(ご利用者・ご家族・職員)以外の参加は3名と少なく、広報活動の工夫が必要。

今後の活動：より多くの方に施設を知っていただける様継続していきたい。

社会福祉法人フロンティア 高齢者グループホームおさたけ おさたけみんなのランチ お食事会 ～ワンコインでみなさんと一緒に食事会～

- 開催日程 毎週月～土曜日 12:30～15:00 ※要予約 3～4名
- 参加団体 社会福祉法人フロンティア 高齢者グループホームおさたけ
- 参加人数 35名

実施の目的

手作りにこだわった食事と、毎食『美味しいね』と笑顔になって、生きる源となることを大事にしています。また、地域の方々やお客様をホームに向かい入れることにより、ご利用者の社会性を保つことを目的として実施している。

当日の様子

予約制なので、決められた人数(1日最大4名まで)とし、ワンコインでは味わえない食事内容、また普段作るのが面倒なメニューを提供することを心掛けている。来ていただいたお客様には満足していただき、ご利用者も普段とは違う顔ぶれの中での会話を楽しんでいます。来られた方々の中にはリピーターの方も多く、「おさたけの食事を毎日食べられるなんて、ご利用者の方はうらやましいわ」という声もあり、利用者の方は「毎日毎食、楽しみなのだから幸せよ!」と話されています。

地域の課題

地域の社会資源の一環として根付かせたいが、食事作りはスタッフがやるためスタッフの負担が大きくなってしまう。また、地域の方といっても認知症高齢者の方のホームであるため、そうそう毎日というのはご利用者の心の負担も考えると、バランスをとりながらの実施をせざるえないところが課題の一つと考える。

杉並区

特養

地域交流

社会福祉法人真松之会 和田堀ホーム

納涼祭 ～ふれあい動物園～

- 開催日程 8/24 10:00～16:00
- 参加団体 協賛：ヤクルト、東京ガス、伊藤セレモニー、ザ・スタッフ
出張依頼：JCSイベント（移動動物園）
- 参加人数 250名

実施の目的

地域に開かれた施設と地域貢献を目指し、一般の方も参加しやすいお祭りにし、楽しんで頂く。

当日の様子

ふれあい動物園の他に縁日ブース（小学生以下無料）、スピードくじ、東京ガスによる電気相談コーナーも用意したことにより、来場者からは、「お祭り・イベント感があって楽しかった。」「夏休みも終わりに近かったが、小さい子が楽しめる場があって良かった。」等の声があった。

区内の学生ボランティアや企業協賛を募り、施設利用者にも様々な方との触れ合いの場が提供出来た。

地域の課題

「ここはどういった所？」、「こんな所に施設があったんですね。」等の声があった。施設側としても一般開放スペースが施設玄関前・駐輪場・駐車場であった為、福祉施設をイメージしてもらいにくい状況であったように感じられた。今後の課題としては福祉相談コーナーや施設見学会といったものも併せて企画・検討していく。また地域参加型の催し物も考えていく。

社会福祉法人浴風会

浴風会つながるフェスタ

■開催日程
■参加団体

10/19 10:00~16:00

<協賛>(医)ウイスタリア歯科クリニック、(株)ヴァンクール、(株)SLC、エームサービス(株)、(株)大塚商会、(株)オオノプラザ薬局/環境管理(株)、(株)クリニコ、(株)グリーンヘルスケアサービス、(医)恵安会 日大通り歯科医院、ケンコーマヨネーズ(株)、(株)光洋、(有)黒光商事、(有)サガミ・ミート、三機工業(株)、(有)新日本総合インテリア、(有)新和印刷、(株)杉田フューネス、第一生命保険(株)、(福)東京リハビリ協会、(株)トーカイ、東京パック(株)、東洋羽毛首都圏販売(株)、(有)内藤電気商会、日京クリエイト、日清オイリオグループ(株)、日本エンゼル(株)、白十字(株)、箱根植木(株)、(株)バインメディカル、(株)ビアン、フォワード98(株)スマイルケア西東京、(医)プラスアルファあべ歯科クリニック、プルデンシャル生命保険(株)、HONGKONG DINING 彩、ミサワホーム(株)、(医)明法会、(株)ユリクリエイト(50音順)

<協力>社会福祉法人新の会はあと・ふる・えりあ、社会福祉法人いたるセンター 阿佐谷福祉工房・パン工房PukuPuku、井の頭管弦楽団有志、社会福祉法人かたつむり会ワークショップ・かたつむり、グループあさがや、工房ラルゴ(とうふ屋らるご)、社会福祉法人JHC赤・JHC板橋会、下北沢一番街やっこ連、NPO法人障害者就労支援センターどんまい福祉工房、杉並区スポーツ推進委員チーム井の頭線、杉並区立富士見丘中学校、杉並区成年後見センター、smile girls、一般社団法人セーフティネットリンケージ、高井戸警察署、高井戸こだま会、TAKANIチアダンス、手づくり工房結、社会福祉法人同愛会あすなろ作業所、東京都立永福学園、日本ユニバーサルボッチャ連盟、認知症介護家族よくふう語ろう会、ビバ太極拳、プリムラ、学校法人 古屋学園(二葉栄養専門学校・二葉製菓学校)、NPO法人プロックK (順不同)

■参加人数

600名

実施の目的

法人理念でもある「地域との協働と社会貢献」を踏まえ、誰もが安心して暮らせるまちを目指して医療や介護に関する情報を地域住民に発信し、地域包括ケアに向けて地域との架け橋になることを目的に開催した。

当日の様子

法人内の各施設では様々な催しが行われ、講演会や歴史見学ツアー、フリーマーケット、バザー、健康測定コーナー、カフェコーナーなどに加え、来年のオリンピック・パラリンピック競技のボッチャの体験会や、認知症徘徊見守りアプリを使ったスタンプラリーなど体験型のイベントも増え、参加者と会場一体型の催しとなった。第8回を迎え、法人内外から様々な企画や協力が増え、子どもから高齢者まで幅広い年代の地域の方々が集い、コンセプトである“知る！見る！体験する！交流する！”に合ったアットホームなフェスタとなった。

地域の課題

協賛・協力いただいた企業からも、「地域貢献事業として有意義だった」等のご意見を頂戴し、地域の方々へ向けて顔の見える関係作りにも結び付いているのではないかと実感した。年々地域の方にも浸透してきており、楽しみに待っていてくださる方も増えてきている。浴風会が地域の拠点となり、地域の方の交流の場となるように、これからも誰もが安心して暮らしていける為に、法人の力を集結して地域貢献に邁進していきたい。

杉並区

デイサービス

介護予防や高齢者支援

社会福祉法人浴風会 南陽園在宅サービスセンター

ももの木トレーニング

- 開催日程 毎週水曜日不定期の土曜日(月2回) 各13:30～16:30
- 参加団体 社会福祉法人浴風会 南陽園在宅サービスセンター
- 参加人数 385名

実施の目的

施設の機能訓練室と筋トレマシンを利用し、地域高齢者の介護予防と集いの場提供による外出やコミュニティの形成の促進を図る。

当日の様子

当施設の機能訓練室を開放し、利用者間での交流を楽しみながら6台のマシンを使って自由にトレーニングができる場として利用している。

多い日には30名程度来園し、それぞれ自身のペースでトレーニングを楽しんでいる。終了後にはロビーで、ボランティアが淹れるコーヒーを飲みながら、談笑・情報交換をされている姿も見受けられ、集いの場として活用されている。また、初めて利用する方には職員がマシンの使い方を説明しているが、二回目以降は利用者間で助け合う場面が多く見られ、自助互助の環境も自然と作られている。

地域の課題

当施設近隣にはひとり暮らしの高齢者が多く生活されている。運動を好む方・苦手な方、外出の多い方・少ない方と様々であり、ご近所であっても「ももの木トレーニング」をご存じでない方もまだ多くいらっしゃる。この活動を知っていただくことを続けていくとともに、運動するだけでなく、「ももの木に行けば友達に会える」という雰囲気づくりを目指していきたい。

社会福祉法人浴風会 南陽園在宅サービスセンター

みんなの生き生き健康教室

- 開催日程 令和1年 8/29～令和2年 3/26まで 14:00～16:00
- 参加団体 社会福祉法人浴風会 南陽園在宅サービスセンター
- 参加人数 403名

実施の目的

65歳以上の近隣高齢者の外出機会創出と介護予防のため、トレーニング機器を使って安全で効率的な運動を行なっている。

当日の様子

各回とも定員20名をほぼ一杯となっている。看護師が常駐している環境のなかで、実施前後に体力測定を行い、トレーニング機器を使った運動やストレッチ、バランス訓練、ホームトレーニングの指導など、安全で効率的な運動をおこなっている。また、ボランティアの方々が毎回数名ずつ活動のサポートをしており、利用者の効率的な運動の手助けとなっている。

地域の課題

毎回、ほぼ満員となっている。引き続き活動を充実させていくことのほか、今後に向けて、リピーターが増えている現状と合わせて新規の利用者の参加促進を検討していきたい。また、新たなボランティアの確保については、参加者からサポーター(ボランティア)へ転向していただけることもあり、このような取り組みを通じて、地域高齢者の役割の獲得や社会参加活動の一助にもなっていきたい。

練馬区

特養

地域交流

特別養護老人ホーム練馬キングス・ガーデン

やきいもホクホクDAY2019

■開催日程 11/2 14:00~15:30

■参加団体 東京都立練馬工業高等学校、NPOホサナ(ホサナショップ、シンプルライフ)、練馬区社会福祉協議会、社会福祉法人あかねの会、社会福祉法人雲柱社(光が丘第六保育園)、社会福祉法人育陽会(エンゼル保育園)、社会福祉法人東京援護協会(田柄福祉園)

■参加人数 350名

実施の目的

地域住民の方々との楽しいイベントを通して、子どもからお年寄りまで多世代による親睦を深め、出会いの場、楽しみの場の提供による地域交流と地域貢献。次世代育成、福祉教育、地域づくりの機会を持つ。



当日の様子

晴天に恵まれ、焼き芋には列ができ、中庭散策する方、ブランコ・ハンモックで遊ぶ子ども達、コーヒーを飲みベンチでくつろぐ方達、施設の中では折り紙やお絵かきなどをお年寄りにプレゼントしてお菓子をゲットするゲームに盛り上がる子ども達、笑顔になるお年寄りなど、世代を超えた楽しい交流の時となった。特に今年は、近隣の社会福祉法人6団体と連携し、「福祉なんでも相談コーナー」を初めて実施。また、電動機関車は子ども達に大好評であった。

地域の課題

延べ350名を超える来場があった。また、その多くが小学生や未就学児の子どもがいる若いファミリー、お年寄り世代であったことから、多世代が集える場が求められている地域であることを改めて認識した。今年は社会福祉法人等のネット光が丘地区の事業の一環として、近隣の社会福祉法人6団体連携による「福祉なんでも相談」を初めて実施。今後継続していくことで、近隣の住民に対し相談できる場があることや社会福祉法人の役割について知っていただき、地域づくりに貢献できる可能性を感じた。

光陽苑 ボランティア 陽だまり会

喫茶 陽だまり

- 開催日程 毎週土曜日 13:30~16:00
- 参加団体 特別養護老人ホーム光陽苑入居者、家族、第三光陽苑いずみ、地域のグループホーム、地域の住民、その他
- 参加人数 450名

実施の目的

地域の方が気軽に立ち寄れ、特別養護老人ホーム入居者とふれあい、楽しいひと時を過ごすことを目的としています。

当日の様子

毎週土曜日の午後のひとときを入居者の皆さんは楽しみにしており、コーヒー、紅茶、お菓子、饅頭、ビールにおつまみ…etc.

それぞれの好みメニューを頼み、近隣の方もお越しいただき、ワイワイとにぎやかなひと時を毎週過ごしています。地域のボランティアの方による、ピアノやフルート演奏によるコンサートも開催されました。



地域の課題

練馬区協賛の街かどケアカフェとしても実施しています。
地域の方がより集まりやすいようにメニューや様々な企画など実施予定です。

練馬区

特養

地域交流

第二光陽苑

秋の音楽祭

■開催日程 10/20 13:00～15:45

■参加団体 関町北ハーモニー、MUMA、関中ウィンドアンサンブル、やすらぎの杜

■参加人数 150名

実施の目的

カフェでお茶やお菓子を召し上がっていただきながら、地域の中学生や音大生の演奏、ママさんたちの合唱を楽しんでいただく。

当日の様子

ステージでは1番手で地域小学校のママさんコーラスの皆様が楽しく盛り上げてくださり、続いて現役音大生の方々が素晴らしい演奏を披露され、最後に地域中学校のウィンドアンサンブル部さんが流行曲も取り入れ、若い力で元気よく締めて下さいました。また、近隣の障害者施設さんには焼き菓子やパンの販売をしていただき、完売となっていました。地域の方も多くお立ち寄りいただき、皆様演奏に聴き入ったり、手拍子をしながら参加されたりして楽しまれていました。近隣公園から遊びにくる児童もあり、幅広い年齢層の方にご参加いただきました。

地域の課題

地域の方から、第二光陽苑がこういった施設なのかがわからなかったが、今回のような機会があると、施設内に入り内部の様子を見ることができてよかった、との声をいただきました。高齢化が進む昨今、高齢者施設をより身近なものとしてみていただけるよう、地域の方へ向けた行事を開催し、施設を知っていただく機会をつくっていきたいと考えています。

大泉特別養護老人ホーム

虹のカフェ 大泉

- 開催日程 毎週水曜日 14:00～16:00
- 参加団体 虹のカフェ大泉実行委員会
- 参加人数 360名

実施の目的

子どもからシニアまで多世代が集まれる地域の居場所作りを目指している。

当日の様子

地域の子連れママからシニア・併設の特養・ケアハウスのお客様など、多世代の人が集まり、コーヒーを飲みながら交流をしています。折り紙・手芸教室・ストレッチ体操などのプログラムも実施、常に活気に満ちた心地よい空間です。

飲み物は100円をいただきますので、美味しいコーヒーを素敵なコーヒーカップで提供しています。カフェ開催時には、福祉作業所のパン屋さんの移動販売もあり、地域の方たちは水曜日を楽しみに待っており、より活気溢れる場所となっています。

地域の課題

利用者からは、「複数の目で子どもを見てもらえるので、ほっとできる。」「地域のおじいちゃんやおばあちゃんに関われる貴重な場所。」との声があり、口コミやSNSを通じて更に多世代交流の輪がひろがっています。

主催している委員会の委員長は、「地域の人たちとの連携を深めるため、今後は町会への周知やお祭りの参加なども考えています。」との今後の展望を語ってくれています。施設としてもバックアップ体制をとり、地域活動を推進していきます。

練馬区

その他

地域交流

大泉西小学校(協力：サンライズ大泉)

大泉西小学校応援団まつり

■開催日程 10/19 10:00～13:30

■参加団体 ひばり野球部、ハリケーンサッカー部、大泉西小PTAバレー部、JVC、八丈太鼓、父親ソフトバックス、スワンベーカーリー、サンメイト、剣友会、Candy新体操、練馬区緑化協力員、おむすび座(人形劇)、大泉西小テニス、サンライズ大泉

■参加人数 147名

実施の目的

「笑顔でつながろう大西小」をテーマに、学校応援団事業及び青少年事業をより多くの子も達や地域の方々に知ってもらうための交流の場として開催する。本事業に関わる方々すべての協力で行っていく。



当日の様子

応援団まつり自体の来場者数は300人以上あり、その中でサンライズ大泉が行った介護体験ブースでは、車いす体験や介護ロボットの体験などを実施した。介護体験ブースでスタンプを押した人数は147名だが、何度も来てくれた児童もあり、親子連れや中学生、大泉西小学校の先生の来場もあった。

自身で車いすをこいでスロープの上り下りを体験した児童から「結構怖いし、難しかった。」「街で見かけたら手伝ってあげようと思った。」との感想も聞かれ、今回も多くの児童、幅広い世代に福祉に触れる機会を提供することができた。

地域の課題

開設から7年が経ち、応援団まつりへの毎年の参加をはじめとした大泉西小学校生徒との交流(出張授業・見学会・交流会)、地域で暮らす高齢者向けの介護予防講座「サンライズcafe」(練馬区出張型街かどケアカフェ事業)の開催といったような、地域との関わりを持つ行事が定着し、地域住民にサンライズ大泉が浸透してきていることを実感している。引き続きこちらから積極的にアプローチしていくことで、地域に開かれた施設、地域に必要とされる施設を目指していく。

全国援助職ネットワーク

全援ネット方式ワークショップ事例検討会

■開催日程 11/16 14:00～17:00

■参加団体 社会福祉法人 池上長寿園 特別養護老人ホーム馬込 悠遊広場

■参加人数 11名

実施の目的

在宅や施設の職員が違う職種、違う意見の人と意見交換することで他職種連携の実践力を磨く。



当日の様子

ワークショップの手法をベースにし、福祉現場の職員が利用者の気持ちを汲み取る手法や大事な視点について、講義やグループワーク、ロールプレイの手法を使い、体験的に学ぶことができた。

実施施設の職員や区部・市部の福祉現場の職員、埼玉県福祉現場の職員など、幅広い地域からの参加があり、施設・事業所種別も在宅系サービスから相談系サービス、施設系と幅広かった。進行役のガイドを参考に、参加者自身が自ら答えを探す雰囲気があった。研修終了後に交流会も開催し、現場の情報交換、スキルアップのための意見交換なども行うことができた。

地域の課題

利用者の想いを汲み取る援助専門職の関わりは、福祉の現場において当然に大事なところであるが、必要な要素について細分化して考え、丁寧に確認していくことで、日ごろの福祉現場での実践で足りない部分について、様々に確認することができた。答えを誰かに与えてもらうような学びではなく、自ら体験的に考え、答えを見つけ出してしていくような経験は、施設や在宅の種別に関係なく、さらなる努力が必要であると思った。今後も地域単位での、福祉現場の職員発信の、学びと交流の場が必要であると実感した。

大田区

特養

介護予防や高齢者支援

社会福祉法人響会 好日苑

ひびき ほっとサロン

■開催日程 ①9/15 10:30～12:30

②11/17 10:30～12:30

奇数月第3日曜日に開催

■参加団体 社会福祉法人 響会 好日苑

■参加人数 77名

実施の目的

地域住民に対する高齢者福祉等の啓発と法人を知っていただく機会とする。一人暮らし又は高齢者のみの世帯の方の交流・懇談の機会とし、地域で孤立した高齢者を把握・支援する。



当日の様子

9/15は、テーマを「介護保険のお話～生きがいを探しに来ませんか！～」として、介護保険の認定からサービス利用に関わる講義を実施。また、デイサービスで実施しているコグニサイズを行った。コグニサイズは大変好評で、「楽しかった」、「またやりたい」と、お声を頂いた。11/17は「生活習慣病について～予防しよう！血管の病気～」として講座を実施。参加者は熱心に聞き、「分かりやすい講義だった」と、好評だった。「昼食が楽しみ」との声もあるが、「2か月ぶりに知人に会えた」と、このサロンが交流の機会であると再確認した。

地域の課題

11月の開催で通算17回の開催となった。地域に浸透してきている取り組みであるが、毎回新規参加者がいることもあり、交流の場としてこの事業を継続していきたい。また、地域で孤立しがちな高齢者が、介護予防・福祉施策等の知識を得ることで、安心して地域で暮らせるよう引き続き支援していきたい。

養護老人ホーム池上長寿園

青空ヨガ

- 開催日程 11/2 14:00~15:00
- 参加団体 大田区地域包括支援センター久が原
- 参加人数 20名

実施の目的

地域に住む高齢者やママさん世代、子ども達と一緒にヨガを通して世代間交流する。



当日の様子

当日、ポスターを見て申し込みをした方も数名おり、定員ちょうどの人数で開催できた。子どもから働く世代、高齢者の方まで集まり、それぞれが熱心にヨガのポーズをおこなっていた。最後には、大きな円で手をつなぎ、木のポーズ(バランスポーズ)をおこない、参加者みんなで心をひとつにして終了した。

地域の課題

今回、あえて開催日を土曜日としたが、働く世代の人達の集まりは消極的であった。世代的には子どもから高齢者まで多世代が集まったことは有意義であり、継続していくことにより、さらに交流が深まると感じられた。また、開催して欲しいとの声もあった。

大田区

養護

地域交流

養護老人ホーム池上長寿園

創立記念花火大会

- 開催日程 9/15 19:00~19:30
- 参加団体 特別養護老人ホーム池上
- 参加人数 150名

実施の目的

毎年恒例となっており、風物詩として地域住民の方に認知されている。地域の中にある施設の存在・役割を知ってもらうとともに、地域に住む多世代の方との交流を図る。



当日の様子

開始時刻前から親子連れが集まり、先着50名様にプレゼントする景品は早々になくなってしまった。観覧者の多くが親子で、施設の入居者と子ども達が交流している姿もあった。約20分ほどの花火だが楽しみにして来てくれているのが感じられた。また、今回は、11/2に行われるつなひろエントリーの「青空ヨガ」のチラシをクリアファイルに入れて配布した。

地域の課題

今後は花火鑑賞だけではなく、もう少し施設を知ってもらえるような工夫や交流ができるような取り組みを織り交ぜて行くとよいと感じた。

大森老人ホーム

高齢者体験

- 開催日程 ①7/9 ②12/4 ※依頼のあった小中学校と調整の上実施
- 参加団体 大森老人ホーム、大田区地域包括支援センター平和島
- 参加人数 112名

実施の目的

近隣の小中高にて、職員による高齢者体験授業を通して近隣の福祉施設、高齢化社会について理解を深めてもらう。また、近隣の包括支援センターと連携し、小学生向けに認知症サポート講座の企画提案・当日までの調整を行う。

当日の様子

7月に行ったホーム職員による高齢者授業は、高齢化社会について日本と外国を比較し説明を行い、高齢者体験では白内障ゴーグルをつけ教科書を読む体験を行い、車いすの基本操作を学んでももらいました。

12月に行った包括支援センターよる『認知症サポート講座』では、物忘れに対する声かけの仕方を学んでももらいました。小学生からは、「高齢化社会を変えていきたい」、「高齢者の気持ちがわかった。声かけを工夫していきたい」、「自分も高齢者になることに気づいた」などの感想がありました。

地域の課題

これからも、近隣の小中高学校で高齢者体験等を行っていききたい。昨年に続き、地域にある地域包括支援センターと連携し、小学生に福祉の学びの場を提供できるようになった。これからも、企画など一緒に行い、小中高学校で展開していきたい。

目黒区

特養

地域交流

特別養護老人ホーム 東山

東山いきいきサロン『バイオリンコンサート』

- 開催日程 10/24 13:00～15:00
- 参加団体 特別養護老人ホーム 東山
- 参加人数 22名

実施の目的

高齢者の介護予防、高齢者の居場所作り。

当日の様子

会食サービス利用の8人の方に加えて、12人の地域の方、特養の方2人の参加がありました。毎月1回の定期的なコンサートなので、皆さん楽しみに参加されています。クラシックや歌謡曲などのリクエストに応えたり、歌を歌ったりしました。コンサートの後には、お好みのコーヒーや紅茶を飲みながら、おしゃべりして過ごしていました。

地域の課題

施設が坂の上にあり、公共バス等もないため、どの方面から来るにしても上り坂で大変と言われる(参加しにくい)。

いきいき交流サロンは毎週行っていて、バイオリンコンサートは多くの方の参加があるが、他活動時の参加者は12～15人程度となっている。

会食サービスの参加者が増えない。

特別養護老人ホーム砧ホーム

ふれあい祭り

■開催日程 10/6 9:30~14:00

■参加団体 友愛十字会後援会 砧町町会 TMC通り商店街、山野小学校、砧中学校、和響太鼓、たむたむチンパンジー&NPO法人ソラマ、SS Blue Bunnies、レイ・アロハフラススタジオ、オルケスタ・アンディーナ等

■参加人数 1117名

実施の目的

地域の方々、利用者とその家族・ボランティアが参画しながら共にお祭りを実施することで、楽しく交流を深める。あわせて、友愛十字会が地域に密着した福祉サービスを展開していることを広く知っていただく。

当日の様子

法人の飲食スペースやゲーム、バルーンアート等のキッズコーナー、地域の商店の出店が並び、利用者様のご家族様だけでなく、地域の方に多く参加いただいた。「地域のお店が参加しているのが良い。」「子どもと来れて丁度良い感じがありがたいです。」とのご意見や、利用者様からも、「地域ぐるみで園との関わりを頂きありがとうございます。」とのご意見をいただいた。コンサート会場では、生演奏にリズムをとりながら聞き入られ、地域の御神輿がくると、感動され涙を流される方もいた。

地域の課題

地域の方々、利用者とその家族・ボランティアが参加し交流を深め、友愛十字会が地域に密着した福祉サービスを展開していることを広く知っていただく活動を、今後も進めていく。また、夏の盆踊り大会とあわせて、法人職員が地域のイベントに参加していくことも引き続き実施していく。

社会福祉法人大三島育徳会

第3回 だんだんまつり

■開催日程 10/22 10:30～15:00

■参加団体 法人9拠点15事業所、コンサート会場演者4団体、近隣小学校・中学校、イベントブースボランティア3団体、おまつり模擬店ボランティア5団体、教職実習生、法人後援会他

■参加人数 600名

実施の目的

「だんだん」とは、法人名に由来する愛媛県大三島地方の方言で「ありがとう」を意味する。法人まつりを開催し、法人を支えて下さる利用者、利用者家族、地域の方々、関係者に「ありがとう」の思いを伝える。

当日の様子

法人各事業所が、日頃協力いただいている地域のボランティアと共に模擬店を担当し、会場を盛り上げた。

和太鼓チームによる太鼓と篠笛、ピアノのコンサート、区の保育室で働く男性職員とお父さん有志の会のソーラン節の舞、幼稚園から高校生まで活動するチアリーディングチームのショー、バンド演奏とフラダンスのコンサートなど、子どもから高齢者まで多くの方が楽しまれた。

今年は台風並みの風と寒さの中の開催だったが、昨年よりさらに100名増え、約600名の来場があった。

地域の課題

年々、地域の方にも法人まつりが浸透してきており、近隣の地域住民の方、お子さん連れの方などの参加が増えた。バザーの開店を楽しみに待っている方も増えた。今後も世代を問わず気軽に施設を訪れる機会として、このような催しで地域貢献を図り、「ちいきの輪」を広げていきたい。

偕楽園ホーム、ファミリーマイホーム、多摩特養老人ホーム

第4回 八王子介護フェア

■開催日程 10/20 10:00~14:30

■参加団体 【共催】滝山会(高齢者あんしん相談センター左入、高月病院、三愛病院、相武病院、登芙喜心成苑)【後援】八王子市 八王子ブロック施設長会 八王子市社会福祉協議会 公益財団法人八王子市学園都市文化ふれあい財団 加住地区住民協議会 東京都高齢者福祉施設協議会【協力機関】19団体

■参加人数 320名

実施の目的

介護の日にちなんで地域の方々に介護を身近に感じていただくことを目的として、「楽しく介護を知ろう」をテーマに開催した。



当日の様子

市民センターを貸切り、臨床心理士の講演、施設ご利用者が参加し、わらべ唄の合唱、八王子けんこう体操、悪徳商法被害防止に向けた出前漫才、介護の魅力発信するパネルディスカッション、八王子市公認マスコットたき坊と一緒に、「ぼくらの八王子」のパフォーマンスを行いました。多目的室では、近隣の医療機関・福祉事業所、保育園の利用者・園児等の作品展示会、その他、高齢者体験・福祉機器体験・血管年齢測定や骨密度やストレス測定などのブース、障がい者授産施設やボランティア団体によるバザーを行いました。

地域の課題

回を重ねるごとに、地域住民の来場者数も増加し、マスコミ(東京新聞社)からの取材もあったことから、広くイベントが周知されていくことを期待しています。地域の参加者から介護の関心や不安などについて聞き取ることができ、身内で介護が必要となったときに、予防から要介護状態と幅広く社会福祉法人をはじめとした福祉施設の活用につながるようにPRが必要です。

介護フェアを通じ、今後の介護を支えるのは社会福祉法人であることを、地域の方々へ伝える機会となったと思われます。

八王子市

その他

地域交流

社会福祉法人アゼリヤ会

アゼリヤ会地域交流会(大根掘り)

■開催日程 11/10 13:00～15:00

■参加団体 救護施設優仁ホーム、養護老人ホーム美山苑、特別養護老人ホームみやま大樹の苑、通所介護施設美山デイホーム

■参加人数 144名

実施の目的

救護施設の入居者が育てた大根の収穫や豚汁の無料サービス、景品付き魚釣りゲームやジュース取り輪投げ、喫茶やグラウンドパターゴルフ、救護施設入居者手作り作品の販売・作成等を通じて、地域交流を図る。

当日の様子

当日は天気も良く、交流会も5年目を迎え、地域の方々やご入居者ご家族、職員家族等、たくさんの方の来訪により例年にない盛況ぶりであった。来訪された方は、まず敷地内の畑に行き、青々と立派に育った大根を笑顔で収穫して満足げに持ち帰っていた。また、給食センターで用意した豚汁270食は大好評につき完食となった。喫茶コーナーでは寛ぎの空間としてご来苑者の方々への飲み物を提供し、魚釣りゲーム・輪投げのコーナーやグラウンドゴルフコーナーでは、子ども達から年配の方まで、幅広い層の方々に楽しんでいただいた。

地域の課題

地域へのPRのさらなる拡充。今後の広報活動についてはもう少し早めの事前準備を行い、知名度アップ及び参加人数の拡大を図り、より多くの方々の地域活動参加に繋げていく。

社会福祉法人清明会 清明園・浅川ホーム

もみじ祭り

- 開催日程 11/22 10:30~14:30
- 参加団体 東京ミュージックボランティア
- 参加人数 63名

実施の目的

親しみを感じられるイベントを通じて、利用者と家族、地域の方との交流を深める。



当日の様子

当日はご利用者、家族、地域の方の来園がたくさんあった。模擬店、野店、中央食堂では出来立ての香ばしいポップコーンや、目の前で作っているふわふわの綿あめなどを提供し、参加者からは、「懐かしい・おいしい。」と、好評でした。今回のゲーム大会は各部署、中央食堂で行われ、中々参加出来ないご利用者も参加し「楽しかった!」との声が多く、大盛況であった。

地域の課題

今回の行事の他にも、地域の子ども会との交流など、様々なイベントを開催しており、その都度、地域の方々に足を運んで頂いている。また、ご利用者も地域で行われているイベントや幼稚園の行事に招待して頂いている。行事の時の交流だけに限らず、日常的に地域の方が気軽に出入り出来る様な取り組みや施設の雰囲気作りを行っていきたい。また、地域で行われている行事等にも積極的に参加をしていき、より交流を深めていきたい。

町田市

その他

認知症

介護老人福祉施設福音の家、軽費老人ホームA型町田愛信園

ビタミンカフェのづた

■開催日程 ①9/13 14:00～15:30 ②10/8 14:00～15:30

③11/5 14:00～15:30

毎月第2火曜日 14:00～15:30

■参加団体 FC町田ゼルビア、町田愛信園、福音の家、まちだ丘の上病院、NPO法人日本アニマルセラピー協会町田本部、鶴川第1高齢者支援センター、GH丘の上清風、GHまちだナーシング花織町田

■参加人数 46名

実施の目的

地域の中の憩い場として、誰もが気軽に立ち寄れてほっとできる場所づくりを目的としている。学びや運動、交流などを通じて、「ここに来れば元気になれる」そのような場所を目指している。



当日の様子

- ①9月はまちだ丘の上病院のPTによる、「体トレ・脳トレ座談会」を開催。現在行っている体操が自分にあっているのか、これからも元気で過ごすためにはどのような体操が良いのか、熱心に質問されていました。
- ②10月はアニマルセラピーを実施。セラピー犬とのふれあいを通じて、昔のことを思い出す方、いつもより笑顔が多くみられる方が多く見受けられました。
- ③11月はまちだ丘の上病院の看護師による、「成人検査のすすめ」を開催。地域の統計も踏まえてお話してくださいました。毎回行う体操と脳トレでは笑いが絶えません。

地域の課題

回を重ねるごとに参加者同士で、「元気だった?」、「ここにきて皆さんと会うのが楽しみ。」など、声を掛け合う姿が多くみられるようになり、地域の憩い場として少しずつ機能するようになりました。しかし、まだ認知度が低いいため、もっと多くの方に知っていただき、「ここに来れば、ほっとでき何だか楽しくて笑顔になれる」そんなアットホームな場所を作っていきます。

今後の活動はクリスマス会、ゼルビアキッチン管理栄養士さんによる「免疫力をあげる」食事の提供やシナプスソロジーなど「ここに来れば元気になれる」内容を用意しています。

社会福祉法人福音会

ふくちゃん食堂

- 開催日程 毎月第1水曜日 17:00~20:00
毎月第3水曜日 16:30~18:30
- 参加団体 宮島様(会場提供)、市川米穀店(お米)、小田敏広様とお仲間(野菜)、神奈川東部ヤクルト販売株式会社(飲み物)、株式会社協栄(食材、調味料)、桜美林大学野村知子教授と学生の皆様(ボランティア)、並木きずな会(見守り隊)、地域のボランティアの皆様
- 参加人数 209名

実施の目的

子ども達の地域孤立化の防止及び孤食と貧困な食文化への対応として、和やかな食卓による食育と学習支援や遊びの場を、地域ボランティアや高齢者・大学生等、多世代の交流を通じて提供し、地域の子どもの育成を図る。



当日の様子

地域の米穀店の方や家庭菜園を営んでいる方、また、近隣の企業やフードバンクのご協力により集められた食材を、地域の方や、時に子ども達自身で調理を行っている。第1水曜日を学習支援、第3水曜日を遊びや勉強の時間と分けている。軽費老人ホーム利用者がボランティアとして参加し、地域の昔話や季節の話を参加者に行っている。大学生も遊びや勉強相手として交流している。毎回賑やかな雰囲気となっている。食事は、子ども達の苦手な食材も含まれているが、大勢で食べることで克服出来たり、少量を食べることが出来たりしている。

地域の課題

対象地域には核家族世帯が多く、幼少期の子どもを抱えながら夫婦共働きの状況が散見されている。貧困世帯は目立たないものの、親のフル稼働やダブルワークなどによる幼少児の孤食や食文化の貧困化が課題として挙げられる。また、当地域では小学校を選択できる地域となっており、近隣の子ども同士が異なる学校で、交わりが希薄になりがちな状況もある。当活動では、その孤食と貧困な食文化及び地域孤立化に対応していきたいと考えている。それに向け、実際に活動に参加して支援して下さるボランティアを今後も更に募っていきたい。

町田市

特養

地域交流

特別養護老人ホーム友愛荘

ゆうあいマルシェ

■開催日程 10/26 10:00～11:30

■参加団体 ころも(野菜販売)、町田お菓子の家、スワンベーカーリー、寿太鼓(和太鼓)、相撲甚句(溝口様)、アメニティサービス(マッサージ無料体験)

■参加人数 60名

実施の目的

地域住民が気兼ねなく立ち寄れ、開かれた施設づくりを目指すと共に、施設入所者が地域と交流する機会を増やすことを目的に開催。

当日の様子

施設入所者とご家族、近隣施設(シナモン)ご利用者の方々、友愛荘への入所を希望されていらっしゃるご家族、近隣の方々、通りすがりの方々等が立ち寄り、お買い物やゆうあい君との交流を楽しんだ下さった。多目的ホールでは、ボランティアの方々による演芸や無料体験マッサージ、機能訓練指導員による体操、「ゆうあい君とジャンケン大会」に参加し、短い時間ではありましたが、楽しく交流されていました。

地域の課題

事前準備がスムーズに行えず、日程変更を行い開催した為、参加人数も少なかった。次回は、早期に各々の担当を決め、担当者間での話し合いを行い地域への周知、ボランティア参加者等の確保を行っていきたい。

社会福祉法人楽友会

楽友祭

■開催日程 11/17 10:00~15:00

■参加団体 草むらの会、松ヶ谷高校ダンス部、多摩中央警察署、ウィズ町田なないろ、アンドファーム・ユギ、首都大学ボランティアセンター、サレジオ工業高等専門学校吹奏楽部、コーラスつばさ、唐木田児童館、南鶴牧学童クラブ、地域ボランティアの皆様

■参加人数 300名

実施の目的

法人のキャッチコピーである、「人と人を笑顔でつなぐ」をモットーに、地域住民・地域団体、そして、当法人が笑顔の絆を育むため、また法人の広報のために参加・体験型のイベントとして実施しています。



当日の様子

毎年恒例となっている移動動物園をはじめ、地域の方や協力団体による食のブースやダンス、演奏など地域で活動している団体の催しを中心に開催しました。晴天に恵まれ、小さなお子様連れの方から高齢の方まで幅広い年代の方々が来場され、会場は多くの人の笑顔にあふれて、とても賑わった一日でした。

法人の事業をパンフレットにて紹介したり、施設利用者の作品展示や日ごろの活動の映像をモニターで流すことで、地域の方々に私達の取り組みにふれていただく機会となりました。

地域の課題

当法人近隣には多摩ニュータウンが拡がり、今後高齢化が急速に進む地域です。楽友会の立地場所が市境ということもあり、多摩市・八王子市両市民の方に、楽友会の事業について広く知っていただき、楽友会が地域の皆様との信頼関係をより深く築けるように、今後も交流できる場を多く作っていきます。

稲城市

軽費

地域団体との協働

社会福祉法人博愛会 ハーモニー松葉

やのくち子ども食堂

- 開催日程 毎月第3木曜日 松葉保育園
毎月第4水曜日 ハーモニー松葉 ともに17:00~19:00
- 参加団体 社会福祉法人博愛会 ハーモニー松葉、社会福祉法人正吉福祉会 やのくち正吉苑、社会福祉法人東保育会 松葉保育園
- 参加人数 516名

実施の目的

保護者が就労等で帰宅が遅く1人で食事をすることが多い小学生が、友達と一緒に楽しく食事をする場を提供する。子ども食堂にはケアハウスの入居者や地元の大学生、民生児童委員もボランティアとして参加され、宿題を教えたり、一緒に遊んだり、お話をして子ども同士だけでなく多世代での交流を図っている。



当日の様子

17:00~来所したら名前が分かるようにネームカードを付けてもらい、夕食の時間までボランティアの入居者、民生児童委員、施設職員と一緒に遊んだり宿題をしたり自由に過ごす。

17:30~食事の用意をボランティアの入居者と一緒に行う。席は自由であり、全員で「いただきます」の挨拶をし、食事を開始する。ボランティアの入居者、民生児童委員、施設職員と子ども達と一緒に食べる。会話は学校での出来事など様々である。おかわりは自由でセルフサービスになっている。食事後「ごちそうさま」の挨拶をして、みんなで片付けを行い、19:00の終了時間まで自由に過ごす。家族のお迎え、民生児童委員、職員の送りで帰宅する。

地域の課題

孤食の問題は子どもだけではなく、高齢者や障がい者にもある。もともと、やのくち子ども食堂は子ども専用の食堂にするのではなく、地域の新たな支え合いの場をつくるという構想から始まっている。今後は地域の課題に合せて、対象を小学生だけでなく幅広く検討する必要がある。

牟礼東町会・恵比寿苑

牟礼東町会秋祭り 太鼓巡行

- 開催日程 10/6 12:20~13:00
- 参加団体 牟礼東町会、恵比寿苑
- 参加人数 100名

実施の目的

施設所属町会の秋祭り太鼓巡行の際に、施設に立ち寄って頂き、地域住民の方々とご利用者の交流の場を作る事。



当日の様子

今年は小雨が降る中での開催となった。雨天で開催が危ぶまれましたが、玄関前の屋根のあるピロティに大太鼓が入り、開催する事が出来ました。雨天ということもあり、町会の参加者も例年と比べると少し人数が少なかった。ピロティで実施したため、太鼓の音が反響しさらに迫力が増し、ご利用者様も喜ばれた。会場も駐車場よりは狭いピロティで行うことで、町会住民の方々とご利用者様との距離感が近くなり、一体感があつた。

地域の課題

太鼓巡行の時間設定が毎年課題ではあるが、参加されたご利用者様が大変喜ばれる為、町会の方々とも引き続き時間のご相談をしながら継続をさせていきたい。今後としては、施設の滞在時間が短時間ではあるが、その中でも交流と言う点で何か行えないか検討していきたいと考えている。

社会福祉法人東京弘済園

東京弘済園祭り(地域の力・施設の力)

■開催日程 11/3 10:30~14:30

■参加団体 近隣学校の和太鼓部、演劇塾、心肺蘇生サークル、福祉作業所2カ所、ボランティア

■参加人数 800名

実施の目的

まつりを通して地域の方々と交流をし、当事業の理解を深めて頂く。また当法人の職員とボランティアと地域の方々とのつながりを深める機会とする。



当日の様子

明星学園和太鼓部による迫力のあるオープニングを行い、午後は世界一大きな布絵本を上映した。その他にも各種模擬店をはじめ、バルーンアート、子どもリトミック、ゲームコーナー、革細工など多くのイベントを行い、大変盛況となった。福祉セミナーの「花子さんの終活ものがたり～いつまで一人で暮らせるかしら？それとも施設？」では、寸劇と専門家の解説付きでわかりやすく、皆様真剣にメモを取られ、満席で非常に好評だった。

地域の課題

東京弘済園まつりは、毎年恒例のイベントとして地域に定着してきており、多くの高齢者の方々や親子の来場がある。当法人は、施設としての機能だけでなく、介護、子育てなど、より広く情報を発信していく地域の拠点としての機能もあり、まつりを通してその役目も果たして行きたい。

社会福祉法人常盤会
調布市地域包括支援センターときわぎ国領

地域交流カフェ「ときわぎ Cafe Green」

- 開催日程 ①9/27 13:30~15:00
②11/22 13:30~15:00
- 参加団体 調布市地域包括支援センターときわぎ国領
- 参加人数 19名

実施の目的

地域の高齢者がお茶を飲みながら気軽に話ができ、介護等の情報共有を行える場所をつくる。また、地域包括支援センターの周知と理解を促し、住民の「困ったら包括へ」という意識を高め、問題の早期発見や適切なサービス利用へ結び付けることを目的とする。

当日の様子

9/27は、「もしものときの救急対応」をテーマに、包括職員(保健師)が中心となって話をした。高齢者の身体的特徴や各疾患の特徴、倒れている高齢者がいたらどう対応すべきか、救急車を呼ぶ判断など、寸劇を交えながら紹介。救急対応は日常生活の身近にあるものとして学びを深めることができた。11/22は、「製品事故や転倒から身を守ろう」をテーマに、消費生活センターが作成している教材を使用しながら話をした。電気ストーブ、電動車いす、介護用ベッド等の製品事故を防ぐためのポイントを学び、今日から使える知識として参加者より好評いただいた。

地域の課題

2ヶ月に1回開催しているこの地域交流カフェも3年目となった。悪天候により参加人数が少ない時もあるが、地域住民に毎回10~20名参加していただき、包括職員が入り、参加者とお茶を飲みながら介護・生活の色々なことが学べる勉強会のようなカフェとして定着することができている。様々なテーマで開催することで住民の方の誘い出しを行い、カフェへの参加を通じセンターの存在を知っていただき、困った時にはすぐに相談できるというセンターのPRの役割も担っている。今後も様々なテーマで継続して開催していく。

府中市

その他

その他

社会福祉法人多摩同胞会 学習サポートサロン SKY

- 開催日程 学習支援：毎週月曜日（祝日を除く） 17：30～20：30
余暇活動：9/13、10/20
- 参加団体 社会福祉法人 多摩同胞会 しらとり
- 参加人数 45名

実施の目的

家庭環境等の理由により学力、その他の面で課題を持つ中高生に向け、学習支援と余暇活動支援を通して居場所づくりを目指す。

当日の様子

宿題や期末テスト勉強、受験勉強を子ども達それぞれのペースに合わせて個別対応で進めた。子ども達にとって安心できる居場所になるよう、関係づくりも重要視している。

交流を深めて学習へのモチベーション向上させるため、余暇活動支援として外出とおやつ作りをした。子ども達が希望した外出先で過ごしたり、希望したメニューを作ったりと多くの体験をすることができた。

地域の課題

定員に余裕があるため、関係機関への周知を図り必要としている世帯につながりが増えるといいと感じた。周知のための広報活動を行っていきたい。

毎週月曜の学習会を継続し、子ども達の進学・進級に向けて支援する。また、定期的に外出や食事会を開きたい。

社会福祉法人安立園

安立園盆踊り大会

■開催日程 8/23 18:00~20:00

■参加団体 安立園特別養護老人ホーム、養護老人ホーム安立園、安立園在宅ケアセンター、晴見保育園、サ高住さんぽ道

■参加人数 248名

実施の目的

当法人の盆踊り大会は、このエリアの地域町内会の盆踊り会の最後の盆踊りとして定着している。法人施設の利用者、園児、職員、ご家族の皆さんが夏の終わりに楽しく過ごし、交流できる重要な機会となっている。

当日の様子

園庭中央のやぐらには、大きな太鼓が載せられ、やぐらからは四方に提灯が張られ、園庭はとても明るく照らされている。18時には司会の職員の挨拶、そして養護老人ホームの「ソーラン節」からスタートした。炭坑節、東京音頭、府中小唄と続き、府中民謡協会の皆さんが20名ほど華やかにやぐらの周りを踊ってくださった。園庭の奥には近所のお店が小さな出店を出してくれ、保育園児、小学生が買って食べていた。利用者さん、ご家族、職員は車いすを押して園庭を楽しく回った。

地域の課題

やぐらの組み立て、音響機器のレンタル、車の移動、職員の夕食準備、来賓の接待、お店の準備など、1回の盆踊りにはとてもたくさんの手間がかかっている。しかし、普段顔を合わせる事のない、地域住民、保育園父兄、利用者家族と職員の交流は大きな意味がある。車椅子になっても気軽に参加、楽しめる盆踊りを継続していくことに大きな意味があると考えます。

府中市

複数施設共催

学びの機会

養護老人ホーム信愛寮

緑苑・安心シニア塾【専門講座】

- 開催日程 10/10、10/24、11/7、11/21、12/5、12/19
各日講座は10：30～12：00。講座終了後の交流会は12：45～14：00
- 参加団体 泉苑、あさひ苑
- 参加人数 293名

実施の目的

地域の方々に安心して豊かなシニアライフを過ごしていただくため、身近なテーマについて一緒に考えていただく。

当日の様子

専門講座として、「排泄」、「睡眠」、「消費生活」、「暮らしの中の防災」、「在宅医療と地域での連携」、「終活」をテーマに、医療専門職・行政担当者等、外部講師も含めての講座を開催。各講座とも約50名の市民の方が受講された。お茶の準備や資料配布等の作業は受講者のボランティアの方々に担っていただき、講座終了後の交流会では、各回の振り返りや今後の開催に向け、活発な意見交換が行われた。参加される方々の意識が、「受講する講座」から「参加する講座」へ。そして、「共に作る講座」へと変わりつつあると感じられた。



地域の課題

講座を進める中で、地域の中で周囲とつながり、何らかの役割を持ってメリハリのある生活を続けることが安心して年を重ねていくのに有益である、と受講された方々にも意識されつつあるが、「実際に地域で活動されている方」と「これから活動したい方」がうまくつながっていないことも事実。シニア塾や地域交流スペースの活用の中でそれぞれをつなぐ後押しの取り組みが求められていると感じている。2月・3月に予定している特別講座は、「つながること」に焦点を当て、各参加者が具体的に動けるための場にしたいと考えている。

社会福祉法人至誠学舎立川 至誠ナーシングホーム

語り合いサロン ぷらっとなみき

- 開催日程 9/21 14:00~15:30
- 参加団体 国分寺地域包括支援センターなみき
- 参加人数 40名

実施の目的

地域在住の高齢者同士の語り合い、介護予防体操による健康づくり、保健・福祉・医療に関する情報共有。

当日の様子

第1部では医学博士を講師にお招きし、生活習慣病の代表とも言われる「糖尿病」の基本的な知識・治療方法・生活上の注意点について詳しくお話しいただきました。近隣にお住まいの高齢者約40名が集まりました。参加された皆さんは、人ごとではなくご自分のこととして、熱心に講義に耳を傾けていました。

第2部では、毎回恒例の介護予防体操を全員で行い、健康の大切さを改めて皆さんで実感できました。

地域の課題

このサロンは、「近隣にぷらっと集まれる場所がない！」という声がきっかけで平成22年に誕生しました。その後9年間にわたり毎月欠かさず開催しています。会場を提供する施設と、地域包括支援センターとの協働で実施する内容を検討しています。当初6人だった参加者も今では毎回40名を数えるまでになり、地域に住む高齢者の拠り所となっています。今後は、参加されている方々が主体的にメニューを考え、私達がそのサポートにまわるといった、住民主体のサロンに移行できればと思っています。

国立市

特養

地域交流

社会福祉法人弥生会 くにたち苑

くにたち苑バザー

- 開催日程 10/6 11:00~13:00
- 参加団体 くにたち苑特養家族会
- 参加人数 120名

実施の目的

地域との交流を深めるとともに、くにたち苑を知ってもらう。

当日の様子

時々小雨が降る中、実施の1時間前からバザー品を目当てに数人が施設の前で待っている状況があり、時間になると多くの来場者がお目当ての品物を選んでいました。当日は焼きそばやたい焼き等の模擬店も開き、バザー品の購入がひと段落すると模擬店の食べ物を口にはおぼっていました。地域の顔なじみの方や家族とともにデイサービスの利用者も来場し、楽しい時間を過ごせたようでした。



地域の課題

今年で11回目となりましたが、バザー品や地元の野菜が集まりにくくなっています。もう少し地域住民やボランティアに呼びかけていきたい。

社会福祉法人恵比寿会

第7回 フェローホームズ秋祭り

■開催日程 10/26 10:30~14:30

■参加団体 西立商店街振興組合、特養「仲間の家」「森の家」「高松の家」、グループホーム「ヴィラフェローホームズ」、富士見町地区「富士見YOSAKOI」「いっしょう太鼓」ヒップホップダンスチーム「FAMI」シャンソン歌手「YU-ME」、ネイル「加藤」など

■参加人数 500名

実施の目的

地域の皆さまとの交流を深め、ご利用者やご来場の方々に楽しいひと時を過ごしていただけるよう、感謝の気持ちを込めて開催をする。

当日の様子

今年も晴天に恵まれて大勢の方々が参加された。また、地元商店街振興会さんとのコラボによる、「ウェスタンドリバー・アートフェス2019」も同時に開催され、アールブリット作家須田雄真さん作品展&ミニコンサート、東京2020オリンピック応援イベント(ベラルーシ新体操チーム、カヌースラローム日本代表矢沢亜希選手)、パネル展示が開催された。バザーコーナーではお客様からいただいた干し柿用の柿(300個)がすぐに無くなり盛況であった。恒例の綿あめ、えびす焼き、焼きそばも完売、地元の方々の協力により無事終わることができました。

地域の課題

第7回目が無事に終わり、今後継続させることが課題と思われる。地域、地元の方々の参加についても掘り起こしを行い、地域に溶け込む、地域になくてはならない法人となるよう努力をする。

立川市

複数施設共催

カフェ・居場所

社会福祉法人恵比寿会

立川オールディズ物語カフェ

- 開催日程 5/31、6/21、7/19、9/20、10/18、11/15、12/20
14：00～15：30(12/20のみ12：30～14：00)
いずれも金曜日 ※2020年1～3月にも実施予定
- 参加団体 立川市社会福祉協議会、立川市役所柴崎学習館
- 参加人数 105名

実施の目的

立川市の昭和30年代前後の懐かしい写真や映像を見ながら、同じ時代感を共有し、それぞれの思い出を自由に語り合う場。

当日の様子

2019年度は全8回実施。いずれも地域で民生委員や自治会を担っているアクティブシニア・特養やGHの入居者・SSを利用中の要介護のある方、傾聴ボランティア、学生インターンと様々な参加者が集います。昭和30年代頃に流行したジャズ音楽や、写真や映像が映され、手づくりのお菓子と薫り高いコーヒーでおもてなしです。若い世代にとっては、初めて聞くことも多く、世代間を越えた楽しい時間になります。最後はセラピストとともに、軽いストレッチで体をほぐし、心も体もリラックスしてお帰りになります。

地域の課題

古い映像、写真の提供者等、また、事務局で調達することが大変なのでその対応、地域の参加者の確保には地道な宣伝等が必要である。

社会福祉法人同胞互助会 ふれあい食事サービス

高齢者向け弁当配食サービス

- 開催日程 毎週月～土 9:00～18:00
- 参加団体 ふれあい食事サービス
- 参加人数 2500名

実施の目的

施設の食事サービスのノウハウを活かした地域の方へのお弁当の配食サービス、高齢者及び高齢者世帯に対しての安否確認。

当日の様子

平成13年より昭島市社会福祉協議会からの委託事業として始まったお弁当の配食サービスは、委託事業以外の一般の方の依頼も増え続け、現在は一般の方への配食が上回っています。これまで、医師と栄養士が連携しながら「食」の重要性を説いてきた法人ならではの個々の利用者の身体状況、摂食・嚥下状態に合わせたお弁当を提供させていただいております。

地域の課題

社会福祉法人による「配食サービス」は、採算等の理由で残念ながら減少傾向となっています。しかしながら、「きめの細かい食事提供」、「多様な専門職、事業所との連携によるご利用者の支援」は、社会福祉法人だからこそできる重要な地域貢献の一つと考えています。

昭島市

その他

学びの機会

社会福祉法人同胞互助会

楽夢食(らくむ食)

- 開催日程 ①6/8 14:00～15:30
②10/19 14:00～15:50
- 参加団体 社会福祉法人同胞互助会、栄養ケアステーション愛全園、管理栄養士ボランティア会
- 参加人数 140名

実施の目的

地域住民の健康維持を支援していくことを目的に、医療、栄養、介護の専門職が連携して行う学習会です。ワンポイント健康講座、グループ料理実習を、年3回行います。

当日の様子

楽夢食のテーマは、「便秘を予防する食事の工夫」、「高齢者の糖尿病＆食生活」。まずは、漢方医である蓮村幸兌法人理事長の講義から、「日ごろから気遣ってほしいこと」。続いて、管理栄養士から、「食後血糖値を上げない食べ方の努力」として、様々な食材を用いた調理実演があり、それらの試食を皆で行いました。10名程度の8グループに分かれ、管理栄養士を交え座談会を行い、テーブルごとに発表を行い熱心な質問も飛び交いました。

地域の課題

食事のを中心にした集まりですが、医療のこと・介護のこと・ボランティアのこと等々、様々な地域での生活のお話が出ており、共に考えていく機会にもなって来ています。

社会福祉法人同胞互助会、社会福祉法人ゆいのもり

すずらん喫茶 手作りパン販売

- 開催日程 毎週火曜日 11:00～15:00
- 参加団体 社会福祉法人ゆいのもり福祉協会「食工房ゆいのもり」、
社会福祉法人同胞互助会
- 参加人数 80名

実施の目的

地域の障害者作業所「食工房ゆいのもり」の就労支援の一環として、施設の場所を提供し、天然酵母のパンとコーヒーの販売を行い、障がい者と高齢者・地域住民の交流の場として活用する。

当日の様子

毎週火曜日は「パンの日」として定着していて、施設のご利用者も職員も楽しみにしています。天然酵母のパンや、地元の食材を生かした季節限定のパンは、ご家族や地域の方にも好評で、パンが並び始めると、玄関前までパンの香りに包まれて気持ちがなごみます。また、販売が一段落した頃、常連のご利用者が集まってこられ、コーヒーを飲みながらのおしゃべりを楽しんでいます。

地域の課題

今年度は11/2(土)開催の「愛全園福祉フェスティバル(文化祭)」の模擬店にも出店し、開店から僅か1時間半で完売するほどの盛況でした。高齢者施設が障がい者就労の機会を広げていく可能性を実感しました。

昭島市

複数施設共催

地域交流

特別養護老人ホーム フジホーム

昭和郷「納涼の夕べ」

- 開催日程 7/25 18:00~20:00
- 参加団体 社会福祉法人東京都同胞援護会 昭和郷内各施設
- 参加人数 300名

実施の目的

年に1度、地域の方と昭和郷の施設が夏祭りを通じて交流し、楽しめる機会として行っている。

当日の様子

昭和郷内には高齢者施設や介護施設、保育園など様々な福祉施設があり、各施設の職員や利用者が大勢集まり、楽しまれている様子だった。また地域の住民も数多く参加されていて、模擬店の焼きそばを召し上がり、盆踊りなどのアトラクションを楽しんでいた。

地域の課題

昭島市では、認知症カフェや地域行事を数多く開催している。高齢者の方が社会と繋がっていく機会はたくさんあるのだが、積極的に参加されていく人もいれば、家にこもりがちで、中々地域に出ていくことのない高齢者もいるのが実際のところである。家に引きこもりがちな高齢者も、何かの機会があれば地域と繋がっていける、というきっかけをつくり続けることが重要である。今後もそういう機会を続けていきたい。

社会福祉法人ゆりかご会
協賛：社会福祉法人ゆりかご会 後援会
社会福祉法人ゆりかご会感謝祭

■開催日程 11/30 10:00～15:00

■参加団体 社会福祉法人ゆりかご会本部、ゆりかご保育園、特別養護老人ホームもくせいの苑、昭島ゆりかご第二保育園、高齢者在宅部グループホーム・デイサービス・こでまりの苑、やまぶきの苑

■参加人数 300名

実施の目的

社会福祉法人ゆりかご会の児童及び高齢者福祉に関する諸事業に理解と支援をいただき、法人・後援会をはじめとする諸団体、企業、利用者の家族、保育園児の保護者、職員による社会福祉事業のイベントである『感謝祭』において、地域の皆様へ感謝の気持ちを表すことが目的であります。

当日の様子

今年は後援会の皆様とともに、午前は「子どもたちと遊ぼう」、午後は「演芸会で楽しもう」と銘打って、地域の方々と保育園児による和太鼓と踊り、フロアではおもちゃ病院、アートポン、ボールプール、ワークショップなどのイベントを実施。演芸会では落語、曲芸、講談、奇術などを行いました。エントランスでは、豚汁、業者によるパンや焼き菓子、餃子、カップラーメンなどを食していただき大いに盛り上がりました。

地域の課題

会場がとても狭いので、いつも苦慮しており、次年度は時間を区切って地域の皆様のニーズに応じたイベント内容を検討していきたいと思います。昨年度まで、ミニバザーを催しておりましたので、今回もあるものと予想していた一般の方もおり、次年度は形式を変えた方法で期待に応えられるよう検討をしていきたいと思っています。

昭島市

特養

地域交流

特別養護老人ホーム愛全園

愛全園福祉フェスティバル(文化祭)

- 開催日程 11/2 10:30~15:00
- 参加団体 社会福祉法人同胞互助会、食工房ゆいのもり
- 参加人数 100名

実施の目的

地域の方との交流を楽しむことを目的に、利用者の作品展示販売、模擬店等を開催。また、法人全体の職員が協力し、地域の方を対象に介護体験や福祉に関する情報提供を行う。

当日の様子

当日は晴天に恵まれ、法人内の園庭を開放し、「福祉体験学校開校」と表して、お年寄りの擬似体験や車いす、介護用ベッドの体験などを地域の方対象に実施しました。その他、バザーもあり、外のポカポカ陽気を楽しまれていました。また、施設内では、愛全園、偕生園のご利用者の作品展示や販売があり、地域の方々やご家族も多く来園され、「施設の前はよく通るけど、このように心地良く明るい施設なのですね。」と、感想を話される方もいらっしゃいました。

地域の課題

11月の開催は、市内各地で文化祭、産業祭等の催し物が多くあり、地域の方が分散されてしまうが、地域の方々が大勢みえる8月の納涼祭の機会も活用し、愛全園福祉フェスティバルへ多くの方にご参加いただけるよう周知していきたい。

社会福祉法人多摩大和園 やまと苑

地域懇談会

- 開催日程 原則 毎月第4土曜日 10:00~12:00
- 参加団体 社会福祉法人多摩大和園やまと苑、狭山自治会、清水自治会、多摩湖畔自治会、湖南自治会、東邦分譲地自治会、東大和マンション自治会、清水福寿会、湖畔の集い、湖畔いきいきクラブ、家族会パウラ、東大和市民生児童委員 他
- 参加人数 200名

実施の目的

地域の皆さまのご希望を踏まえ、地域に役立つ内容をテーマに掲げ、いつでも気軽に声をかけ合えるような顔なじみの関係を構築し、地域力を高める。

当日の様子

当苑のスタッフや地域の薬剤師さん、歯科衛生士さん、駐在さん、消防署の方、また、東京都の消費生活相談員の方等、多岐にわたる分野からゲストを招き、様々なテーマでお話を聞かせいただき、学びを深め、積極的な質疑応答や意見交換がなされている。一緒に体を動かしたり、頭を使ったりしながら、参加型で進行され、和やかに活気あふれるひと時となっている。ワンコインで食べられるランチタイムでしめくくり、にぎやかにおしゃべりを楽しみ、笑顔でお食事を召し上がり散会します。

地域の課題

毎月、定期的に集う場があることにより、お互いなじみの関係が構築され、地域で安心して暮らすことができる環境づくりの一助となっている。決して派手な活動ではないが、今後も末永く、細く長く継続することが重要と考えている。

東大和市

特養

地域交流

社会福祉法人多摩大和園 やまと苑

地域交流行事『第48回 やまと苑納涼祭』

■開催日程 7/28 18:00~20:00

■参加団体 社会福祉法人多摩大和園やまと苑、家族会パウラ、狭山自治会、清水自治会、湖南自治会、多摩湖畔自治会、東邦分譲地自治会、東大和マンション自治会、東大和市民生委員児童委員協議会 等

■参加人数 750名

実施の目的

当苑を事務局とし、当苑ご入居者・ご利用者の代表、近隣6自治会の会長、家族会代表、民生児童委員の代表、当苑ボランティアの代表の方々により実行委員会を組織し、毎年恒例の地域交流行事として納涼祭を開催。

当日の様子

かがり火の点火により開会し、盆踊り・おはやし・舞踊・和太鼓演奏・職員のおさこい・こどもみこし・打ち上げ花火・ナイアガラなど盛沢山！模擬店では、やきそば・やきとり・フランクフルト・お好み焼き串・ハッシュドポテトフライ・とうもろこし・えだまめ・チュロス・カップアイス・かき氷・わたあめ・生ビール・缶ビール・缶酎ハイ・ソフトドリンク各種、ゲームコーナーでは、おもちゃすくい・輪投げ・サイコロなど、こどもからお年寄りまで、夏の一夜を賑やかに過ごしました。

地域の課題

ご家族やボランティア、地域の皆様のご理解ご協力は偉大であるものの、職員体制の不足やご利用者の重度化に伴い、開催自体が課題となりつつある。

社会福祉法人多摩大和園

地域講演会『地域共生社会について考える～認知症当事者の声を聴く～』

- 開催日程 10/26 14:30～16:00
- 参加団体 社会福祉法人多摩大和園
- 参加人数 200名

実施の目的

前回に引き続き、『認知症』をテーマに掲げ、認知症になっても、住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりの一助として、地域みんなで地域共生について考える目的で講演会を開催。

当日の様子

若年性認知症の当事者の方、その方が通うデイサービスの代表の方にご登壇いただき、生の声をお聞かせいただきました。「認知症になると、制限されたり、それまでと違った扱いをされる」ということに違和感を覚え、『役に立つ』、『はたらく』という思いから社会参加型のデイを立ち上げたという経緯や、「認知症があってもスマホのアプリを使えば、日本全国どこへでも行ける」という実体験をお話してくださいました。参加者からは、「認知症に対する意識が変わった。」「このようなデイがもっと増えるといい。」などの前向きな感想をいただきました。

地域の課題

誰もが認知症になる可能性があるからこそ、何ごととも自分ごととして捉え、考え、行動できるまちづくりに向けて、考える機会を作っていく。

武蔵野市

特養

地域交流

とらいふ武蔵野

関前コミセン祭り

- 開催日程 ①11/9 13:00～16:00
②11/10 10:00～15:30
- 参加団体 社会福祉法人とらいふ、社会福祉法人武蔵野、社会福祉法人プラットホーム、有限会社多摩たんぽぽ介護サービスセンター、関前福祉の会、武蔵野シルバー人材センター、関前青少協、関前南小学校、武蔵野第五中学校
- 参加人数 800名

実施の目的

同じ地域に住む住民同士の交流を図るとともに、その地域で活動している各種団体や高齢者施設のブースを設けて地域住民への認知度を高め、地域住民との関わりを強めていく。

当日の様子

両日とも天候に恵まれ、どのイベントも大盛況で子どもから大人まで大いに楽しまれていた。地域内にある高齢者施設が共同でブース出展し、初めての試みとなる、「健康チェック」、「健康相談」、「食事相談」、「介護相談」コーナーを設けたが、こちらも予想以上の集客があり、「来年もやってほしい。」との声上がる等、評判も上々で、地域住民との関係強化に大きく寄与できたと感じた。

地域の課題

地域住民の介護や健康に関する関心の高さを知ることが出来たのは大きな収穫であった。一方、開催前のPR不足で来場者の中には今回の高齢者施設ブースでの各種取り組みを知らなかった方も多く、今後は事前準備と周知徹底を十二分に図って、地域住民の要望に更に答えていけるようにしていきたい。また、イベント後の関わりも持っていけるような取り組みもあわせて行っていく必要があると感じた。

吉祥寺南町コミュニティセンター
(協力：社会福祉法人武蔵野 ゆとりえデイサービスセンター)

親子広場

- 開催日程 毎月第2金曜日 11:00～11:30
- 参加団体 吉祥寺南町コミュニティ協議会、ゆとりえデイサービスセンター
- 参加人数 300名

実施の目的

地域にお住まいの子育て中の親子(乳幼児の親子)に地域の高齢者福祉施設に足を運んでいただき、デイサービス利用者(高齢者)と交流を図る。また、親御さん同士も子育て談義を通して交流を深める。

当日の様子

当日は吉祥寺南町コミュニティ協議会の親子広場担当4名が参加し、運営のサポートをしていただく。

毎回、5組程度の乳幼児親子が参加し、デイサービス職員が進行役となり、歌や手遊びなどのプログラムを実施した。

デイサービス利用者の中にはリピーターの子どもの名前を覚え、毎回会うのを楽しみにしていらっしゃる方もいる。乳幼児との交流で、デイサービス利用者の方に笑顔があふれ、ふれあいを通して我が子の新たな一面を見た親が喜び、和やかな雰囲気の中で時間を過ごしている。

親御さん同士の交流も深まった。

地域の課題

今後も、毎月第2金曜日の活動を継続していく。高齢者と過ごす機会の少ない子ども達と、独居で乳幼児と過ごすことがない高齢者との交流の場となっている。また、若い世代の親御さんにデイサービスセンターのことを知ってもらう良い機会となっている。

小平市

特養

地域交流

特別養護老人ホーム小川ホーム

秋のふれあい交流イベント おがワンフェスティバル

■開催日程 11/24 10:00～14:00

■参加団体 2層協議会メンバー、民生委員、見守りボランティア、ブリヂストン、職業能力開発大学校、津田塾大学、緑成会病院、小平市都市計画課、富士見自治会、ディチャーム(衣類販売)、ホンタタカフェ(移動販売)、うちカフェえん、シューティングスターズ(子供ダンス)、茜舎(人形劇)、介護予防リーダー、小平マジック、シルバーピア合唱隊、腹話術、コダレンジャー、あさやけ風の作業所、あすなろの家(放課後デイサービス)

■参加人数 400名

実施の目的

地域に根差した小川ホームとして、まずは何をやっている所かを知っていたがき、小川ホームの場所を提供し、地域の方々の交流する機会や場を作り、それれがつながりあっていただくことを目的とする。

当日の様子

それぞれの団体の方にそれぞれのブースの準備から自主的に行っていただき、一緒に作り上げてもらうものとした。当日はブースをすべて回ってもらえるようにスタンプラリーとし、子どもから高齢者、障がい者など幅広い人達に参加してもらえた。食品の販売だけでなく、バザー、ブリヂストンによるユニバーサルスポーツ、小平市都市計画課は防災シミュレーションゲーム、緑成会病院は栄養相談、職業大は駅前改修工事後のイメージモデルの展示、津田塾大はフェアトレード活動など、色々な参加を通じて皆さんのつながりができ、地域の方々とも繋がれたイベントだった。

地域の課題

地域の子ども達は、真剣にスタンプラリーに参加してくれたり、ゲームエリアで楽しんでくれたりしていた。それぞれのブースに参加してくれたボランティア達は、「色々な方達と交流が出来て楽しかった。」「地域でこのような活動があることを知らず、顔見知りになれて良かった。」「2層協議会の話し合いで、ふれあい交流出来る機会が欲しいと話に出たことが、本当に実現出来て良かった。」「すごくやりがいがあり楽しかったし、意味のある交流会になれたので、今後も毎年開催してほしい。」とのお話があった。

東村山市高齢者施設連絡会

お年寄りの手作り作品展

- 開催日程 ①10/4 9:00～16:00
②10/6 9:00～15:00
- 参加団体 東村山市高齢者福祉施設連絡会
- 参加人数 725名

実施の目的

高齢者福祉施設と在宅で生活している高齢者の手作り作品を共に展示し、相互の交流の場とする。また、広く市民に高齢者福祉の一旦を理解してもらうために開催。



当日の様子

来場者は昨年と比較すると減少した(昨年859名)が、各施設利用者がお互いの作品を見学したり、一般市民の方が作品の一つひとつを丁寧に、関心をもって見ている姿が見受けられた。(作品数447点)

また、作品に対してだけでなく、参加施設に対する質問(どこにあるのか、どのような施設なのかなど)も寄せられた。

地域の課題

今後、気軽に見てもらえる工夫(広報)や、作品展の趣旨、施設理解をはかれる工夫が必要。

<今後の予定>

会員施設栄養士による地域活動(通年)(高齢者幸せの会主催「おじいちゃん・おばあちゃんの料理教室」へのレシピ提供)

テーマ別研修会：①職員研修(10/29)、

②地域向け施設見学会「となりのホーム」(3月実施予定)

介護職員短期派遣研修(11月) 職員親睦交流会(11月)

栄養士研修(開催時期未定)

東村山市

施設連絡会

その他

東村山市内社会福祉法人連絡会

東村山市内社会福祉法人連絡会 パネル展

- 開催日程 ①10/22 13:00～16:00
②10/23～31 9:00～16:00
③11/1 9:00～12:00
- 参加団体 東村山市内社会福祉法人連絡会
- 参加人数 293名

実施の目的

東村山市内の社会福祉法人および社会福祉法人連絡会のPR。法人施設の紹介だけでなく、地域公益事業(暮らしの相談ステーション、フードドライブ事業)について周知。



当日の様子

会場が市役所ロビーということもあり、市役所への用事のついでに立ち寄る方が多く見受けられた。パネル見学だけでなく、パンフレットや法人紹介冊子、受付担当職員への質問など、関心を持って見ていただけた様子。また、市役所職員も見学に訪れていた。図書館職員は地域の方からの問い合わせに答えられるようにと、パンフレット、冊子を持ち帰っていた。受付は会員法人職員が当番で担当。他法人の職員が一緒にいる時もあり、情報交換をしている場面が見受けられた。

地域の課題

親の介護、自身の施設入所、福祉用具について、施設の違い(特養、養護など)、デイサービス、障害者施設の利用などに関する質問や、施設でのボランティア活動に関する質問が寄せられた。相談内容は多岐に渡っており、社会福祉法人としての役割を改めて認識した。パネル展をきっかけとして、暮らしの相談ステーションの充実など、地域の方に社会福祉法人を身近に感じてもらえる様な活動の取り組み方を連絡会として検討したい。

東村山市内社会福祉法人連絡会

オープン施設見学会

- 開催日程 9/2～11/15 各11:00～15:00
- 参加団体 敬愛の森、救護施設村山荘、八国山保育園、花さき保育園、福祉事業センター、グループホームはぎやまハウス、白十字ホーム、ハトホーム、平成の里、久米川保育園、青葉の森、救護施設さつき荘、あゆみの家成人部ひまわり
- 参加人数 5名

実施の目的

地域に密着した社会福祉法人を目指し、社会福祉法人が運営する施設や事業所、事業をより多くの地域の方に見て、知ってもらい、法人への理解促進と活用を図る。

当日の様子

法人内の3施設(特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、病院)の見学会を実施。参加者は現在介護の問題に直面されている方が多く、熱心に質問されていた。直接聞くには腰が重くなってしまうことも、この機会に聞いてみたいという様子が感じられました。

地域の課題

全体として、チラシの作成・配布を行っているが、見学希望者がなかなか集まらないのが現状。見学会を実施するにあたり、担当する職員の配置、広報についてさらなる検討が必要である。この企画は地道に続けていくことも大事である。

東村山市内社会福祉法人連絡会

市民に向けたイベントの開催

- 開催日程 9/7～11/30 各10:00～15:30
- 参加団体 東村山市内社会福祉法人連絡会 会員、敬愛会、はるび、東京コロニー、村山苑、土の根会、白十字会、天童会
- 参加人数 1000名

実施の目的

市民が気軽に参加できる出来るイベントを開催することで、市内社会福祉法人や、その施設をもっと身近に感じてもらい、知ってもらう。

当日の様子

〔八国山フリーマーケット〕29の個人・団体が出店。保育園、障害者施設、中学生などの出演もあり、多くの方に来場いただき盛況であった。事前に説明会を兼ねた交流会を実施し、世代や高齢・障害・保育の分野を超えたつながりが見られた。

〔森の文化祭〕展示部門(11/15～11/24)では、土日50名以上の方が見学。施設利用者の作品だけでなく、近隣住民、小学生の作品もあり、熱心に見られていた。コンサート部門(10/27～12/22)では、各コンサートとも利用者、近隣の方々にほぼ満席となり好評を得た。

地域の課題

イベントの開催を通じて、地域の中で分野を超えたつながり、世代を超えたつながりをつくり、地域福祉に着目した活動をしていくことが目的。主催側である事業所の利用者やご家族だけでなく、地域の方に事業所や社会福祉法人の存在を知ってもらう為に、「皆が楽しめること」に主軸を置いて開催されてきている。より多くの地域の方に参加をいただく為に、広報の方法、時期が課題である。

白十字ホーム八国山フリーマーケット実行委員会

第7回 八国山フリーマーケット

■開催日程 10/27 10:00~14:30

■参加団体 社会福祉法人白十字会、社会福祉法人山鳩会、社会福祉法人ユウカリ福祉会、民生委員、地域住民

■参加人数 500名

実施の目的

高齢社会にあって、地域で暮らしていながら「孤立」している状況が社会的な関心を強めています。地域の中での世代間交流の機会を増やすこと、多世代が共に見守り支え合って、地域で暮らせる町づくりを目指します。

当日の様子

当日は29の個人と団体が出店され、盛況なフリーマーケットになりました。ステージでも保育園の園児による踊り、障がい者施設の利用者さんによるバンド演奏、保育園の保護者によるバンド演奏、近隣中学校の生徒さんによる吹奏楽の演奏が行われました。好天にも恵まれ、来場者の方も多く、準備していた模擬店の食事もほとんど完売となりました。出店者の方たちには、事前に説明会を兼ねた交流会を実施しており、出店者同士のつながり、子どもから大人まで幅広い世代のつながり、高齢・保育・障害の分野を超えたつながりがみられました。

地域の課題

高齢化率は年々上昇しており、老老世帯、独居世帯が増えている。畑だった場所が住宅に変わっていて、新しい住民も増えている。地域住民同士のつながりの希薄化が言われるなか、八国山フリーマーケットが、地域のつながりを作り、誰もが安心して住み慣れた地域で住み続けられるような活動にしていきたい。

東村山市

特養

カフェ・居場所

社会福祉法人はるび

ふらっとカフェ ※11月=つなひろランチ

- 開催日程 毎月第3月曜日 10:00~12:00
11/18は12:00~13:00 つなひろランチとして開催
- 参加団体 東村山市秋津町高齢者見守りネットワーク『秋津あんしんネット』、東村山市社会福祉協議会、東村山市東部包括支援センター、秋津町福祉協力員、東村山市役所(健康増進課)
- 参加人数 124名

実施の目的

誰もが安心して暮らせる街づくりの一環として、社会福祉法人や施設のPRとして、認知症高齢者や、MCI高齢者の居場所づくりとして、介護されている家族の情報交換や息抜きの場所として実施。



当日の様子

つなひろのパンフレット経由での参加者は、今年もいなかった。(自施設のPRによる参加者のみ)ランチ会は昨年も大好評で予約時点から満員御礼になったため、今年は参加枠を1.5倍に増やし、多くの方に参加いただけるように配慮した。定例のカフェに来たことのない方が、ランチの前のカフェから参加してくれた。事前申し込みのため当日忘れていた方もいた。(電話連絡で参加できた)「こういう機会があると出かける気になる。」と、参加者からの声があった。今年も多くの関係団体と一緒に取り組むことが出来た。

地域の課題

地域住民が主体の見守り団体と共催している認知症カフェであるため、地域のニーズも把握しやすく、カフェに参加された方へのサロン活動の案内などもスムーズに情報提供ができています。今後もこの形を継続させていきたい。

ランチ会は大好評で、参加者からは定期開催の希望も多く聞かれたが、調理が委託であるため、複数開催が困難な状況を検討していきたい。

オレンジリング取得地域住民の活躍の場として、カフェのスタッフをやってもらっている。社会福祉法人の責務として、今後も様々なアイデアを持って、地域活動を続けていきたい。

社会福祉法人三育ライフ

シャローム祭

■開催日程 11/3 10:00~15:00

■参加団体 社会福祉法人リブリー・社会福祉法人しおん保育園・NPO法人チャレンジジャパン工房モナモナ・三沢かご店・NPO法人高齢者在宅介護支援センタースマイルアーク・社会福祉法人マザアス・なんくるエイサー・東久留米児童合唱団そよかぜ・東久留米市南町小学校・子どもセンターひばりほか

■参加人数 500名

実施の目的

地域の方々や法人との協力で祭りを作り上げながら、地域の方々、小学生たちが楽しんで参加し交流すること。



当日の様子

今年も、市内最高齢108歳の利用者の開会宣言と、男性最高齢の素晴らしい響きの太鼓の合図で始まり、恒例沖縄エイサーの演舞に地域の方々が集まってきて、にぎやかなスタートとなった。今年も小学生ボランティアをはじめ、たくさんのボランティアの活躍がみられた。屋内では児童合唱・マリンバ演奏・民謡などバラエティーに富んだイベントを開催し、たくさんの方々が楽しんでいた。模擬店も完売で、子どもコーナーも大人気であった。今年は、昨年から引き続きのマッサージに加えて、耳つぼ、足もみが加わり、好評であった。

地域の課題

小学生ボランティアが30名弱参加してくれて、その親御さんや学校の担任の先生たちもその様子を見に来てくれた。少しずつ地域に根差した施設づくりを進める一つのきっかけになっている。また、近くの高齢者の自主グループのメンバーがたくさん来場してくれて、施設に足を踏み入れることで、災害時の連携や、支援になると思われる。今後とも障害・児童関係の法人とも連携し、地域の福祉を支える協力ができればよいと思う。

東久留米市

施設連絡会

学びの機会

東久留米市介護サービス事業者協議会

介護の日フェア2019

■開催日程 11/11 10:00~17:00

■参加団体 高齢者福祉施設、居宅介護事業所、通所介護、訪問介護、訪問入浴、グループホーム、福祉用具、配食、訪問看護等市内の介護サービス事業所

■参加人数 250名

実施の目的

11/11が介護の日であることをアピールし、市内にたくさんの介護事業が展開されていること、介護のことを知ってもらい、介護事業の認知度向上を図る。

当日の様子

平日の開催となったが、買い物途中の方や家族連れ、近隣の介護事業所のご利用者など、幅広い来場者であった。福祉用具の体験、ケアマネージャーの相談コーナー、通所介護のグループの子どもコーナー、グループホームのクリスマスリース作りなど、スタンプラリーで景品をお渡しし楽しんでいただいていた。

地域の課題

介護の日のイベントとして、定着してきたと思われる。このイベントにより、さまざまな事業所の方々と交流でき、連携が取れ、スムーズな介護サービスの提供ができるようになってきた。地域住民と介護事業所の接点として今後も発展させて、東久留米市介護サービス事業者協議会の活動として続けていきたい。

マザアス東久留米

オレンジカフェ「和」(なごみ)

- 開催日程 4～11月、毎月第4月曜日 14:00～16:00
- 参加団体 認知症サポーター、マザアス東久留米、東久留米東部地域包括支援センター
- 参加人数 70名

実施の目的

認知症の有無にかかわらず同じ地域に住む高齢者の皆さんが気軽に集まることができ、認知症予防プログラムや介護予防体操等を提供する機会を定期的に開催することで、健康的な日常が送れるよう支援する。

当日の様子

10人の地域在住の高齢者の皆さんが集まってこられ、当日の流れに沿って11月の歌を歌いスタートした。メインのプログラムとして、「フラダンス」のボランティアさんによる演技を見ながら、皆さんも一緒に踊られる。フラダンスの動きの紹介を聞いて、真似ながら笑顔で参加されていた。「歳を取っても踊れますよ。」との話に、大変興味を持たれていた。その後、お茶とおやつで交流会を行う。おしゃべりを楽しまれた後で、参加者の方が自作の紙芝居を披露され、最後まで充実した様子だった。

地域の課題

現在10人位の方が参加されている。毎回参加されている方が増えており、中でも男性で独居の方の参加が徐々に増えている。定期開催をしていくうちに、一人暮らしの寂しさを訴えた方がいた。オレンジカフェを実施する事で顔なじみの関係になり、話しやすい場所として地域での必要性を感じている。個々の高齢者の抱えている課題を発見し、新たな支援につなげる役割が求められていると感じる。

東久留米市

特養

地域交流

マザアス東久留米

歌声マザアス

- 開催日程 4～11月、毎月第3土曜日 14：00～15：30
- 参加団体 マザアス東久留米、音楽療法士
- 参加人数 56名

実施の目的

懐かしい歌や童謡、新しい歌謡曲までジャンルを超えて歌を楽しむことで脳内のドーパミンを増やし、認知症予防や声を出すことで、ストレス発散と脳の若返りを図る。

当日の様子

開始前にコーヒーを楽しみ、歌声喫茶風に実施した。参加人数は少ないが、顔なじみの方が増えている。90分の間に18曲～20曲を歌い、間に休憩や簡単な体操を入れている。参加されている方は、70～80才台が中心だが、歌好きな方ばかりで声も大きく、20曲近くをしっかりと歌われていた。毎月、季節に合った歌や参加者のリクエストにも応えており、楽しまれている様子が感じられた。

地域の課題

まだまだ参加者が少なくアピールする必要があると感じる。地元の高齢者の参加を呼び掛ける機会として、オレンジカフェでの紹介をしたところ、すぐに参加があった。様々な機会を通して、歌の会の参加を呼び掛けて行きたい。

マザアス東久留米

とも・いきマザアスバザー

■開催日程 10/20 10:00～13:00

■参加団体 火曜市会、ブレッチェン、モナモナ、ホームケアセンターイワサキ、リーフメディカル、メモリアルヨーコー、東久留米市東部地域包括支援センター、マザアス各部署

■参加人数 100名

実施の目的

老人ホームに住まう高齢者たちと同じ地域に住む住民・子どもたちと、ゲームやバザーで交流を行い、地域のつながりを再認識する。

当日の様子

これまで敷地内の屋外開催を実施してきたが、今回開催より屋内開催とした。天候にも恵まれ、多くの方々にご来場いただくことができた。施設入居者にとって多くの来訪者の賑わいはあまりないことであり、貴重な機会となった。

地域の課題

新しい取り組みを考えることも大切であるが、バザーを楽しみにされている方々も来所されるので、変わらず継続していくことも大切であると考えている。このような地域交流の場を継続していきたい。

清瀬市

複数施設共催

地域交流

社会福祉法人慈生会 聖家族ホーム・聖ヨゼフ老人ホーム

ふれあいバザー

■開催日程 11/3 10:00～14:00

■参加団体 ボランティア(秋津教会、小平教会、東星学園等)よさこいソーラン清瀬、マ・メゾン光星、どんぐり、ボーイスカウト清瀬第2団、ホームケアセンターイワサキ、聖ヨゼフ老人ホーム職員OB、河野屋、慈生会本部、すばる、パオバブ

■参加人数 500名

実施の目的

ふれあいバザーを通じて、地域の方々やホームのご利用者、ご家族等と交流を深める。2つの老人ホーム・ベトレヘムの園病院等、社会福祉法人慈生会清瀬地区の活動を少しでも知っていただく。

当日の様子

10時の開始時間は肌寒さも残る気温であったためか、温かい食べ物がいち早く完売した。同時に開催している児童養護施設ベトレヘム学園のどんぐり祭も盛況で、昨年よりも多くの人々がバザーに来られたようであった。会場は昨年同様であったが、一部模擬店の配置を変更するなど工夫した。そのため、冷たい飲み物等を除いて13時前に売り切れが続出した。フリーマーケットやベタニア修道女会の模擬店にも多くの人々が訪れ、秋のひと時を楽しんでいただけたと思っている。

地域の課題

昨年から新しい会場、配置のバザーとなったが、昨年より人出が多かったようで、地域に定着していることが再確認できた。

反面、今年はバザー当日が日曜日と重なり、隣接するカトリック秋津教会の御ミサ参加者やベトレヘムの園病院へのお見舞いの方々も来られたため、駐車場が不足し、会場前の緑陰通りで順番待ちの渋滞が発生し、近隣の方や通行する車に迷惑をかける時間があった。今後の課題として検討する必要があることが明らかになった。

特別養護老人ホーム良友園

ふれんどサロン

- 開催日程 ①9/17 10:30~12:10
②11/19 10:30~12:20
- 参加団体 良友園職員(ふれんどサロン実行委員会)
- 参加人数 33名

実施の目的

地域に住む方々との交流を通じて、施設を身近に感じていただくとともに、参加者の健康維持等に貢献する。また、地域の課題を知ること、今後の地域貢献につなげていく。



当日の様子

機能訓練指導員による健康体操で全身をほぐした後、身体を使ったゲームを行った。うまくいかないことも楽しんでいただき、笑い声にあふれていた。その後、良友園特性のカレーライスでランチをし、参加者や職員との交流を図った。「楽しかった」、「カレーがおいしい」など好評であった。

また、11月開催時は、「健康食生活」や「フレイル」など栄養に関するパネルやリーフレット配布も併せて行い、運動・食事の2つの側面から健康を意識していただける取り組みを行った。管理栄養士の話に興味深そうに聞いている様子が見られた。

地域の課題

当施設以外のサロン活動等に参加されている方も多いようだが、サロン活動等が行われることで、出かける目的や機会をつくることにつながっているようである。

今後も、地域の方々が健康で生きがいを持って生活する一助となれるよう、定期的な開催を継続していく。また、参加者に有用である情報提供などを検討し、さらに喜ばれる活動にしていきたい。

社会福祉法人梅の樹会 フラワープラム

専門職デリバリー

- 開催日程 ①7/12 14:00～15:00 ②7/19 11:00～14:00
 ③7/24 13:30～15:00 ④8/2 9:00～12:00
 ⑤9/12 11:00～15:00 ⑥10/11 14:00～15:00
 ⑦10/18 13:00～14:00 ⑧10/20 9:00～12:00
- 参加団体 高齢者サロン(ばらの会・すずらん・カーネーション・ほたる・富士見・サンサン遊び場)、認知症カフェ(道しるべ)、瑞穂町老人会、瑞穂町高齢課、瑞穂町保健センター、瑞穂町シルバー人材センター
- 参加人数 150名

実施の目的

法人の専門職(PT・OT・介護福祉士・管理栄養士・ケアマネジャー等)を活動拠点にアウトリーチすることで、地域貢献を果たすとともに、地域住民と顔なじみの関係づくりを構築する。



当日の様子

地域住民の方からのご要望に合わせた内容で、専門職をデリバリー。健康体操や腰痛予防体操・認知症予防・コグニサイズといった体操や、フレイルや認知症予防に対する講話といった内容のリクエストが多い。日頃、主体的に活動している住民の方々からはとても有難いと重宝。また、お茶のみなどを通じた住民の方との交流は職員もとても楽しいようで、本来業務とは違う活躍の場で、やりがいも感じているようである。

地域の課題

公的サービスの狭間の困りごとや悩み事など、地域住民の方の「生の声」を聞く貴重な機会となっている。また、瑞穂町町外に住む職員も多く、この活動を通じ、瑞穂町の地域特性を知る機会にもつながっている。今後もこの活動を継続していくと共に、住民の方の声をサービスにつなげられるよう社会福祉法人として活動していく。

社会福祉法人梅の樹会 フラワープラム

認知症カフェ「楽笑プラムカフェ」

- 開催日程 毎月第4木曜日 11:00~14:00
- 参加団体 社会福祉法人梅の樹会 フラワープラム
- 参加人数 105名

実施の目的

認知症の方を介護するご家族様の支援を目的に定期開催。

当日の様子

管理栄養士監修のワンコインランチを食べながら、本人・家族・専門職が気軽におしゃべりできる認知症カフェ。「セミナーや相談できる認知症カフェはよくあるけれど、気軽に話ができることは少ないのよね。」とお声を頂戴しています。当日は、施設内で運営している認知症対応型通所介護のご利用者様も遊びにきます。コーラスを披露したり、手編みのスポンジたわしをプレゼントしたりと、認知症の方の活躍の場としても機能しています。



地域の課題

町内には5つの認知症カフェがあり、各々が特徴を持って運営しています。ランチ提供ができる特徴を活かしながら、ご利用者様・ご家族様の支援を継続していきます。また、職員も順番に参加することで、ご家族様の声を聴き、学びにつなげていきます。

瑞穂町

複数施設共催

その他

瑞穂町有志の会

介護職カフェみずほ

■開催日程 9/21 18:00~20:00

■参加団体 社会福祉法人梅の樹会フラワープラム・二本木交茶店(地域密着型通所介護)

■参加人数 38名

実施の目的

現場職員の横のつながりを深めるカフェ。
他市町村への呼びかけも広く行い、瑞穂町の
介護ブランドを発信していく。

当日の様子

お茶とお菓子をテーブルに、ゆるーいカフェスタイルで開催。プログラムは、現場目線のミニセミナーとサイコロトークによるグループワーク。サイコロトークでは、「ここだけの話、上司に一言!」、「ロボット介護 あり?なし?」、「最近嬉しかった出来事」、「私の介護のこだわり」、「嫌いな業務ありますか?」、「在宅と施設、どっちが好き?」、「私だったらどんな人に介護されたい?」、「他の施設ではどうやってるの?」などなど、ストレスを発散しながらも疑問・悩み解決につながるような話題で、時間を超過して盛り上がりました。



地域の課題

現場職員がつながる機会が少ない業界。現場職員同士がつながることで、情報交換やストレス発散、学びになればと、有志の会で立ち上げ初開催であった。アンケートでも、「またやって欲しい」、「次は職場の職員も連れてきたい」、「楽しかった」という声を多くいただいた。今後は、継続開催していくことで、瑞穂町の介護ブランドとして発信していきたい。

高齢者在宅サービスセンターみずほ

くりの里サロン

■開催日程 11/24 11:00~14:00

■参加団体 高齢者在宅サービスセンターみずほ、瑞穂町栗原町内会、ボランティアセンター

■参加人数 14名

実施の目的

地元町内会の概ね60歳以上の方に、高齢者福祉施設をもっと身近な存在として理解を得るため、会食やレクリエーションを行い親睦を高めることと、自主的にサロンを展開し、施設職員との共同体を構築することを目的とした地域貢献活動です。



当日の様子

今回は、町の行事と重なり予定人数の半分ほどの参加となりました。プログラムは、カレーライス、コンソメスープ、サラダを作りました。参加者のほとんどが女性で、とても手際が良く、短い時間で作業は終了し、煮込んでいる間に健康体操を行いました。皆さんとの会食の後はカラオケを行い大いに盛り上がりました。時間に余裕があったのでリラクゼーション(メドマー、ウォーターベッド)の体験をしていただきました。

地域の課題

今回も、サロンの主導権が施設側になり、準備段階では一部の人以上地域のからの積極的な協力を得ることはなかった。計画を立てるのが直前であり、もっと早い時期で地域住民への周知が必要ではないかと思った。

羽村市

特養

カフェ・居場所

特別養護老人ホーム神明園

神明台自習室『みらい』

■開催日程 ①9/3～9/10 12:30～20:30 ②11/11 12:30～20:30

※実施時間は日程により変動あり

■参加団体 羽村市立羽村第三中学校

■参加人数 176名

実施の目的

- ①中学生の自主学習の場の提供
- ②中学生への学習支援を通じた大学生との交流
- ③食事提供による家庭支援

当日の様子

中学生が各自で勉強道具を持ち込み、自主的に学習を進めた。分からない問題等があったとき、中学生は大学生ボランティアに質問し理解を深めていた。中学生と大学生が歓談しながら一緒に食事をし、中学生は大学生に大学生活について質問する等していた。中学生から、「自分の将来をイメージするきっかけになった。大学生と自由に話ができて良かった。」という感想が聞かれた。



地域の課題

『みらい』は2018年11月、羽村第三中学校の校長・副校長先生や地域の民生委員と協議し、中学校の試験期間(6回/年)に合わせて開催してきた取り組みである。利用を希望する生徒数は徐々に増加し、特に共働きの保護者からは、子どもの居場所があること、そして食事が無料で提供されることに対する評価を得ている。中学生への学習支援を行なう上で大学生ボランティアの力は非常に大きいですが、大学生ボランティアを確保する難しさを感じている。究極的には地域の大学生が地域の中学生を支えていく循環を作っていきたい。

社会福祉法人さくらぎ会 特別養護老人ホームこもれびの郷

地域総合防災訓練

■開催日程 10/24 10:00～16:00

■参加団体 東京消防庁秋留台出張所、あきる野市みどりの里自治会、地域ボランティア、地域関連企業、こもれびの郷スタッフ、法人本部職員など

■参加人数 120名

実施の目的

いつ起こるかわからない巨大災害に対し、地域の施設、住民、機関が協働して訓練を行う。また、単年の事業とはせずに毎年繰り返す行うことで防災意識の醸成をはかる。

当日の様子

午前10時より施設スタッフ、利用者による訓練シュミレーションを行う。午後に入り、他の組織の参加者が参集し通報、避難、消火訓練を行う。この一連の流れを東京消防庁の職員が巡視し、訓練後に講評を行った。会の終了後には備蓄された非常食を調理し、参加者全員で食べ、避難時のリアルな環境を味わっていた。

地域の課題

年々参加者と規模が大きくなるが、利用者、そして地域の避難困難者にスポットを当てた細やかな動きにも気を配って継続していく。

あきる野市

特養

カフェ・居場所

社会福祉法人福信会 特別養護老人ホーム麦久保園
社会福祉法人溪流会 特別養護老人ホーム草花苑

Ori Cafe(オリカフェ)

■開催日程 9/4 14:00～16:00

■参加団体 社会福祉法人福信会 特別養護老人ホーム麦久保園、社会福祉法人溪流会 特別養護老人ホーム草花苑、折立町内会ふれあい福祉委員、青蛾珈琲(珈琲専門店)、あきる野市中央図書館、フルート奏者 村野直子氏

■参加人数 34名

実施の目的

1つの町内会に2つの特養が拠点を構える地域。その中で、法人間連携、地域の社会資源としての役割、地域に無い資源を活かした地域住民の拠り所としての機能等を探求する。その為に、背伸びせず活動を継続する。

当日の様子

この活動も年間5回の開催で3年目を迎えた。オリカフェは挽き立てのコーヒー、図書の貸し出しと毎回変わるイベントの3つの資源で空間を構成。今回は市内出身のフルート奏者をお招きし、町内会館に素敵なフルートの音色が響いた。地域の高齢者は音楽が好きで、各々身支度をして足を運んで下さる。イベント後には挽き立てのコーヒーと焼き菓子でプチ喫茶。男性参加者はフルート奏者との会話に笑顔が溢れていた。職員はイベントのサポーターとウエイトレスに徹し、回を重ねることで住民との自然な会話が増えている。

地域の課題

出かけたいけど公共交通機関や車がない。スーパーやコンビニに行くにも1km以上離れており、さらに勾配がきつい。老々世帯や独居世帯は外出の目的に合わせた移動援助がないと出不精になる可能性がある。

地主が多い地域だが高齢化が進んでおり、生活に障がいや課題が出て近隣世帯が高齢なゆえ、共助の関係性にも不安はある。適切なサービスや資源に結び付くかで地域での暮らし方が変わる。私たちは地域の高齢者が元気なうちから関係性を築き、不安や課題が出たときに気兼ねなく相談に乗れる立場でいたいと感じる。

あきる野市、あきる野市地域包括支援センター、
あきる野市介護事業者連絡協議会

介護サービス普及啓発イベント「介護の日」

- 開催日程 11/9 10:00~16:00 プレイベント:11/1~11/8
※市役所閉庁日は除く
※11/1は13:00~、11/8は12:00まで
- 参加団体 あきる野市、あきる野市地域包括支援センター(3センター)、あきる野市介護事業者連絡協議会(会員事117事業所)
- 参加人数 1150名

実施の目的

各種展示や体験・相談コーナーなど多様なメニューを展開し、広く介護サービスの普及啓発を図ります。



当日の様子

プレイベントでは通所サービス利用者の作品展示やケアマネジャーによる介護相談、各種サービス等のパネル展示を実施しました。

メインイベントでは上記のほか、訪問入浴の実演、ロコモチェックや骨密度測定、福祉用具の展示体験、認知症対応型サービス利用者がスタッフを務める喫茶コーナー、隣接する秋留台公園で開催されたあきる野市産業祭会場での行方不明者捜索訓練ゲーム、スタンプラリーなど多彩なメニューを展開しました。

産業祭会場イベント告知チラシを配布したことにより、家族連れなど多くの方に来場いただきました。

地域の課題

一般市民にとって介護や福祉のサービスは、必要に迫られるまでは身近なものではないことを実感した。メインイベント会場の秋川ふれあいセンターは、市の社会福祉協議会もある福祉拠点であるが、産業祭会場でチラシ配布をしたスタッフからは、センターを知らない市民もいらっしまったとの報告もあった。

今後は、介護や福祉についての情報提供にとどまらず、市民一人ひとりが自分の望む生活について日頃から考えることを促していくこと、その結果として介護や福祉のサービスが身近なものとなる働きかけが必要である。

あきる野市

デイサービス

地域交流

社会福祉法人あすなろ会 あすなろみんなの家

ふれあいお茶飲み会

■開催日程 9/24 11:00~15:00

■参加団体 あきる野市 原小宮ふれあい福祉委員会、あきる野市 原小宮町内会

■参加人数 45名

実施の目的

町内会の高齢者のふれあい・交流の場として、昼食やゲームを通じ、「笑って歌って元気よく」楽しいひとときを過ごす。

「あすなろみんなの家」の事業や介護保険・高齢者福祉のサービスについて理解していただく。



当日の様子

会に先立ち10:00から、ふれあい福祉委員会が定期開催している「ウォーキングの会」があり、多くの方は都立秋留台公園でのウォーキングに参加した後に会場に集まりました。

町内会長さんのご挨拶の後、理事長より事業内容やサービスの利用方法、介護保険や高齢者向けの福祉サービスについて説明し、その後、当施設がご用意した昼食、ふれあい福祉委員会がご用意されたお飲物やお菓子を囲んでの歓談、食後にはお招きした演芸ボランティアによる全員参加型のステージやビンゴ大会などで、よく笑い楽しい時間を過ごしていただきました。

地域の課題

当地区は高低差があり、高齢等で地域行事等への参加が困難(今回はふれあい福祉委員による自家用車での送迎が数名)な場合や、買い物等に不便が生ずる可能性がある。

転入者の町内会未加入などの課題があったが、最近では町内会等の組織に加え、自主グループが年中行事等で連動するなど、地域住民の参加が増加しているのは強みである。

本イベントは年に数回行われ、当施設を活用いただいている。健康づくり・認知症予防や施設・制度等の情報提供を続けているが、今後、地域ニーズを拾い上げる視点での取り組みを進める必要がある。

社会福祉法人ほういえ会 栄光の杜

配食サンキュー弁当

- 開催日程 毎週月～土曜日の昼食時間
- 参加団体 特別養護老人ホーム栄光の杜
- 参加人数 195名

実施の目的

地域にお住いの高齢者に、美味しく、バランスの良い食事をお届けし、健康の基礎作りをお手伝いすることを目的とする。

当日の様子

配食サービスを始めてから継続して利用していただいている方も多く、顔馴染みの関係が築けている。温かいお弁当を提供することで利用されている方からも、「温かくて、おいしい」という声もいただけた。

毎日の顔馴染みの関係から、日頃の様子やその日の体調面も確認することができている。



地域の課題

高齢者の多い地域だけに配食のニーズが高いと考える。昨年同様、当法人の居宅介護支援事業所が担当している利用者に限定したサービス提供になっているが、今後も地域包括や他事業所との連携で、困っている方々への助けになるよう、範囲の拡大が求められる。

日曜日や夕食の配食サービス、そして安否確認ができる体制構築を継続した課題としている。

日の出町

特養

カフェ・居場所

ひのでホーム

こどもランチ in ひのでホーム

■開催日程 10/20 11:30~13:30

■参加団体 民生委員の皆さん、ボランティアの皆さん、マウンテンズ(保育園・幼稚園の先生たち)、お年寄リスペクト隊(地域のケアマネさん中心のスタッフたち)

■参加人数 110名

実施の目的

おいしいランチを食べたり、レクリエーション(マウンテンズの歌と踊り・こどもカラオケ大会)を楽しむなどして、子育て世代・幼児・児童同士で楽しく交流しよう！



当日の様子

当日は町内で子ども向けのイベントが複数あったにもかかわらず、多くの家族連れが参加してくれた。10月開催のため飾りつけもハロウィンの雰囲気を作り、子ども達にも好評だった。幼児連れの家族が中心で、少しずつ新しい家族が加わって、回を重ねることで多くの地域の人達に子どもランチの取り組みやひのでホームを知ってもらえていると感じている。子ども用のテーブル・イスは地域の保育園・幼稚園から拝借した。

参加された皆さん、ご協力いただいた団体も含め、食事もおいしくとても楽しかったと、とても満足していただけた。

地域の課題

地域の人たちが楽しめるイベントとして継続していきたい。

栄光の杜、藤香苑、ひのでホーム

産業まつりでつなぐひろがれ日の出町の輪

Supported by 日の出町ハートワークフェア

- 開催日程 ①11/2 10:00~16:00 ②11/3 10:00~15:00
- 参加団体 栄光の杜、藤香苑、ひのでホーム
- 参加人数 1500名

実施の目的

町内の人がたくさん集まる日の出町産業まつりで、3つの特養がつながり、食を通してPRします。

当日の様子

産業まつり2日間を通して、栄光の杜はタピオカミルクティー620杯とご利用者の手作り作品、ひのでホームは焼き立てパン1200個を販売した。藤香苑は、台風19号の被害により参加ができなかったが、数名の職員が会場に来て情報交換ができた。

天気も良く産業まつり全体でお客様の出足も多く、当初の予定より早いペースで売り切れになった。

他にも町内の福祉関係事業所も出店しており、交流を持つことができ、また、施設のことや福祉サービスなどのPRもできた。



地域の課題

施設間交流の機会にもなっており、また、たくさんの人が集まるイベントでPRできる貴重な場であるため、継続して行っていきたい。

福生市

特養

認知症

特別養護老人ホーム第2 サンシャインビル

認知症オレンジカフェ

■開催日程 10/20 11:00～12:00

■参加団体 福生市地域包括支援センター、介護プランセンターサンシャインビル、在宅介護支援センター加美 第2 サンシャインビル、福生高校ボランティア

■参加人数 21名

実施の目的

在宅で認知症介護に悩んでいる方は、介護疲れやストレスを抱えている場合が多くある。そのような方々を対象とし、情報提供や情報交換からストレスの軽減や仲間作りを図り、前向きな介護観を持ってもらう事を目的とする。

当日の様子

施設文化祭の一環として開催し4年目を迎えた。主に介護者の方々の苦労話を語る場となった。更には、専門職からの地域の社会資源や介護をしていく上でのアドバイスも受けられた。先の見えない介護に同じような悩みを抱えているのは自分だけではないと、互いに励ましあう参加者の姿も見られた。介護者と共に参加した認知症の方は、席に着く方や職員と共に展示物の見学をする方等、思い思いに過している様子であった。終了後も専門職へ相談を続けている方や文化祭の模擬店を楽しまれる方もいて、参加者にとって有意義な1日になったと思われる。

地域の課題

4回目という事もあり開催スタイルが定着してきた。参加者の言葉に、「参加できて良かった。」との声が多く、同じ介護者同士の言葉が1番勇気付けられると感じた。今後も地域に1つでも多く介護者と認知症者が一緒に参加できる居場所作りとして継続して行く事が重要である。

特別養護老人ホームサンシャインビラ

高齢者体験

■開催日程 9/9 13:30～15:30

■参加団体 青梅市立泉中学校、特別養護老人ホームサンシャインビラ

■参加人数 152名

実施の目的

高齢者疑似体験や車椅子体験を通じて、高齢者理解を深める。

当日の様子

泉中学校1年生4クラス140名による「高齢者疑似体験、車椅子体験」の授業に参加する。(体育館にて)

各クラスに、「歩行困難セット」や「視界遮断ゴーグル」等での体験や車椅子体験を行う中学生に、私達施設職員もそれぞれのクラスに分かれ、車椅子についての説明や体験のお手伝いをした。体験後は、それぞれ4人の職員が各クラスに分かれ、高齢者について、福祉施設についての説明をさせて頂き、生徒さんからの質疑応答に答える等を行った。

地域の課題

若い人は高齢者と接する機会が少ない。高齢者に関心を持ってもらい、高齢者福祉への理解を深めるために、若い人を含め、地域住民に高齢者施設で暮す高齢者との交流の機会を提供する。

日野市

特養

地域交流

特別養護老人ホーム浅川苑

あさかわ祭り

■開催日程 10/20 10:00～14:00

■参加団体 日野市地域包括支援センターあさかわ、浅川苑サービスセンター、ケアマネジメントセンター浅川苑、介護ショップりんりん、浅川少年少女合唱団

■参加人数 80名

実施の目的

地域との交流

当日の様子

作品展を見に来たご家族がいろいろな利用者の作品を見て楽しんでいた。障害者施設のお子さんが自身で焼いたパウンドケーキを売っていたが、声が大きく、祭りの呼びこみにもなった。屋台では炭火で焼いた焼き鳥が人気だった。お客様同士でも話したりしていたので、地域の人が集まる交流の場となった。

地域の課題

子どもが少なかったので、近隣の小学校・保育園に声をかければ良かった。焼きそばの小パックが欲しかったと住民の方より要望があったので、来年は検討したい。前日の準備から各部署が協力でき、チームワークが取れるようになってきた。

日野市地域包括支援センターあさかわ

おしゃべりカフェ

- 開催日程 ①9/21 13:30~16:00 ②10/19 13:30~16:00
毎月第3土曜日 13:30~16:00
- 参加団体 東京司法書士会三多摩支会
- 参加人数 39名

実施の目的

認知症の当事者やご家族、地域の方がゆったりと過ごせ、認知症のことを知りたいと思われている地域の方々の情報交換の場所。(専門職も配置)
認知症になっても安心して暮らせる地域作りが目的。

当日の様子

認知症の方を介護している家族、介護経験者、地域住民が参加し、コーヒーやスムージーを飲みながら様々な情報交換や話をしている。
台風19号の話から防災の話しに発展していった。
パウンドケーキ等の販売も行っている。
10月は、成年後見制度の話を聞きたいという要望があった為、司法書士に制度の説明を行ってもらった。
毎回30分程度の体操を行い、リフレッシュしている。

地域の課題

丘陵地に居住している高齢者が多いため、自力で外出が困難になるケースが多い。
認知症に限らず、高齢者を介護している方が一人で抱え込まず、気軽に立ち寄れる居場所(情報交換の場)作りが必要と思われる。
今後は若い子育て世代にも参加していただけるように、地域住民や自治会等と連携を図っていきたい。

その他

複数施設共催

アウトリーチ

社会福祉法人善光会

過疎地域でのボランティア活動

■開催日程 ①9/18 13:00～16:00 ②10/2 9:30～11:30

③11/7 9:30～16:00 ④11/13 9:30～16:00

■参加団体 茂木町社会福祉協議会、茂木町役場、茂木町民生委員、社会福祉法人善光会

■参加人数 58名

実施の目的

過疎地に住む高齢者宅にて、屋内の清掃やゴミ出し等を職員のボランティアにて実施しながら、介護保険等では対応できない高齢者ニーズに対し、国費に頼らず過疎地の高齢者へのサービス提供を行う。



当日の様子

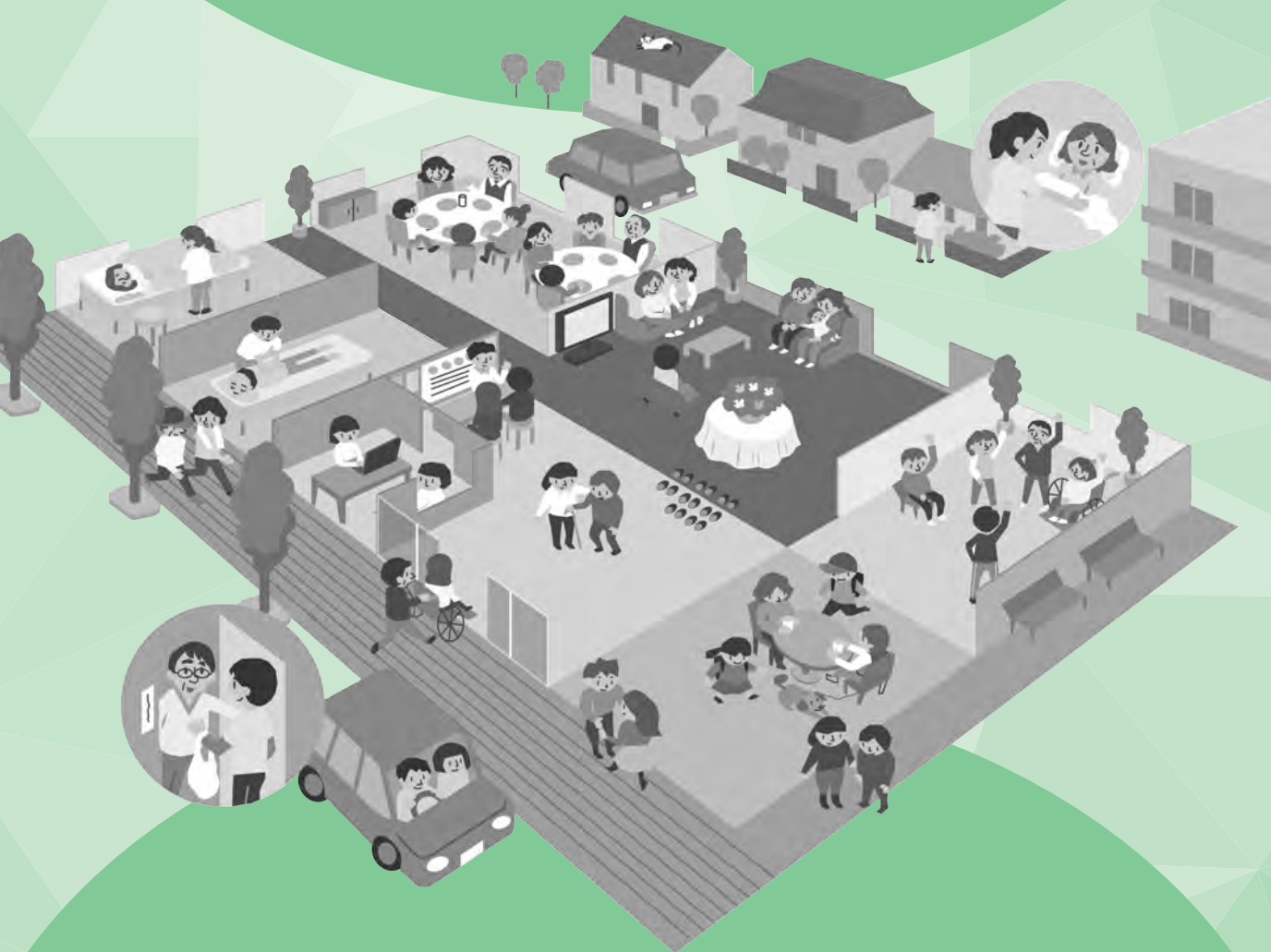
当日、室内の片付けや清掃を住民の方々と共に行うことで、これまで他人とのコミュニケーションが少なく、家に籠りがちだった方が自身のお話をして下さったり、「若い人と話ができて楽しい。」と、言っていた。また、「一人暮らしで高い場所の掃除などが困難だったが、ボランティア活動にて日頃できないところを綺麗にしてもらえて助かった。」との言葉をいただいた。

地域の課題

過疎地では、広い家に一人で暮らしている高齢者の方も多く、若い家族や親戚も離れた場所で暮らしており、不自由に思われていることが多いと感じる。

茂木町は社会福祉協議会が中心となり町内高齢者の生活状況等をよく把握されており、また、各関係機関とも密に連携が取れている。しかし高齢世帯に対応できる人数や対応内容も限られていることから、我々の活動に共感し共にボランティア活動を実施していただける企業や同じ社会福祉法人を増やしていけるよう、この活動を継続していきたい。

資料





東社協 東京都高齢者福祉施設協議会

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO

《高齢者福祉施設・事業所を中心とした「地域に寄り添う」ための都内一斉キャンペーン》

参加施設・事業所の募集ご案内



「つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO」は、誰もが安心して暮らせるまちづくりをめざして、都内の高齢者福祉施設・事業所ならびに社会福祉法人が中心に取組むキャンペーンです。

皆様のご賛同と積極的なご参加により、高齢者福祉施設・事業所ならびに社会福祉法人における地域の取り組みへの認知度が高まります。ぜひご参加ください。

1 目的

地域でこぼれ落ちる人がいないよう、誰もが安心して暮らせるまちを目指して、高齢者福祉施設・事業所が、地域に寄り添うことで「ちいきの輪」をつくります。

高齢者やその家族をとりまく課題が多様化・複雑化する中、社会福祉法人による高齢者福祉施設・事業所には、地域住民への寄り添い(アウトリーチ)に大きな期待が高まっています。

高齢者福祉施設・事業所を中心に、地域住民に向けた事業をととして「ちいきの輪」をひろげる一歩として、このキャンペーンにご参加ください。

◎キャンペーンについて

都内の高齢者福祉施設・事業所が一つになって行うキャンペーンです。

- 多くの高齢者福祉施設・事業所では、地域に根ざした活動に取り組んでいるものの、社会福祉法人としてPRする機会は、かならずしも多くはありませんでした。
- キャンペーンをととして、高齢者福祉施設・事業所の取り組みを地域住民に知っていただけるよう、会員の施設名や法人名も含めた積極的なPRを行います。

施設・事業所らしい、地域に向けた活動によりご参加ください。

- 地域住民への寄り添いが趣旨であれば、どのような事業でもご参加いただけます。
- 単独の施設・事業所が取り組む事業のほか、法人内施設・事業所や、他法人及び他業種の福祉施設・事業所、地域の住民組織等と合同の事業でもご参加いただくことができます。
- キャンペーン期間中(9月から11月)に実施する事業でのご参加をお願いします。

活動実績を踏まえ、福祉の理念のもとづく地域包括ケアの推進につなげます。

- キャンペーンのみに終わらないよう、各施設・事業所からの活動報告をふりかえりながら、福祉の視点による地域包括ケアの推進に向けた取り組みを行います。

多くの施設・事業所によるご参加によって効果的なPRができることから、積極的なご参加をいただくようお願いします。

あわせて、都内全区市町村でのキャンペーン参加をめざし、ブロック会や区市町村施設長会での呼びかけについてもご協力をいただきますようお願いします。

2 前回の状況－昨年度の実績より

前回のキャンペーンでは、会員の施設・事業所をはじめ地域の団体との協働により、のべ917団体により126事業を実施。53,026人の参加がありました。

<キャンペーンの様子>



立川オールディズ物語カフェ
社会福祉法人恵比寿会(立川市)



ニコニコ清風食堂
特別養護老人ホーム清風園(町田市)



ケアホームズ両国 動物ふれあいフェア
特別養護老人ホームケアホームズ両国(墨田区)

<実施データ>

取組み種別	事業数	構成比(%)
認知症への対応	5	4.0
介護予防・高齢者支援	14	11.1
アウトリーチ	3	2.4
相談・家族支援	2	1.6
カフェ・居場所づくり	18	14.3
地域住民の学びの機会	9	7.1
地域団体との協働	9	7.1
地域交流	56	44.4
防災への取り組み	3	2.4
その他	7	5.6

施設種別	事業数	構成比(%)
特別養護老人ホーム	67	53.2
養護老人ホーム	2	1.6
軽費老人ホーム	1	0.8
デイサービスセンター	15	11.9
地域包括支援センター	6	4.8
在宅介護支援センター	0	0
区市町村施設連絡会	1	0.8
複数施設との共催	15	11.9
その他	19	15.1

<おもな取り組み>

介護予防教室や認知症カフェの開催／地域の高齢者宅への訪問活動／地域住民や家族への相談活動／施設を会場としたカフェや居場所づくり／福祉や健康に関する市民向け学習会／地元イベントの参加など地域団体との協働／まちづくり懇談会など地域内での交流会／福祉避難所設置訓練など住民向けの防災活動

※その他詳細データはHPをご覧ください。

施設のお祭りや
敬老の日のイベントなど
すでに行っている取り組みでも
参加できるブル！



<キャンペーンに参加した施設・事業所担当者の声より>

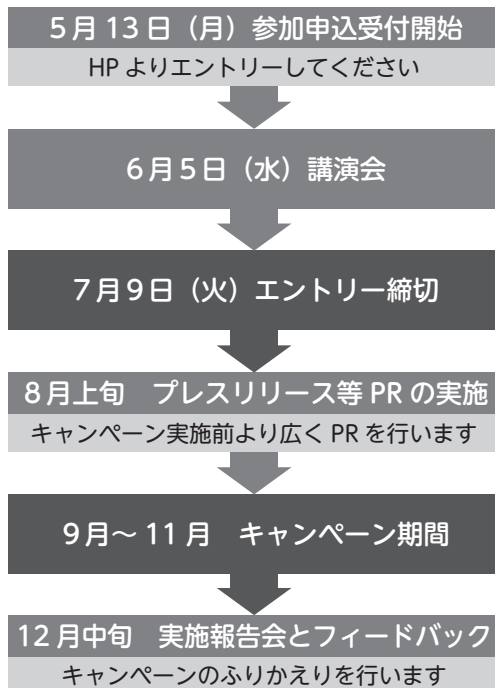
- ・新しいことではなくても、たくさんの事業所が参加することが大切だと感じました。
- ・他施設の担当者と話し合うことで、一人で悩んでいたことへのアドバイスがもらえました。
- ・キャンペーンをとおして、地域の中での法人相互の連携が深まる可能性を感じました。



◎キャンペーン参加による3つのメリット

- 1 高齢者福祉施設や社会福祉法人に対する地域住民の理解が広がります
- 2 施設・法人における地域での新たな取り組みを行うきっかけにつながります
- 3 法人内の他事業所ならびに他の法人との連携をすすめるきっかけにつながります

3 キャンペーンの流れ



エントリー期間を延長いたしました！

お申し込みはウェブページまたはFAXにてお受け付けしております。
皆様のご参加を心よりお待ちしております！

活動参加施設・事業所見学会

日時 調整中（3回程度を予定）

場所 調整中

内容 実際に活動をしている施設・事業所の取り組みを見学いただきます。

※詳細は別途送付する開催案内をご覧ください。

4 Q & A

【Q】 従来から実施している事業でも参加できますか。

【A】 できます。従来の活動も含めてPRすることがキャンペーンの目的です。なお、キャンペーンを契機として、施設・事業所内で新たな事業を検討いただく形での参加も可能です。ただし、自治体の委託事業など主催が他団体の事業の場合、事前に主催団体に了承を得た上でお申込みください。

【Q】 1日間、半日間、通年で実施している事業でも参加できますか。

【A】 広く地域住民を対象とする事業であれば、実施時間や期間の制限は特にありません。

【Q】 開催日時は施設側で決めてもよいのでしょうか。

【A】 各施設でお決めください。その際、日程が重ならないよう近隣施設との調整をお願いします。

【Q】 キャンペーン期間（9～11月）に行わなければいけませんか。

【A】 一斉に行うことによるPR効果を企図しており、できるだけこの期間での開催をお願いします。

【Q】 施設のある地域の在住者のみを対象とする事業でも参加できますか。

【A】 ご参加いただけます。その場合、参加申込書の該当欄（参加条件）に記載ください。

【Q】 会員以外の事業所との共同（高齢分野以外の施設等との連携を含む）での参加はできますか。

【A】 可能です。ただし申込時の担当施設・事業所名は、協議会の会員施設・事業所名でお願いいたします。

【Q】 事業やイベントの経費負担、ブロック活動助成の活用方法について教えてください。

【A】 事業やイベントの実施にかかる経費は、会員施設・事業所によりご負担ください。
なお、複数の施設・法人での合同事業など区市町村単位・地域ブロック会単位で活動を行う場合には、地域ブロック会活動経費、地域ブロック会協働助成事業をご活用いただくこともできます。その場合には、各地域ブロック会長または事務局までご連絡ください。
キャンペーン全体の広報・PRにかかる経費（キャンペーン紹介パンフレット等）は、東京都高齢者福祉施設協議会が負担します。

【Q】キャンペーン全体のPRはどのように行うのでしょうか。 【A】キャンペーンを紹介するパンフレットを作成の上、施設名や法人名、所在地、参加する事業やイベントに関する情報をまとめて掲載します。また、東京都高齢者福祉施設協議会のHPに掲載する他、行政や団体、メディアにも発信します。	【Q】高齢者福祉施設や社会福祉法人を紹介する市民向けパンフレットを作成する予定はありますか。 【A】東京都高齢者福祉施設協議会でパンフレットを作成の上、キャンペーンにご参加いただける施設にお届けします。イベント当日などに配布いただきながら、都内全体の取り組みとしてご紹介ください。
【Q】キャンペーンのロゴや名称はありますか。それをどのように使うのですか。 【A】チラシやウェブサイト、また職員名刺や広報誌などに記載することで、趣旨に賛同しながら都内の高齢者福祉施設が一丸となって行っている姿を伝えるよう、ロゴマーク使用にご協力願います。HPよりダウンロード可能です。 また事業名称は、キャンペーンの趣旨にご理解をいただきながら、実施施設・事業所で任意に名称を設定いただいてもかまいません。	【掲載例】 つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO 東京都高齢者福祉施設協議会 特別養護老人ホーム ○○苑 地域交流会・介護相談会 11月○○日(○)10時～15時 
【Q】パンフレット以外の広報グッズはありますか。 【A】作成する予定です。参加施設・事業所にはキャンペーン実施前に配布いたします。昨年度は、ミニのぼり、アクティブルぬいぐるみなどを配布しました。また、キャンペーン期間中には、アクティブル着ぐるみを貸し出すこともできます。詳細は、事務局までお問い合わせください。	
【Q】終了後の報告はどのように行うのでしょうか。 【A】事業レポート、活動に関する写真の送付をお願いします。 レポートのフォーマットをHPよりダウンロードの上、作成し、事務局までお送りください。あわせて、HPやFacebook等に掲載可能な写真を1～2枚程度お送りください。レポートにて地域の方々の声、活動をとおして浮き彫りになった福祉課題などについて伝えます。	
【Q】社会福祉法人ではなくてもキャンペーンに参加できますか。 【A】可能です。ぜひご参加ください。	
【Q】キャンペーンの事業に対するリスク対応について。 【A】事故等のリスクへの対応は、各施設・事業所でご対応いただくようお願いします。	
【Q】地域における公益的な取組との違いについて知りたい。 【A】社会福祉法第24条第2項において、「すべての社会福祉法人は、その高い公益性にかんがみ、日常生活又は社会生活上の支援を必要とする者に対して、無料又は低額な料金で、福祉サービスを積極的に提供するように努めなければならない」という責務が課されております。 ＜地域における公益的な取組要件＞ ※詳細は厚生労働省HPをご覧ください ①社会福祉事業または公益事業を行うにあたって提供される「福祉サービス」 ②「日常生活または社会生活上の支援を必要とする者」に対する福祉サービス →心身の状況や家庭環境、経済的な理由により支援を要する者が対象。 ③無料または低額な料金で提供されるもの つながれ ひろがれ ちいきの輪では、地域における公益的な取組も含め、地域住民の暮らしの中での困りごとなど、日々の出来事によりそい、高齢者福祉施設・事業所としてできることから支えていく活動であればどのような事業でも参加いただけます。また、「東京都地域公益推進協議会」（事務局：東社協経営支援担当）とは異なる高齢協独自の取組であり、参加において会費を請求することはございません。	

◎参加申込みについてはHPをご覧ください。

▼東京都高齢者福祉施設協議会HP http://www.tcsww.tvac.or.jp/bukai/kourei/ ※つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO「キャンペーン参加申込ページ」よりお申込みできます。 ホームページのアクセスに必要となるID及びパスワードはいずれも「tkykourei」となります。 ⇒会員のお申込みには会員コードの入力が必須となります。 ※本通知左上または案内メールに記載しています。	東京 高齢協議会 で検索！
--	----------------------

※お申込みはインターネットからのお申込みとなります。その他の方法でお申込みを希望される場合は下記までお問い合わせください。

◎お問合せ先

東京都社会福祉協議会 福祉部 高齢担当(金子・野崎)

TEL：03-3268-7172 FAX：03-3268-0635 メール：kourei@tcsww.tvac.or.jp

つなぐれ ひろぐれ ちいきの輪 in TOKYO 2019 参加状況

1 実施期間

2019年9月1日～11月30日

2 実施状況概要

	今年度	前年度	増減数
申込事業数	118	126	-8
参加団体数	868	917	-49
参加者数	33,748	53,026	-19,278
実施区市町村数	47	47	0

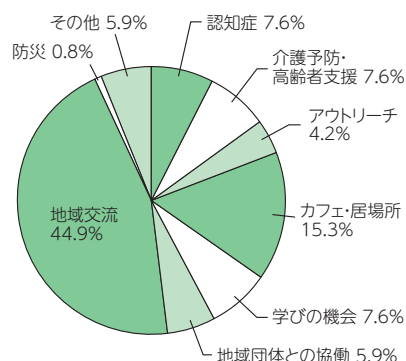
※2019年度については台風等により中止となった事業・イベント複数あり。

※参加者数について、昨年申し込まれていた15,000人規模のイベントが今年度は未参加であったため、表記の数字となる。

3 実施事業内訳

(1) 取組み種別

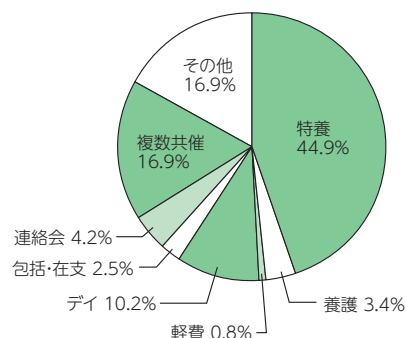
	今年度	構成比	前年度	増減
認知症	9	7.6%	5	4
介護予防や高齢者支援	9	7.6%	14	-5
アウトリーチ(訪問活動)	5	4.2%	3	2
相談や家族支援	0	0.0%	2	-2
カフェや居場所	18	15.3%	18	0
学びの機会	9	7.6%	9	0
地域団体との協働	7	5.9%	9	-2
地域交流	53	44.9%	56	-3
防災	1	0.8%	3	-2
その他	7	5.9%	7	0
合計	118	100.0%	126	-8



※数字は申込時点での数字を計上

(2) 施設・事業所種別

	数(事業)	構成比	前年度	増減
特別養護老人ホーム	53	44.9%	67	-14
養護老人ホーム	4	3.4%	2	2
軽費老人ホーム	1	0.8%	1	0
デイサービスセンター	12	10.2%	15	-3
地域包括支援センター	3	2.5%	6	-3
在宅介護支援センター	0	0.0%	0	0
区市町村施設連絡会	5	4.2%	1	4
複数施設との共催	20	16.9%	15	5
その他	20	16.9%	19	1
合計	118	100.0%	126	-8



※数字は申込時点での数字を計上

(3)地域別

		今年度 事業数	構成比	会員事業 所数 ※	ブロック 内事業数	ブロック内 会員事業所数	昨年度 事業数	増減
中央ブロック	島嶼部	1	0.8%	16	9	129	1	0
	千代田区	1	0.8%	10			0	1
	中央区	1	0.8%	7			1	0
	港区	0	0.0%	18			0	0
	品川区	4	3.4%	30			4	0
	渋谷区	1	0.8%	24			2	-1
	新宿区	1	0.8%	24			2	-1
城北ブロック	文京区	2	1.7%	16	10	107	1	1
	北区	1	0.8%	32			3	-2
	豊島区	5	4.2%	23			8	-3
	板橋区	2	1.7%	36			3	-1
城東ブロック	台東区	2	1.7%	23	9	133	3	-1
	荒川区	1	0.8%	20			1	0
	足立区	6	5.1%	52			4	2
	葛飾区	0	0.0%	38			1	-1
墨東ブロック	墨田区	3	2.5%	25	10	105	3	0
	江戸川区	4	3.4%	38			5	-1
	江東区	3	2.5%	42			1	2
城西ブロック	中野区	1	0.8%	17	10	110	2	-1
	杉並区	4	3.4%	32			4	0
	練馬区	5	4.2%	61			5	0
城南ブロック	大田区	6	5.1%	45	9	106	3	3
	目黒区	1	0.8%	15			2	-1
	世田谷区	2	1.7%	46			4	-2
八王子ブロック	八王子市	3	2.5%	67	3	67	4	-1
南多摩ブロック	日野市	2	1.7%	14	7	90	6	-4
	町田市	3	2.5%	50			3	0
	多摩市	1	0.8%	18			1	0
	稲城市	1	0.8%	8			1	0
	三鷹市	2	1.7%	14			2	0
北南ブロック	調布市	1	0.8%	22	20	146	2	-1
	府中市	3	2.5%	27			2	1
	小金井市	0	0.0%	9			0	0
	国分寺市	1	0.8%	8			1	0
	国立市	1	0.8%	4			1	0
	立川市	2	1.7%	20			3	-1
	昭島市	6	5.1%	12			6	0
	狛江市	0	0.0%	8			0	0
	東大和市	3	2.5%	12			2	1
	武蔵村山市	1	0.8%	10			1	0
	武蔵野市	2	1.7%	23			2	0
北北ブロック	小平市	1	0.8%	16	15	111	1	0
	東村山市	6	5.1%	21			6	0
	西東京市	0	0.0%	28			0	0
	東久留米市	5	4.2%	11			5	0
	清瀬市	1	0.8%	12			1	0
	瑞穂町	5	4.2%	8			2	3
青梅ブロック	青梅市	0	0.0%	32	6	49	2	-2
	奥多摩町	0	0.0%	5			0	0
	羽村市	1	0.8%	4			1	0
	あきる野市	4	3.4%	20			3	1
秋川ブロック	日の出町	3	2.5%	11	9	43	4	-1
	松原村	0	0.0%	2			0	0
	福生市	2	1.7%	10			1	1
	その他	1	0.8%	0			0	1
合計	47	118	100.0%	1196	118	1196	126	-8

※会員事業所数、ブロック内会員事業所数は2019年4月現在

つなぐれ ひろぐれ ちいきの輪 in TOKYO 2019 施設・事業所の合同実施状況

事業・イベント名	中延複合施設 地域防災			品川区	
主催団体名	品川区立中延複合施設	開催日時	10/26	10：00～11：30	
参加団体	4 団体				
	都営住宅住民、品川区立中延在宅サービスセンター 品川区立中延在宅支援センター、品川区立中延特別養護老人ホーム				
テーマ	防災	参加述べ人数	30 名	取組み紹介	P48

事業・イベント名	アクティブ介護 2019			文京区	
主催団体名	アクティブ介護 2019 実行委員会	開催日時	12/17 10:00～16:00		
参加団体	31 団体				
	文京区役所、文京区社会福祉協議会、文京くすのきの郷、文京白山の郷、文京千駄木の郷、ゆしまの郷、洛和ヴィラ文京春日、文京大塚高齢者在宅サービスセンター、文京湯島高齢者在宅サービスセンター、文京くすのき高齢者在宅サービスセンター、文京向丘高齢者在宅サービスセンター、文京白山高齢者在宅サービスセンター、文京昭和高齢者在宅サービスセンター、文京本郷高齢者在宅サービスセンター、文京千駄木高齢者在宅サービスセンター、ケアワーク弥生、ユアハウス弥生リハビリ道場、老松ケアサービス トチギ介護サービス、小石川医師会居宅介護支援事業所、ローズケア、アドワンスサポートコスモス、小石川みやびの郷、アリア文京大塚 ミニケアホームきみさんち、パナソニックエイジフリー介護チェーン城北、社の癒しハウス・文京関口、音羽えびすの郷、ネクスコート本郷、アズハイム文京白山、リーベ訪問看護リハビリステーション、ホスピタルメント文京弥生、東京都理学療法士協会文京支部				
テーマ	地域団体との協働	参加述べ人数	956 名	取組み紹介	P52

事業・イベント名	コスモス老人福祉施設　納涼祭				江東区	
主催団体名	社会福祉法人江東ことぶき会 コスモス老人福祉施設		開催日時	8 / 4　11：00～16：00		
参加団体	3団体					
	①コスモス老人福祉施設（特別養護老人ホームコスモス、コスモス短期入所施設、コスモス高齢者在宅サービスセンター、グループホームこすもす、ケアハウスこすもす、大島東長寿サポートセンター）のご利用者・ご家族・職員 ②ボランティア（雲龍太鼓・浴衣着付け・個人）					
テーマ	地域交流		参加述べ人数	546名	取組み紹介	P78

事業・イベント名	コスモス老人福祉施設 認知症サポーター養成講座・施設見学会			江東区	
主催団体名	社会福祉法人江東ことぶき会 コスモス老人福祉施設	開催日時	11/17 13：30～15：30		
参加団体	1 団体				
	①コスモス老人福祉施設（特別養護老人ホームコスモス、コスモス短期入所施設、コスモス高齢者在宅サービスセンター、グループホームこすもす、ケアハウスこすもす、大島東長寿サポートセンター）のご利用者・ご家族・職員 ②地域の方				
テーマ	認知症	参加述べ人数	19 名	取組み紹介	P79

事業・イベント名	浴風会つながるフェスタ			杉並区		
主催団体名	社会福祉法人 浴風会		開催日時	10/19 10：00～16：00		
参加団体	66 団体					
	<協賛> (医) ウイスタリア歯科クリニック、(株)ヴァンクール、(株)SLC、エームサービス(株)、(株)大塚商会、(株)オオノプラザ薬局、環境管理(株)、(株)クリニコ、(株)グリーンヘルスケアサービス、(医) 恵安会日大通り歯科医院、ケンコーマヨネーズ(株)、(株)光洋 (有)黒光商事、(有)サガミ・ミート、三機工業(株)、(有)新日本総合インテリア、(有)新和印刷、(株)杉田フューネス、第一生命保険(株)、(福)東京リハビリ協会、(株)トーカイ、東京パック(株)、東洋羽毛首都圏販売(株)、(有)内藤電気商会、日京クリエイト、日清オイリオグループ(株)、日本エンゼル(株)、白十字(株)、箱根植木(株)、(株)パインメディカル、(株)ピアノ、フォワード 98 (株)スマイルケア西東京、(医) プラスアルファあべ歯科クリニック、プルデンシャル生命保険(株)、HONGKONG DINING 彩、ミサワホーム(株)、(医)明法会、(株)ユリクリエイト (50 音順) <協力>社会福祉法人新の会はあと・ふる・えりあ、社会福祉法人いたるセンター 阿佐谷福祉工房・パン工房 PukuPuku、井の頭管弦楽団有志、社会福祉法人かたつむり会ワークショップ・かたつむり、グループあさがや、工房ラルゴ (とうふ屋らるご)、社会福祉法人 JHC 赤・JHC 板橋会、下北沢一番街やっこ連、NPO 法人障害者就労支援センターどんまい福祉工房、杉並区スポーツ推進委員チーム井の頭線、杉並区立富士見丘中学校、杉並区成年後見センター、smile girls、一般社団法人セーフティネットリンケージ、高井戸警察署、高井戸こだま会、TAKANI チアダンス、手づくり工房結、社会福祉法人同愛会あすなろ作業所、東京都立永福学園、日本ユニバーサルボッチャ連盟、認知症介護家族会よくふう語ろう会、ビバ太極拳、プリムラ、学校法人 古屋学園 (二葉栄養専門学校・二葉製菓学校)、NPO 法人プロップK (順不同)					
テーマ	地域交流		参加述べ人数	600 名	取組み紹介	P82

事業・イベント名	第 4 回八王子介護フェア				八王子市	
主催団体名	偕楽園ホーム、ファミリーマイホーム、多摩特養老人ホーム		開催日時	10/20	10：00～14：30	
参加団体	33 団体					
	【共催】 滝山会（高齢者あんしん相談センター左入、高月病院、三愛病院、相武病院、登芙喜心成苑） 【後援】 八王子市、八王子ブロック施設長会、八王子市社会福祉協議会、公益財団法人八王子市学園都市文化ふれあい財団、加住地区住民協議会、東京都高齢者福祉施設協議会 【協力機関】 19 団体					
テーマ	地域交流		参加述べ人数	320 名	取組み紹介	P98

事業・イベント名	もみじ祭り				八王子市	
主催団体名	清明園・浅川ホーム		開催日時	11/22	10：30～14：30	
参加団体	2団体					
	東京ミュージックボランティア					
テーマ	地域交流		参加述べ人数	63名	取組み紹介	P100

事業・イベント名	楽友祭				多摩市	
主催団体名	社会福祉法人 楽友会		開催日時	11/17 10：00～15：00		
参加団体	11 団体					
	草むらの会、松ヶ谷高校ダンス部、多摩中央警察署、ウィズ町田なないろ、アンドファーム・ユギ、首都大学ボランティアセンター、サレジオ工業高等専門学校吹奏楽部、コーラスつばさ、唐木田児童館、南鶴牧学童クラブ、地域ボランティアの皆様					
テーマ	地域交流		参加述べ人数	300 名	取組み紹介	P104

事業・イベント名	安立園盆踊り大会				府中市	
主催団体名	社会福祉法人 安立園		開催日時	8/23	18：00～20：00	
参加団体	5団体					
	安立園特別養護老人ホーム、養護老人ホーム安立園、安立園在宅ケアセンター、晴見保育園、サ高住さんぽ道					
テーマ	地域交流		参加述べ人数	248名	取組み紹介	P110

事業・イベント名	緑苑・安心シニア塾【専門講座】				府中市	
主催団体名	養護老人ホーム信愛寮		開催日時	10/10、10/24、 11/ 7、11/21、 12/ 5、12/19 各日講座は 10：30 ～ 12：00。 講座終了後の交流会は 12：45 ～ 14：00		
参加団体	3 団体					
	泉苑、あさひ苑					
テーマ	学びの機会		参加述べ人数	293 名	取組み紹介	P111

事業・イベント名	第7回フェローホームズ秋祭り				立川市	
主催団体名	社会福祉法人恵比寿会		開催日時	10/26 10：30～14：30		
参加団体	10 団体					
	西立商店街振興組合、特養「仲間の家」「森の家」「高松の家」、グループホーム「ヴィラフェローホームズ」、富士見町地区「富士見 YOSAKOI」「いっしょう太鼓」 ヒップホップダンスチーム「FAMI」 シャンソン歌手「YU-ME」、ネイル「加藤」など					
テーマ	地域交流		参加述べ人数	500 名	取組み紹介	P114

事業・イベント名	立川オールデイズ物語カフェ				立川市	
主催団体名	社会福祉法人恵比寿会		開催日時	2019 年度 5 ～ 12 月に実施。 2020 年 1 ～ 3 月にも実施予定		
参加団体	2 団体					
	立川市社会福祉協議会、立川市役所柴崎学習館					
テーマ	カフェ・居場所		参加述べ人数	105 名	取組み紹介	P115

事業・イベント名	昭和郷「納涼の夕べ」				昭島市	
主催団体名	東京同胞援護会 昭和郷 特別養護老人ホーム フジホーム		開催日時	7/25 18：00～20：00		
参加団体	4団体					
	社会福祉法人東京都同胞援護会 昭和郷内各施設					
テーマ	地域交流		参加述べ人数	300名	取組み紹介	P119

事業・イベント名	社会福祉法人ゆりかご会感謝祭				昭島市	
主催団体名	社会福祉法人 ゆりかご会 協賛：社会福祉法人ゆりかご会 後援会		開催日時	11/30 10:00 ～ 15：00		
参加団体	12 団体					
	社会福祉法人ゆりかご会本部、ゆりかご保育園、特別養護老人ホームもくせいの苑、昭島ゆりかご第二保育園、高齢者在宅部グループホーム・デイサービス・こでまりの苑、やまぶきの苑					
テーマ	地域交流		参加述べ人数	300 名	取組み紹介	P120

事業・イベント名	お年寄りの手作り作品展				東村山市	
主催団体名	東村山市高齢者施設連絡会	開催日時	10/ 4 10/ 6	9：00～16：00 9：00～15：00		
参加団体	18 団体					
	東村山市高齢者福祉施設連絡会					
テーマ	地域交流	参加述べ人数	725 名	取組み紹介	P128	

事業・イベント名	東村山市内社会福祉法人連絡会 パネル展				東村山市	
主催団体名	東村山市内社会福祉法人連絡会	開催日時	10/22 13：00～16：00 10/23～31 9：00～16：00 11/ 1 9：00～12：00			
参加団体	23 団体					
	東村山市内社会福祉法人連絡会					
テーマ	その他	参加述べ人数	293 名	取組み紹介	P129	

事業・イベント名	オープン施設見学会			東村山市	
主催団体名	東村山市内社会福祉法人連絡会	開催日時	9/ 2～11/15 各 11：00～15：00		
参加団体	13 団体				
	敬愛の森、救護施設村山荘、八国山保育園、花さき保育園、福祉事業センター、グループホームはぎやまハウス、白十字ホーム、ハトホーム、平成の里、久米川保育園、青葉の森、救護施設さつき荘、あゆみの家成人部ひまわり				
テーマ	その他	参加述べ人数	5 名	取組み紹介	P130

事業・イベント名	市民に向けたイベントの開催				東村山市	
主催団体名	東村山市内社会福祉法人連絡会	開催日時	9/ 7～11/30 各 10：00～15：30			
参加団体	7 団体					
	東村山市内社会福祉法人連絡会 会員 敬愛会、はるび、東京コロニー、村山苑、土の根会、白十字会、天童会					
テーマ	地域交流	参加述べ人数	1000 名	取組み紹介	P131	

事業・イベント名	介護の日フェア 2019				東久留米市	
主催団体名	東久留米市介護サービス事業者協議会	開催日時	11/11 10：00～17：00			
参加団体	33 団体					
	高齢者福祉施設、居宅介護事業所、通所介護、訪問介護、訪問入浴、グループホーム、福祉用具、配食、訪問看護 等 市内の介護サービス事業所					
テーマ	学びの機会	参加述べ人数	250 名	取組み紹介	P135	

事業・イベント名	ふれあいバザー				清瀬市	
主催団体名	社会福祉法人慈生会 聖家族ホーム・聖ヨゼフ老人ホーム		開催日時	11/ 3 10：00～14：00		
参加団体	12 団体					
	ボランティア（秋津教会、小平教会、東星学園等）よさこいソーラン清瀬、マ・メゾン光星、どんぐり、ボーイスカウト清瀬第2 団、ホームケアセンターイワサキ、聖ヨゼフ老人ホーム職員 OB、河野屋、慈生会本部、すばる、バオバブ					
テーマ	地域交流		参加述べ人数	500 名	取組み紹介	P139

事業・イベント名	介護職カフェみずほ				瑞穂町	
主催団体名	瑞穂町有志の会		開催日時	9/21 18:00～20:00		
参加団体	2団体					
	社会福祉法人梅の樹会フラワープラム・二本木交茶店（地域密着型通所介護）					
テーマ	その他		参加述べ人数	38名	取組み紹介	P143

事業・イベント名	介護サービス普及啓発イベント「介護の日」				あきる野市	
主催団体名	あきる野市、あきる野市地域包括支援センター、あきる野市介護事業者連絡協議会		開催日時	11/ 9 10：00～16：00 プレイベント：11/ 1～11/ 8 ※市役所閉庁日は除く ※ 11/ 1は13：00～、 11/ 8は12：00 まで		
参加団体	121 団体					
	あきる野市、あきる野市地域包括支援センター（3 センター） あきる野市介護事業者連絡協議会（会員事 117 事業所）					
テーマ	地域団体との協働		参加述べ人数	1150 名	取組み紹介	P148

事業・イベント名	産業まつりでつながれひろがれ日の出町の輪 Supported by 日の出町ハートワークフェア				日の出町	
主催団体名	栄光の杜、藤香苑、ひのでホーム		開催日時	11/ 2 10：00～16：00 11/ 3 10：00～15：00		
参加団体	3 団体					
	栄光の杜、藤香苑、ひのでホーム					
テーマ	地域交流		参加述べ人数	1500 名	取組み紹介	P152

事業・イベント名	過疎地域でのボランティア活動				その他	
主催団体名	社会福祉法人 善光会	開催日時	9/18 13：00～16：00 10/ 2 9：30～11：30 11/ 7 9：30～16：00 11/13 9：30～16：00			
参加団体	4 団体					
	茂木町社会福祉協議会、茂木町役場、茂木町民生委員、社会福祉法人善光会					
テーマ	アウトリーチ	参加述べ人数	58 名	取組み紹介	P157	

広報グッズ紹介

1 ログマーク

各施設がキャンペーンの一環として都内全域で取組んでいることをPRするためのログマークです。東京の街並みや暮らす人を1つの輪にすることで「ちいきの輪」を表しています。パンフレット、名刺、ホームページなど様々な用途に活用いただきました。



2 パンフレット

キャンペーンの趣旨や今年度の実施施設・事業所の取組みを1枚のパンフレットにまとめました。

表紙のイラストには、「誰もが気軽に立ち寄れる場」「地域によりそう場」「様々な高齢者福祉施設の活動の姿」イメージが込められています。高齢者福祉施設の取組みについて知っていただく機会に都内の関係団体や実施施設・事業所のかかわりのある住民に向けて配布を行いました。



3 クリアファイル

各施設・事業所の取組みの会場にて配布し、キャンペーンのPRをするグッズとして、今年度新しくつくりました。キャンペーンの取組み以外でも配布できるように手に取りやすいデザインとなっています。

4 のぼり

各施設・事業所の取組みの会場に置いてキャンペーンのPRをするグッズ。高齢者施設や社会福祉法人が暮らしの困りごとを気軽に相談できるところであることも伝えています。

5 アクティブルぬいぐるみ

東京都高齢者福祉施設協議会のマスコットキャラクターのぬいぐるみ。今年はキャンペーンのテーマカラーのオレンジ色のTシャツを着ています。のぼりと一緒に各施設の取組み会場に置いてキャンペーンのPRに活用いただきました。



広報ツール紹介

1 キャンペーン特設サイト

東京都高齢者福祉施設協議会のウェブサイト内に特設コーナーにて、今年度のキャンペーンの実施状況、これまでの開催状況など1年を通じてキャンペーンを知る機会として作成しました。

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYOキャンペーン特設サイト
<https://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/tiikinowa/index.html>



2 Facebook

キャンペーン期間中、東京都高齢者福祉施設協議会のFacebookページに施設・事業所の各地域の取組み状況について随時掲載しました。

3 東京新聞の広告掲載

キャンペーン開始時期である9月上旬に、東京新聞に東京都高齢者福祉施設協議会の全面広告としてキャンペーンの紹介、取組みを実施している施設・事業所一覧の掲載を行いました。



4 つなひろ通信

キャンペーンの進捗状況を都内の高齢者施設や都民の方に定期的に伝えるものとして発行しました。今年度もつながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO のキャンペーンを企画・運営を担当するワーキングチームのメンバーに見学会の様子を紹介していただきました。実践で取組まれている視点から感じたことや考えたことをまとめ、伝えています。

2019年6月25日号(送信枚数:全1枚)

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO ニュース

つなひろ通信 vol.1



東社協 東京都高齢者福祉施設協議会(企画実施担当・つながれひろがれちいきの輪 inTOKYO W T)

●このニュースは、東社協 東京都高齢者福祉施設協議会の会員施設・事業所である養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、軽費老人ホーム(ケアハウスを含む)、デイサービスセンター、地域包括支援センター、在宅介護支援センターにお送りしています。

トピックス

申込期間延長! 7/9まで! ~申込状況を公開~

今年度で4年目を迎える、地域によりそう活動に取り組むキャンペーン「つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO」(9~11月開催予定)には、22の区市町村から37の事業がお申し込みをいただいております。現在の申込状況は右の通りです。

今回、すでに参加お申し込みをいただいている施設・事業所は、下記のような、事業でエントリーされています。

- ・すでに行っている取組み
(施設のお祭りや敬老の日のイベントなど)
- ・昨年度以前キャンペーンに参加した取組み
※9~11月の期間外の事業もお申込みいただけます。事務局にご相談ください。

●事業・イベント種別について(複数回答) n=37

事業・イベント種別	申込数	構成比
認知症	5	13.5%
介護予防や高齢者支援	3	8.1%
アウトリーチ(訪問活動)	1	2.7%
相談や家族支援	0	0.0%
カフェや居場所	6	16.2%
学びの機会	4	10.8%
地域団体との協働	2	5.4%
地域交流	16	43.2%
防災	0	0.0%
その他	0	0.0%

今回のお申込み状況を見ると、事業・イベント種別については「地域交流活動」のお申し込みが目立ちました。また、複数施設共催でのキャンペーン参加も複数お申込みいただいております。

今年度の申込については申込期間を6月28日から7月9日まで延長しました! キャンペーンに参加する事業は大規模、小規模問わずどんなものでも構いません! 各施設の地域をつなぐ取組みをぜひキャンペーンとして都内に一斉PRしませんか? 開催内容が一部未確定でもお申込みできます! みなさまの力でキャンペーンを盛り上げましょう! エントリーお待ちしております!



▼キャンペーンの詳細・お申込みはこちらから

<http://www.tcsww.tvac.or.jp/bukai/kourei/>

※会員向けメールでもご案内しております。

東京 高齢協議会 で検索!

※申込フォームは、「つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO」の「参加施設・事業所専用ページ」にあります。

研修会「日々の業務の中にある地域とつながるためのヒント」実施



研修会の様子。先生からのお話や参加者の方同士の情報共有の中から、様々なヒントを得ることができました。

6月5日、つなひろキャンペーンの一環として研修会を開催しました。文京学院大学の中島修先生を講師としてお招きし「日々の業務の中にある地域とつながるヒント」をテーマにご講演いただきました。地域共生社会の実現に向け、社会福祉施設としてどう関わって行くのか? 何から手をつければ良いのか? 具体的な行動が描けずにはいたのですが、サービスを提供している利用者の家族や隣近所へ目を向け、そこにあるニーズをつかむことから始められると気づき少しハードルが下がった気がしました。

またグループ毎の情報交換では、お互いの事業所の取組を話したり、パワーアップのヒントを出し合ったりと活発な意見が飛び交い、それぞれの事業所で「地域とつながる」ために色々な工夫をしているのだと実感した研修会でした。

殆どの事業所が地域と繋がる一歩を踏み出していました。そこから更に「大きな輪」に繋がると良いですね。今年の『つなひろ』も楽しみます!

送信元

社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 福祉部 高齢担当
TEL:03-3268-7172 / FAX:03-3268-0635 / E-mail: kourei@tcsww.tvac.or.jp



○本年度も100施設・事業所以上のご参加をいただけたらうれしいです。各施設や地域ブロック等からの皆様のご参加とご協力をよろしくお願いいたします!

つなぐれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO ニュース

つなひろ通信 vol.2



東社協 東京都高齢者福祉施設協議会(企画実施担当・つなぐれひろがれちいきの輪 in TOKYO W T)

●このニュースは、東社協 東京都高齢者福祉施設協議会の会員施設・事業所である養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、軽費老人ホーム(ケアハウスを含む)、デイサービスセンター、地域包括支援センター、在宅介護支援センターにお送りしています。

トピックス1 9月1日キャンペーン開始!—ホームページに開催情報掲載

本年度の「つなぐれひろがれちいきの輪 in TOKYO 2019」は、都内47の区市町村で、118事業の参加により、9月1日にスタートしました。今年度も多くの申込をいただき盛り上がりを見せています。

キャンペーンの詳細は、下記ウェブサイトをはじめ、パンフレットなどによりご覧いただけます。なお、掲載情報に変更がある場合、下記宛にご連絡ください。

また、地域に寄り添うためのヒントを得る機会として、エントリーのあった事業所の取組みの見学会を実施予定です。見学会以外の個別の見学希望や活動に関するご相談も、下記の事務局までお問い合わせください。

●事業・イベント種別について(複数回答) n=118

事業・イベント種別	申込数	構成比
認知症	9	7.6%
介護予防や高齢者支援	9	7.6%
アウトリーチ(訪問活動)	5	4.2%
カフェや居場所	18	15.2%
学びの機会	9	7.6%
地域団体との協働	7	5.9%
地域交流	53	44.9%
防災	1	0.8%
その他	7	5.9%

トピックス2 9月6日(金)キックオフ記者会見を実施しました!

いよいよ今年も『つなぐれ ひろがれ ちいきの輪』がスタートしました! キックオフイベントとして、江戸川区の、なぎさ音楽苑「なぎさ☆キッチン」の見学会に参加しました。

キャンペーン開催にあたり、つなひろワーキングチーム リーダーの今さん(秋川あすなろ会理事長)より、キャンペーンの目的や取組状況について説明がありました。当日は報道関係者も集まり、多数の質問が寄せられ、地域福祉推進における社会福祉法人への期待の高さが感じられました。

「なぎさ☆キッチン」では、大勢の人で賑わう「地域の食堂」を見学することが出来ました。こども食堂ではなく、パパ・ママや高齢者も参加可能としていることから、多世代交流の場として地域の方の楽しみへ繋がっているようです。交流を広げるため、相席となるようにテーブルの配置を工夫し、定員は定めず来場者が多い時は譲りあいながら席についているとのことでした。子供100円、大人300円、笑顔があふれる素敵な食堂でした。



※9/1 現在の予定です。見学先の追加、時間の変更などある場合がございます。詳細は別途案内いたします。

見学会開催予定

中延総合施設くつろぎ祭り(品川区)

中延総合施設
10/12 10:00~ 開催

カレーライスや焼きそばなど施設自慢の食事や、ご利用者が育てた草花を使用した園芸品の販売を行います。お祭りの終盤の地域の方と共に汗なう盆踊りの迫力は圧巻です。地域の方と施設入所者の交流、施設に対する理解を深めていただくための地域交流事業です。

屋上菜園を通しての交流(台東区)

フレスコ浅草
11/9 14:00~ 開催

施設の屋上に菜園をつくり近隣の子育てファミリーと野菜、果物を育て、世代間交流を実施している。土、作物に触れる機会の少ない子どもたちにとって良い体験の場となっています。

▼キャンペーンの詳細・お申込みはこちらから

<http://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/>

※会員向けメールでもご案内しております。

東京 高齢協議会 で検索!

※申込フォームは、「つなぐれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO」の「参加施設・事業所専用ページ」にあります。



社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 福祉部 高齢担当

TEL:03-3268-7172 / FAX:03-3268-0635 / E-mail: kourei@tcsw.tvac.or.jp



○各施設や地域でのキャンペーン周知に協力をお願いします。ご希望の施設・事業所にはパンフレットやグッズを追加で送付することができます。送信元までご相談ください。

2019年12月10日号(送信枚数:全1枚)

つなぐれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO ニュース

つなひろ通信 vol.3



東社協 東京都高齢者福祉施設協議会(企画実施担当・つなぐれひろがれちいきの輪 in TOKYO W T)

●このニュースは、東社協 東京都高齢者福祉施設協議会の会員施設・事業所である養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、軽費老人ホーム(ケアハウスを含む)、デイサービスセンター、地域包括支援センター、在宅介護支援センターにお送りしています。

トピックス

屋上菜園を通しての交流 フレスコ浅草 見学会

『屋上の一角に小さな畑が出現!』

木枠で出来たお洒落なプランターが2つ、屋上のスペースを上手に使って、色々な野菜を栽培していました。

見学会が行われた日は、入所者の皆さんが丹精込めて育てた野菜を、近隣の子供たちが収穫に訪れていました。「抜けない!」「重い!」。プランターから大根が掘り出されると、子供たちは笑顔で「わ〜」と歓声を上げ、その様子を入所者の皆さんは暖かい眼差しで見守っていました。

その後の交流会では、収穫した野菜を使って『お鍋』を作りました。包丁を持つ手が危なっしく、見ている大人(利用者)はハラハラ・ドキドキです。「あっ危ない!」「ケガしないでよ」と子供たちを気遣い、声をかけている姿は、孫の面倒を見ているかの様でした。

冬が近づく寒い日でしたが、出来上がったお鍋を囲み、お腹も・心も温まったひと時でした。

ちょっとした工夫で素敵な交流が出来るんですね♡



お知らせ

令和2年1月10日(金) つなひろ実践報告会開催!!

昨年度に引き続き今年も開催します! だれもが安心して暮らせるまちづくりのため、都内の各地域の高齢者福祉施設では、地域の様々な方とともに、福祉や介護サービスが必要な高齢者だけではなく、地域によりそう幅広い取組を展開しています。最初のきっかけは何だったのか、まずやってみたことは、施設内や地域への理解をどう広げてきたか—実際の取組をひも解きながら、多様な地域の方々が地域の一員として明日からできることを一緒に考える機会にします。

実践報告会「だれもが安心して暮らせるために地域でできること」

日時: 令和2年1月10日(金) 14:00~17:00(受付 13:30~)

会場: TYP 市ヶ谷カンファレンスセンター ホール3A

※詳細は下記ホームページより開催要項をご確認ください!!



お願い

事業レポートの提出について(キャンペーン参加施設向け)

提出いただいたレポート・写真は、今後作成予定の報告書、高齢協 Facebook ページなどに掲載を予定しております。提出期限は12月5日までとなっていました。まだお提出されていない施設様におかれましては、お早めにご提出ください。

※詳細・レポートフォーマットは高齢協HP「つなぐれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO」の「参加施設・事業所専用ページ」よりダウンロードできます。

▼キャンペーンの詳細はこちらから

<http://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/>

※会員向けメールでもご案内しております。

東京 高齢協議会 で検索!

※申込フォームは、「つなぐれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO」の「参加施設・事業所専用ページ」にあります。

送信元

社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 福祉部 高齢担当

TEL:03-3268-7172 / FAX:03-3268-0635 / E-mail: kourei@tcsw.tvac.or.jp



○各施設や地域でのキャンペーン周知にご協力お願いします。ご希望の施設・事業所にはパンフレットやグッズを追加で送付することができます。送信元までご相談ください。

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO ニュース

つなひろ通信 vol. 4

東社協 東京都高齢者福祉施設協議会(企画実施担当・つながれひろがれちいきの輪 inTOKYO WT)

◎このニュースは、東社協 東京都高齢者福祉施設協議会の会員施設・事業所である養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、軽費老人ホーム(ケアハウスを含む)、デイサービスセンター、地域包括支援センター、在宅介護支援センターにお送りしています。

トピックス

実践報告会 開催～誰もが安心して暮らせるために地域でできることは

1月10日(金)に「実践報告会 だれもが安心して暮らせるために地域でできること」を実施し、約70名が参加。昨年を上回る盛り上がりを見せました。

初回は3団体共催、参加者110人から始まり、4回目で33団体共催、参加者320人まで広がった「八王子介護フェア」、施設が地域の子どもから高齢者まで誰もが集まれる場となっている「なぎさ☆キッチン」、土の無い都会で施設の屋上に菜園をすることで子どもたちと高齢者の世代間交流を行っている「屋上菜園を通しての交流」、地域密着型プロサッカーチームと開催している認知症カフェ「ビタミンカフェのつた」の4つの実践報告を受け、文京学院大学中島先生により地域での取組みのポイントを10個にまとめて説明いただき、とても学びの多い時間となりました。

グループワークでは様々な立場の参加者が積極的に情報交換を行っており、今後の取組みに活かせるヒントが数多くあったのではないのでしょうか。



▼キャンペーンの詳細はこちらから

<http://www.tcswwt.ac.jp/bukai/kourei/>

※会員向けメールでもご案内しております。

東京 高齢協議会 で検索!

キャンペーン実施状況

◇実施状況概要 ※1月23日時点

参加事業所数	118
参加団体数	775
参加者数	26,436
実施区市町村数	48

※複数事業が台風の影響により中止。

※今後変動の可能性あり

◇参加施設・事業所種別

特別養護老人ホーム	53	44.9%
養護老人ホーム	4	3.3%
軽費老人ホーム	1	0.9%
デイサービス	12	10%
地域包括支援センター	3	2.5%
区市町村施設連絡会	5	4.3%
複数施設共催	20	17%
その他	20	17%

お知らせ

2020年度キャンペーンに向けて

WT では今年度の取組みをまとめた報告書の作成と次年度のキャンペーン事業に向けて準備を進めています。2020年5月よりエントリー施設の募集を開始する予定です。詳細が決定次第ご案内いたします。

つなひろワーカーチームメンバー大募集!!

～都内の取組みに出会い、つながるしかけづくりの力に～

キャンペーンを進めていくために一緒に企画を検討していただける方を募集しています。

<活動内容>

◇施設・事業所の地域に根付いた活動の都内全域の周知活動や活動にかかわる方の学びの機会に関する企画運営。

◇年4回の委員会でキャンペーン企画検討、年3回程度のイベント(研修会、見学会、報告会等)の実施。

<対象>

東京都高齢者福祉施設協議会の会員事業所の職員で地域に寄り添う活動にかかわった経験のある方。

<申込>

別添のチラシをご参照の上送信元へお問い合わせください。

送信元

社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 福祉部 高齢担当

TEL:03-3268-7172 / FAX:03-3268-0635 / E-mail: kourei@tcswwt.ac.jp



○各施設や地域でのキャンペーン周知にご協力をお願いします。ご希望の施設・事業所にはパンフレットやグッズを追加で送付することができます。送信元までご相談ください。

つなぐれ ひろぐれ ちいきの輪 in TOKYO ワーキングチーム 委員募集

つなぐれ ひろぐれ ちいきの輪 in TOKYO ワーキングチームでは、いっしょにキャンペーンをすすめていくために企画を検討していただける方を募集します。対象は東京都高齢者福祉施設協議会の会員事業所の職員になります。ご興味がある方は、下記に施設・事業所名とお名前、ご連絡先をご記入の上、FAX・メールにてお送りください。

* 必要に応じてご所属の法人代表や事業所長に派遣依頼等を作成いたします。

2019 年度ワーキングチームの取組

- ・ 年 4 回の委員会の開催 ・ キャンペーングッズ、パンフレット、報告書の企画作成
- ・ キャンペーン参加施設見学会や説明会・実施報告会の企画運営 など



研修会 グループワークに入って一緒に考えることも！



見学会 実際に目で見て地域の実践を学べる場をつくりました

地域によりそう実践から、都内の高齢者福祉施設などが福祉や介護サービスが必要な高齢者だけではなく、だれもが安心して暮らせるまちづくりのためにできることは何か、を日頃から考えて取り組んでいます。

自施設・事業所の取組につなぐヒントを得られるチャンスに、和気あいあいとした雰囲気の中で情報交換をしながら、キャンペーンの企画内容の検討やイベントの運営一緒にしてみませんか。みなさまのご参加お待ちしております。

地域の活動を支える
仲間づくりや
他施設のアイデアを知る機会に！
ぜひ一緒にキャンペーンを
支えてほしいブル！



■お問合せ先

東京都社会福祉協議会 福祉部 高齢担当 (金子・野崎)

TEL : 03-3268-7172 FAX : 03-3268-0635 メール : kourei@tcs.wtvc.or.jp

つなぐれ ひろぐれ ちいきの輪 in TOKYO WT 委員参加希望

事業所名 : _____ お名前 : _____

TEL : _____ FAX : _____

Mail : _____

東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会
2019年度 つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO ワーキングチーム 名簿

No.	所属	氏名
1	あすなろみんなの家	今 裕司
2	光風荘	大脇 秀一
3	品川区立中延特別養護老人ホーム	小山 正子
4	高田介護予防センター	相澤 和彦
5	東大和市高齢者ほっと支援センターいもくぼ	長谷川栄司
6	特別養護老人ホーム ハートハウス成城	羽鳥 和樹
7	東久留米市中部包括支援センター	石田 誠
8	府中市地域包括支援センターあさひ苑	清野 哲男
9	偕生園	樋熊さとみ
10	東京都民生児童委員連合会	色部 陽
11	東京ボランティア・市民活動センター	榎本 朝美

※2019年4月時点

東京の高齢者福祉施設による、地域によりそうキャンペーン つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO 2019 報告書

2020年5月発行

編 集 東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会

発行者 東京都社会福祉協議会

〒162-8953 東京都新宿区神楽河岸1-1

TEL 03-3268-7172 FAX 03-3268-0635

<http://www.tcsw.tvac.or.jp>
